

NECパーソナルコンピュータ  
PC-9800シリーズ

NEC

# Software Library

日本語入力ガイド



# Software Library

日本語入力ガイド

#### ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしました。が、万一御不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら御連絡下さい。
- (4) 運用した結果の影響について(3)項にかかわらず責任を負いかねますので御了承下さい。

© 1988 NEC Corporation

MS-DOS, MS OS/2は米国マイクロソフト社の商標です。

#### 輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は、外国為替および外国貿易管理法の規定により、戦略物資等輸出規制品に該当します。従って、日本国外に持出す際には日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

# はじめに

本書は、NEC PC-9800 シリーズで共通に使用できる日本語入力機能の解説書です。

## ■本書の構成と利用方法

本書は第1部から第3部および付録から構成されています。

**第1部**は初めて日本語入力機能を使う方に読んでいただきたい解説です。日本語入力の基礎的な操作を実際の操作を通して学んでください。

**第2部**は日本語入力機能のさまざまな機能を、操作を通して解説します。この部では必要な項目だけを選択して利用してください。

第1章では日本語入力画面、操作キーについて、第2章では日本語入力モードについて解説します。第3章と第4章では文字のタイプ方法について解説します。第5章では郵便番号や特殊記号などが変換できる便利な変換機能を解説します。第6章は辞書への単語登録、削除操作、第7章では変換方式や辞書ファイルなどの設定状態の表示や設定の指定方法を解説します。

- 第1章 ……日本語入力画面とガイドライン表示
- 第2章 ……日本語入力機能のモード
- 第3章 ……漢字文字のタイプ方法
- 第4章 ……いろいろな文字のタイプ方法
- 第5章 ……機関名や郵便番号など便利な変換方法
- 第6章 ……辞書への単語登録、削除機能
- 第7章 ……設定状態の表示と変更

**第3部**は日本語入力機能を使う上で知っておくと便利な方法について解説します。第1章では4つの変換方式の違いを、第2章では、学習機能と先読み機能の解説をします。また、第3章では日本語入力機能を使うために必要なシステムへの指定方法を説明します。

- 第1章 ……4つの変換方式（逐次変換／連文節変換／単文節変換／JIS 16進コード変換）  
の違い
- 第2章 ……学習機能、先読み機能の解説
- 第3章 ……日本語入力機能を使うために必要なシステムへの指定

巻末に次のような付録を用意しました。

640 K バイトタイプシステムディスクをお使いの方は、必ず付録 E をご覧ください。

- 付録 A ローマ字入力のルール表
- 付録 B カナ入力のルール表とキー配置図
- 付録 C 部首の読みと記号表
- 付録 D 漢字コード表
- 付録 E 640 K バイトタイプシステムディスクの場合の準備

## ■ その他のマニュアル

さらに詳しい解説を必要とされる場合には、次のマニュアルを参照してください。

### ● MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル

MS-DOS コマンドに関する、詳細な説明書です。日本語入力機能に関しては、辞書への単語の登録／削除、登録単語の一覧や辞書のマージや再編成について辞書ファイル保守ユーティリティ (DICM) の項で、また、ユーザー定義文字の作成／削除についてユーザー定義文字保守ユーティリティ (USKCGM) の項で、それぞれ解説しています。

### ● N<sub>88</sub>-日本語 BASIC (86) ユーザーズマニュアル

N<sub>88</sub>-日本語 BASIC (86) の機能を解説した説明書です。日本語入力機能については、辞書ファイルの保守について dicmen.n88 ユーティリティの項で、ユーザー定義文字について usfont.n88 ユーティリティの項で、それぞれ説明しています。

### ● MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル

MS OS/2 コマンドに関する、詳細な説明書です。日本語入力機能に関しては、辞書への単語の登録／削除、登録単語の一覧や辞書のマージや再編成について辞書ファイル保守ユーティリティ (DICM) の項で、また、ユーザー定義文字の作成／削除についてユーザー定義文字保守ユーティリティ (USKCGM) の項で、それぞれ解説しています。

# 目 次

はじめに .....(3)

## 第 1 部 初めて利用される方のために

1. 日本語入力機能とは .....3  
2. 日本語をタイプしてみよう .....5  
3. こんなことができる .....9  
[コラム] 日本語入力フロントエンドプロセッサ .....14

## 第 2 部 日本語入力機能

第 1 章 日本語入力機能を使う前に  
1.1 日本語入力キー操作一覧 .....17  
1.2 日本語入力モード画面——ガイドライン .....19  
1.3 ガイドライン表示の ON/OFF——**CTRL** + **f・6** .....20

第 2 章 日本語入力モード  
2.1 日本語入力モードに入る／出る——**CTRL** + **XFER** .....21  
2.2 直接入力／間接入力（文字入力位置の指定）——**f・1** .....22  
2.3 カナ入力／ローマ字入力——**カナ** .....23

第 3 章 漢 字  
3.1 漢字のタイプ .....25  
3.2 文字の修正 .....30  
3.3 文節の区切りを修正 .....32  
3.4 表示選択——**SHIFT** + **XFER** .....34  
3.5 部首選択——**CTRL** + **f・1** .....36  
3.6 直接入力と間接入力による画面表示の違い .....38

第 4 章 いろいろな文字  
4.1 文字タイプのルール .....41  
4.2 英数字，英記号——**f・2** .....42  
4.3 ひらがな／カタカナ——**f・3** .....44  
4.4 半角文字——**f・4** .....44  
4.5 JIS 16 進コード——**f・5** .....45  
4.6 1 バイトコード——**f・6** .....46  
4.7 いろいろな文字のタイプ .....46

第5章 便利な機能	5.1 略号→機関名	49
	5.2 郵便番号→住所	50
	5.3 特殊記号— <span>CTRL</span> + <span>f・1</span>	52
第6章 辞書機能	6.1 辞書の切り換え— <span>f・7</span>	55
	6.2 辞書への単語登録— <span>f・8</span>	58
	6.3 登録単語の削除— <span>f・9</span>	64
	[コラム] 辞書とは	66
第7章 環境設定, 情報表示	7.1 環境設定— <span>f・10</span>	67
	7.2 情報表示— <span>HELP</span>	69

## 第3部 知っておいてほしい知識

第1章 変換方式	1.1 逐次変換	74
	1.2 連文節変換	76
	1.3 単文節変換	78
	1.4 JIS16進コード変換	81
	[コラム] AIかな漢字変換	84
第2章 学習機能, 先読み機能	2.1 学習機能	85
	2.2 先読み機能	86
第3章 日本語入力機能を 使うために	3.1 N <sub>88</sub> -日本語 BASIC(86)の場合— <span>setup.n88</span>	88
	3.2 MS-DOSの場合— <span>CUSTOM</span> , <span>エディタ</span>	92
	3.3 MS OS/2の場合— <span>CUSTOM</span> , <span>エディタ</span>	100
	3.4 メモリ容量と辞書ファイル	107

## 付録

付録A	ローマ字入力の規則	111
付録B	カナ入力の規則	113
付録C	部首の読み一覧表	115
付録D	漢字コード表	119
付録E	640 K バイトタイプシステムディスクの場合の準備	139

索引	143
----	-----

# 第 1 部

初めて利用される方のために

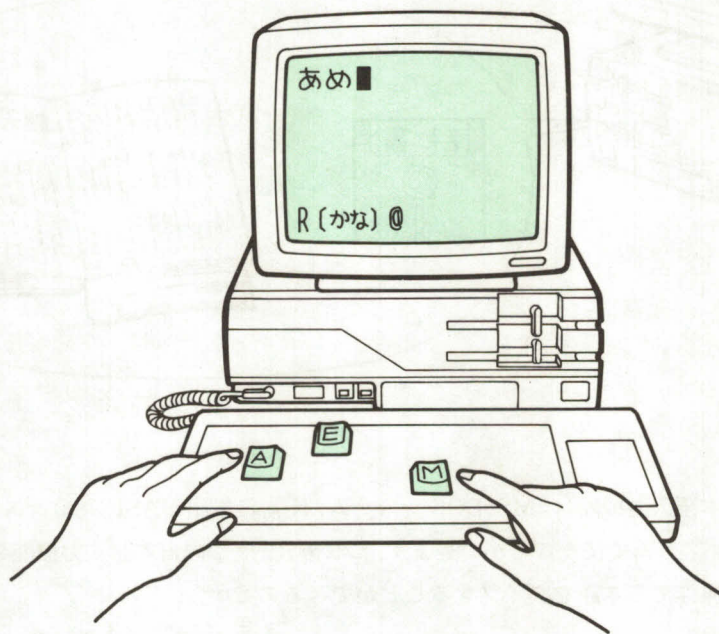
本部では、初めて日本語入力機能を使う方のために、日本語入力機能とは何か、また日本語入力機能でどんなことができるのかについて説明します。

# 1. 日本語入力機能とは

日本語文字はさまざまな場合に必要となります。住所録のデータ、プログラムのメッセージ、ファイル名、表の見出し、これらの文字を英字ではなく、日本語で表すことによって、データがより理解しやすく見やすい情報となります。

日本語をタイプするためには特別な機能が必要です。この特別な機能が、これから本書で説明する日本語入力機能で、大別すると2つの機能に分けられます。

たとえば“AME”とキーをタイプしたとします。

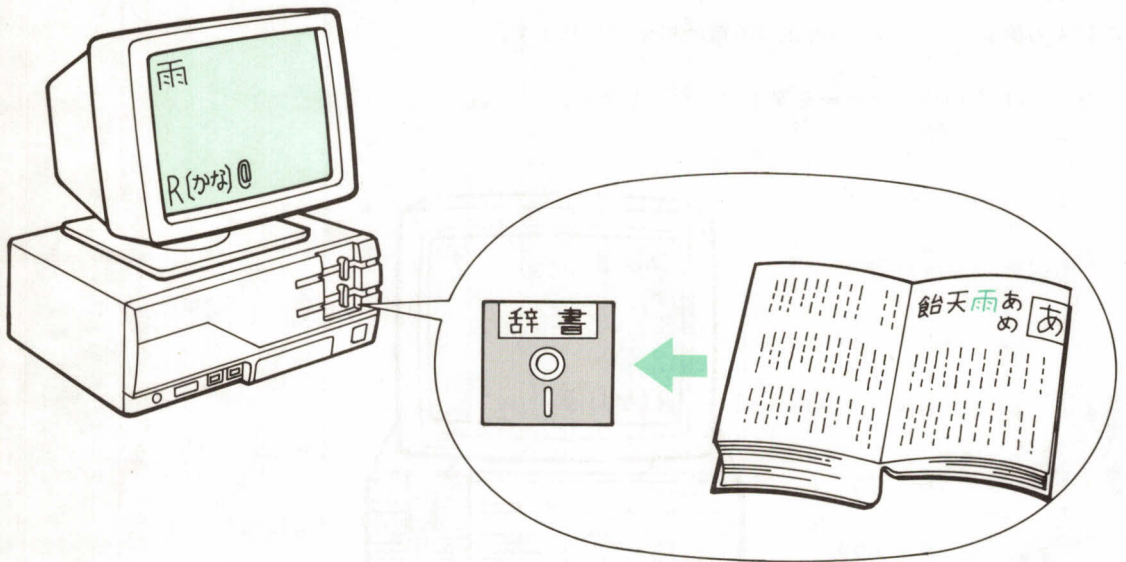


すると、この英文字“AME”がひらがなが変わって、“あめ”と画面に表示されます。

タイプしたのはローマ字、画面に表示されたのはひらがなです。これが日本語入力機能の第一の機能です。

さらに、画面に表示した文字を“読みがな”としてユーザーが変換操作を行うと、ディスク内に入っている辞書ファイル(“読みがな”と漢字が対応づけられている表)から文字が捜され、“読みがな”に合った文字に変換されます。

この“読みがな”を漢字へ変換する作業も日本語入力機能が行います。これが第二の機能で、日本語入力機能の最大の特徴となっています。



この本で説明する日本語入力機能は、MS-DOS システム、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システム、MS OS/2 システムなど様々なシステムで使うことができます。つまり、一度この日本語入力機能の操作を学べば他のシステムでも同じ操作で日本語をタイプすることができるのです。

この特別な機能、日本語入力機能を実現しているのが、日本語入力フロントエンドプロセッサです。

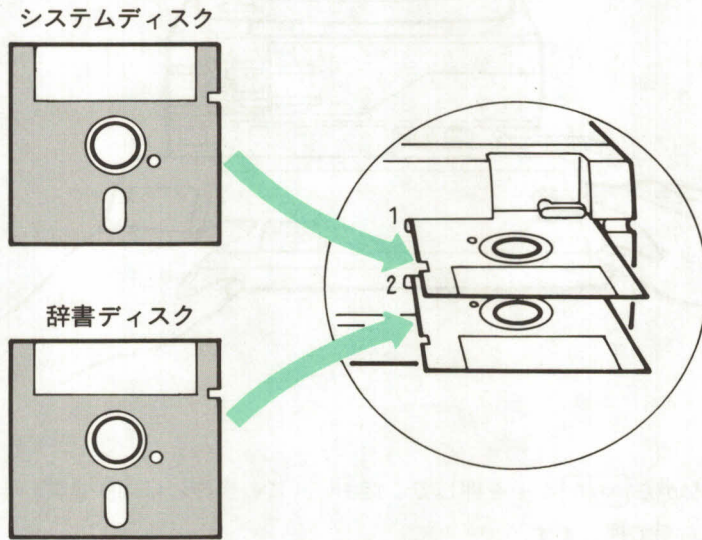
▶参照 日本語入力フロントエンドプロセッサ→「第1部 [コラム]」

## 2. 日本語をタイプしてみよう

ここでは、簡単な操作を通して日本語のタイプ方法を体験していただきます。

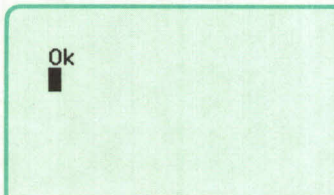
まず、パソコンの電源をONにし、お買い上げになったシステムディスクをドライブ1にセットします。次に辞書ディスクをドライブ2にセットし、最後にリセットスイッチを押してください。

(MS OS/2 システムの場合は、システムのセットアップ作業が必要です。)

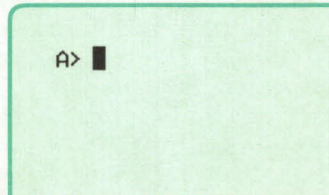


画面にシステムのプロンプトが表示されれば、これからの操作の準備ができています。

N<sub>86</sub>-日本語 BASIC(86)の場合



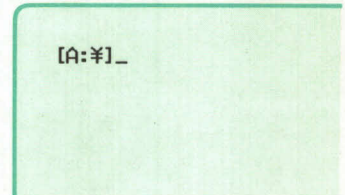
MS-DOS の場合



〈注意〉

MS-DOS システムでは、MENU コマンドを終わらせると、上記のようなプロンプトが表示されます。詳しくは「MS-DOS x.x ユーザーズガイド」をご覧ください。

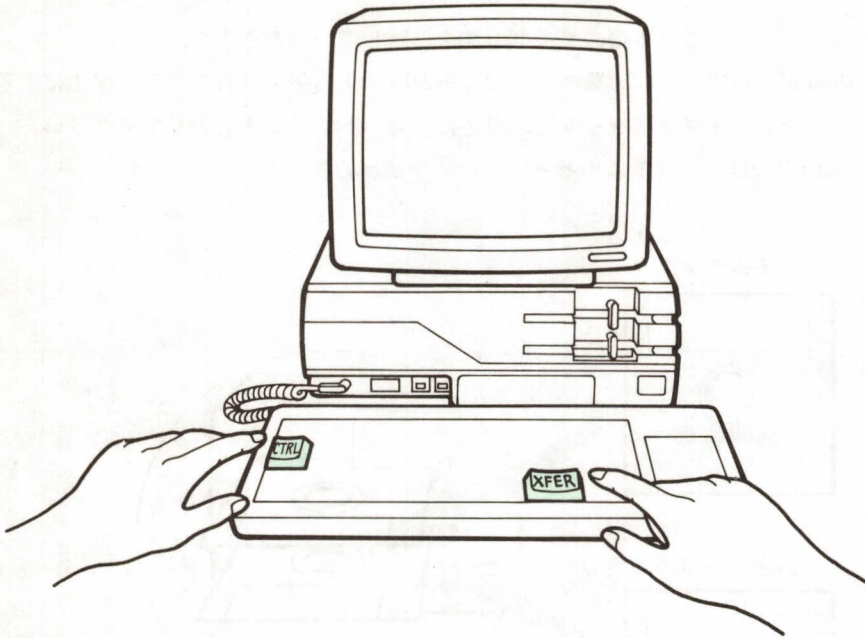
MS OS/2 の場合



〈注意〉

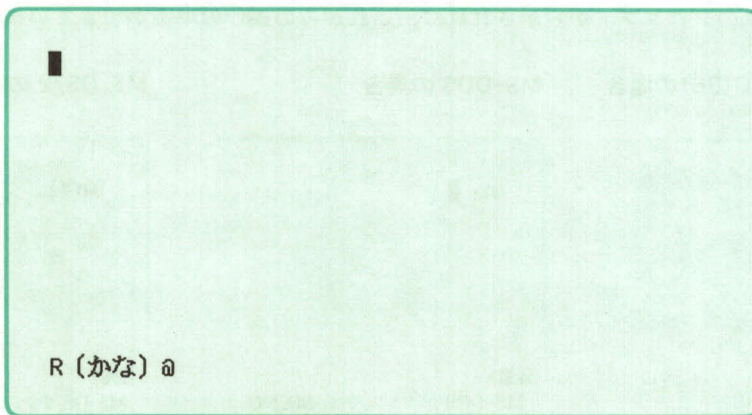
MS OS/2 システムでは、プログラムセレクトにより MS OS/2 モードを選択すると、上記のようなプロンプトが表示されます。詳しくは「MS OS/2 x.x ユーザーズガイド」をご覧ください。

それでは日本語をタイプしてみましょう。

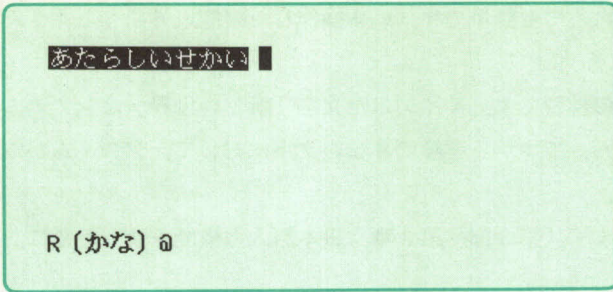


**CTRL** キーを押しながら **XFER** キーを押してください。この操作には両手を使います。 **CTRL** キーは左手で **XFER** キーは右手で押します。

すると画面のいちばん下の行に次のような表示が出ます。

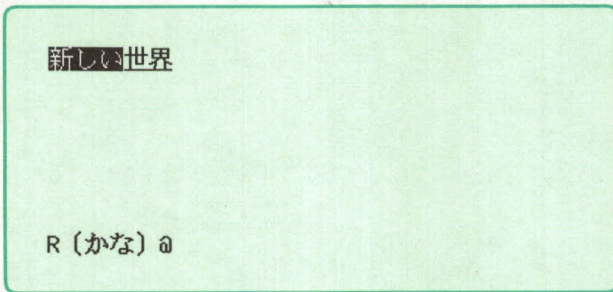


ここから日本語のタイプができます。この状態を“日本語入力モードに入った”といいます。

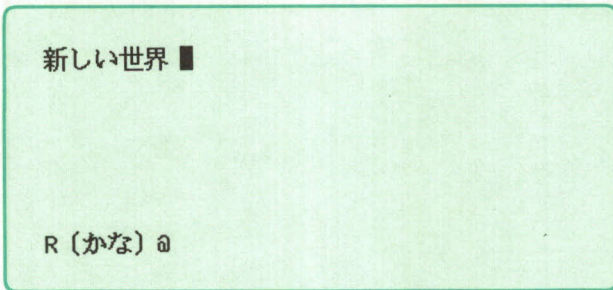


ここでは練習として「新しい世界」という文字をタイプしてみます。

まず、**CAPS** キーを押してロックします。次に英字キーを **A T A R A S I I S E K A I** の順に押します。

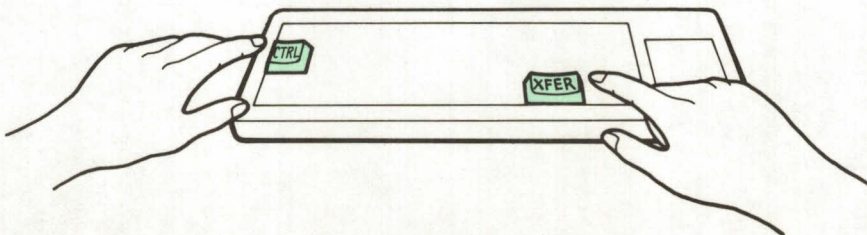


**XFER** キーを1回押すと、画面の“ひらがな”が漢字に変わります。「新しい世界」になりました。



文字を確かめてから、スペースキーを1回押します。これで、漢字混じりの文がタイプできました。

最後にもう一度、**CTRL** キーを押しながら、**XFER** キーを押すと、日本語入力モードから抜け出ます。



いかがでしたか？日本語入力機能はこのようにとても簡単です。いま操作した機能以外にもたくさんの便利な機能が用意されています。

今まで行った操作は日本語をタイプするための練習です。タイプした文字「新しい世界」はシステム側（たとえば MS-DOS）で特に意味を持ちません。ですから理解できない文字に対して、システムからエラーメッセージが表示されることもあります。

ここで説明したとおりにならない場合には、まず「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」をご覧ください。

また、漢字の読みがなは、ローマ字だけでなく、カタカナでタイプする方法もあります。

なお、640K バイトタイプのプロッピーディスクのシステムをお使いの方は、操作を行う前に、必ず「付録 E 640K バイトタイプシステムディスクの場合の準備」をご覧ください。

### 3. こんなことができる

この本で説明する日本語入力機能には、ここまでで説明した以外にもさまざまな機能があります。次に、機能の内容を Q&A の形式で説明します。

#### Q タイプできる文字の種類は？

**A** 日本語入力機能ではさまざまな種類の文字をタイプすることができます。漢字、ひらがな、カタカナ、英数字、記号、半角文字そして1バイトコード文字もタイプできます。読みがなの解らない漢字など漢字コード表から探しコード番号でタイプすることもできます。

- |                  |         |
|------------------|---------|
| ・漢字をタイプする        | 第2部 3.1 |
| ・英字、数字をタイプする     | 第2部 4.2 |
| ・記号をタイプする        | 第2部 4.2 |
| ・ひらがなをタイプする      | 第2部 4.3 |
| ・カタカナをタイプする      | 第2部 4.3 |
| ・半角文字をタイプする      | 第2部 4.4 |
| ・漢字コードで文字をタイプする  | 第2部 4.5 |
| ・1バイトコード文字をタイプする | 第2部 4.6 |

#### Q タイプ方法の種類は？

**A** 文字をタイプする場合、ローマ字読みでタイプする方法（ローマ字入力）と、カナ読みでタイプする方法（カナ入力）があります。通常はローマ字入力を使用できる状態になっていますが、**カナ** キーを押すとカナ入力が使えます。

- |               |         |
|---------------|---------|
| ・英文字タイプに馴れている | 第2部 2.3 |
| ・カナタイプに馴れている  | 第2部 2.3 |

## Q 漢字をタイプするには？

**A** 漢字をタイプする方法には、通常のタイプ方法の他に、一度に最大9つの漢字候補を表示し、この中から希望の漢字を選択する方法があります。また、読みが解らない漢字は、漢字の部首から探し出して選ぶことができます。

- ・漢字の通常のタイプ方法 第2部 3.1
- ・一度にたくさんの漢字候補を表示する 第2部 3.4
- ・読みがなの解らない漢字をタイプする 第2部 3.5

## Q すばやく変換するには？

**A** 辞書の学習機能を on にしておくで直前に選んだ漢字が最優先で表示されるようになります。この機能により、使用頻度の高い漢字や熟語ほど変換の手間が少なくなっていきます。また、先読み機能を on にすると、変換操作を行う前に漢字候補を辞書ファイルから読み込むので、変換時間を短縮できます。

- ・よく使う漢字や熟語の変換効率を高くする 第3部 2.1
- ・辞書からの読み込み時間を短くする 第3部 2.2

## Q 効率よく変換するには？

**A** 辞書に単語や慣用句などを短い読みで登録することができます。また、使わなくなった単語を削除することもできます。

- ・単語や慣用句を短い読みでタイプする 第2部 6.2
- ・使わなくなった単語を辞書から消す 第2部 6.3

## Q 変換方式の種類は？

**A** 変換方式は4つ用意されています。使い馴れた方法、便利な方法など用途に合わせて選択してください。また、日本語入力機能を使用中に逐次変換と連文節変換を切り換えることもできます。

- |  |         |
|--|---------|
| ・読みがなを続けてタイプ、自動的に変換                        | 第3部 1.1 |
| ・複文節ごとに変換・確定                               | 第3部 1.2 |
| ・文節ごとに変換・確定                                | 第3部 1.3 |
| ・N <sub>88</sub> -BASIC(86)(ROMモード)で日本語を使用 | 第3部 1.4 |
| ・逐次変換から連文節変換へ変更                            | 第2部 7.1 |

## Q 文字の表示位置を変更するには？

**A** 画面の一番下の行に一旦文字をタイプし後で文章中のカーソル位置へ文字を移動する方法を間接入力、そのままカーソル位置へ文字を表示する方法を直接入力と呼びます。この2つ方法の切り換えは **f+1** キーでいつでも行えます。

- |       |         |
|-------|---------|
| ・直接入力 | 第2部 2.2 |
| ・間接入力 | 第2部 2.2 |

### 直接入力

あいう ■  
R(かな) @

### 間接入力

R【かな】@ あいう ■ <

## Q 変換方式の変更と確認をするには？

**A** 環境設定（**F10** キー）を行うと現在使用している変換方式や、学習機能、先読み機能の on, off 状態を変更することができます。また、情報表示（**HELP** キー）によって現在の状態を確認することができます。

- ・環境設定 第2部 7.1
- ・情報表示 第2部 7.2

R (設定) @ 変換方式 連文 学習 無 先読み 無

## Q ガイドライン表示を消すには？

**A** ガイドラインにはその時に使用している入力方法や文字の種類が表示されています。このガイドライン表示を消して日本語入力を行うことができます。

- ・ガイドライン (on/off) 第2部 1.3

## Q 辞書ファイルとドライブを変更するには？

**A** 辞書ファイルや辞書ファイルの入っているドライブを変更する場合には変更の内容をシステムに登録しなくてはなりません。変更の方法は2つあります。1つは日本語入力機能中で登録を行う方法、もう1つはいったん日本語入力機能から抜け、ユーティリティを使ってシステムに直接変更を登録する方法です。

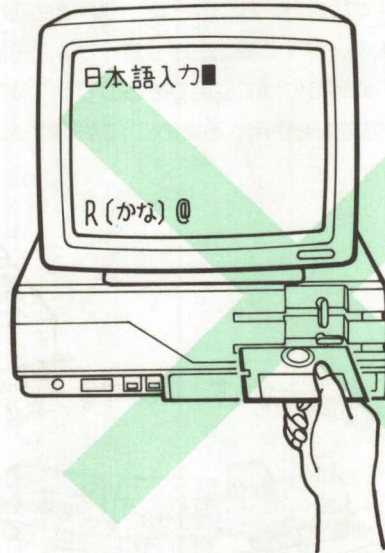
- ・辞書ファイルの切り換え 第2部 6.1
- ・日本語入力機能を使うために 第3部 第3章

以上のように日本語入力にはさまざまな機能が用意されています。

本書で説明する日本語入力機能はいろいろなシステム(N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86), MS-DOS, MS OS/2など)で使用することができます。また、どのシステムでも同じ操作で日本語を入力できるので、この操作方法に慣れることにより、さまざまなシステムで日本語を入力できるようになります。

### ●本書を使う上での注意

- ・本文中で使用する BASIC システムとは、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)を指します。
- ・本文中で参照している BASIC ユーザーズマニュアルとは、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)ユーザーズマニュアルを指します。
- ・本文中で使用する ROM モード BASIC システムとは、N<sub>88</sub>-BASIC(86)を指します。
- ・本体に JIS 第2水準漢字 ROM が装備されていない場合、JIS 第2水準漢字を表示することはできません。
- ・日本語入力モードに入っている状態で、辞書ファイルの入ったディスクを抜かないでください。辞書ファイルの入ったディスクを抜き、同じドライブに他のディスクを入れると、そのディスクが破壊されることがあります。



画面に「R〔かな〕@」などの日本語入力機能の表示がある場合には、辞書ディスクを抜かないでください。

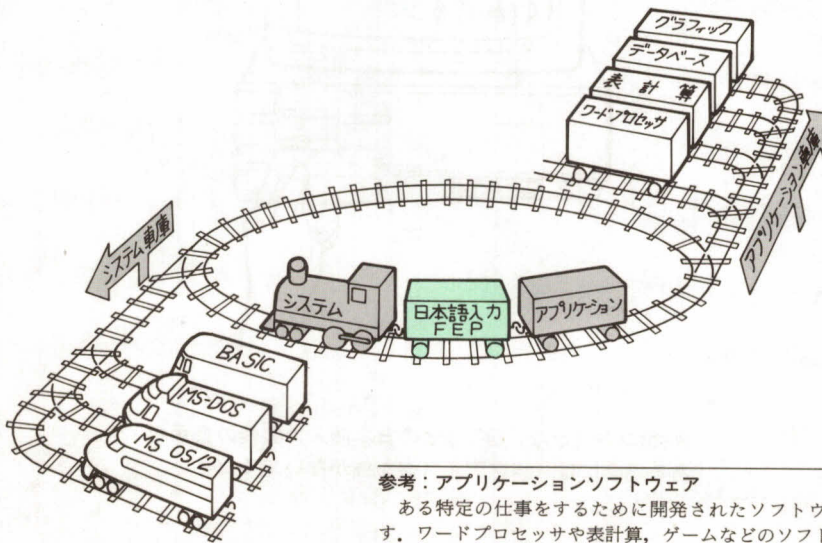
## 日本語入力フロントエンドプロセッサ

通常の状態では、キーボードを叩くと英数字が表示されます。このままでは日本語をタイプすることはできません。少し昔のコンピュータでは、日本語をタイプするために、1文字1文字のコード番号をタイプして1文字ずつ表示していました。これでは、たくさんの日本語文字をタイプするために、大変な努力が必要になってしまいます。

そこで、もっと簡単に日本語文字をタイプできないかと考え出されたのが日本語入力機能です。そして、この日本語入力機能を実現しているのが、日本語入力フロントエンドプロセッサ（以降では日本語入力FEPと記述します）と呼ばれる特別なプログラムです。この日本語入力FEPを使用すると、私たちが日常使用している自然な日本語の“読みがな”から漢字へ変換する方法で日本語文字をタイプすることができます。

ところで、ワードプロセッサ専用機は日本語をタイプ、編集、印刷できます。このワードプロセッサで使用している日本語をタイプ（入力）する機能は、ワードプロセッサ専用機から切り離して使うことはできません。

これに対して、この日本語入力FEPは、1つの独立した機能としてさまざまなシステムで共通に使用することができます。たとえば、この日本語入力FEPを、あるワードプロセッサソフトで利用して日本語をタイプすることができます。また、他の表計算ソフトでも利用することができます。つまり、この日本語入力FEPは日本語をタイプする機能を持った一つの“部品”として、いろいろなシステムやアプリケーションソフトウェアに取り付けて使用できるのです。なお、この“部品”を取り付けるには、「第3部 第3章 日本語入力機能を使用するために」で説明する、システムに対する指定が必要です。



**参考：アプリケーションソフトウェア**

ある特定の仕事をするために開発されたソフトウェアのことです。ワードプロセッサや表計算、ゲームなどのソフトウェアは、すべてこのアプリケーションソフトウェアに含まれます。

# 第 2 部

## 日本語入力機能

本部ではさまざまな日本語入力機能の操作方法を解説します。使用する機能を選択して利用してください。

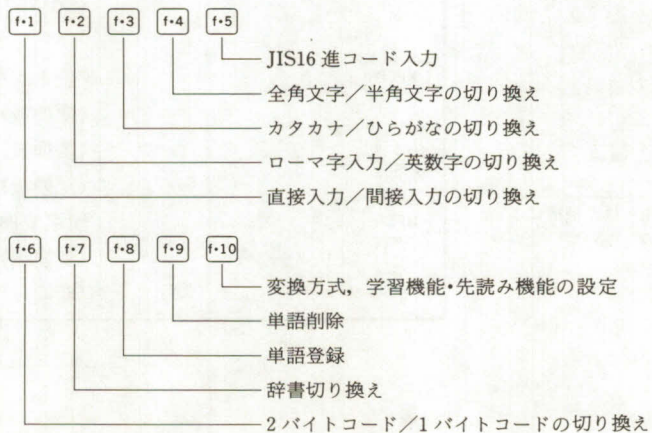
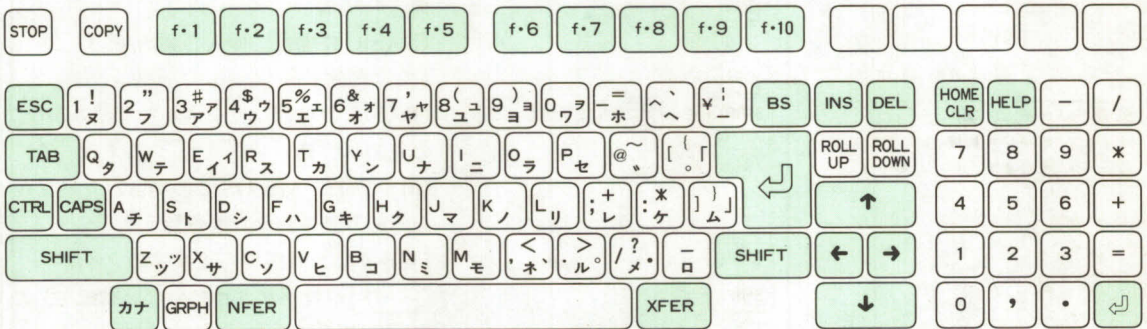
# 第1章

## 日本語入力機能を使う前に

日本語入力機能の操作に入ると、画面最下行に使用している機能が表示されます。ここでは、日本語入力機能の操作に使用するキーと画面表示を解説します。

### 1.1 日本語入力キー操作一覧

日本語入力機能で使用するキーはキーボード上の次の位置にあります。ただし機種によりキーの種類や配置が異なる場合があります。



注意：機種により **CAPS** キーまたは **カナ** キーをロックすると LED が点灯します。

注意：システムに関係なく **HOME** キーは、カーソルを“読みがな”の先頭へ移動します。

注意：システムに関係なく **CLR** キーは、カーソル以降の“読みがな”を削除します。

注意：**NFER** キーは、機種により付いているものと付いていないものがあります。

キー操作	機能
<b>CTRL</b> + <b>XFER</b>	日本語入力モードに入る／出る
<b>CTRL</b> + <b>f.1</b>	部首選択
<b>CTRL</b> + <b>f.6</b>	ガイドライン表示 ON/OFF
<b>SHIFT</b> + <b>XFER</b>	表示選択
<b>HELP</b>	情報表示
<b>カナ</b>	(ロックした状態で) カナ入力
<b>ESC</b>	モードの中止
<b>BS</b> , <b>←</b>	(変換前) “読みがな” をすべて消す (変換後) 変換前の状態にもどす カーソルを1文字分左に移動
<b>→</b>	カーソルを1文字分右に移動
<b>TAB</b>	カーソルを“読みがな”の最後の文字の右側へ移動
<b>HOME CLR</b> (または <b>HOME</b> )	(BASIC の場合) カーソル以降の“読みがな”を削除 (MS-DOS, MS OS/2 の場合) カーソルを“読みがな”の先頭へ移動
<b>INS</b>	挿入の開始 (BASIC の場合) 挿入の開始/終了
<b>DEL</b>	1文字削除
<b>SHIFT</b> + <b>HOME CLR</b> (または <b>CLR</b> )	(BASIC の場合) カーソルを“読みがな”の先頭へ移動 (MS-DOS, MS OS/2 の場合) カーソル以降の“読みがな”を削除
<b>CAPS</b>	(ロックした状態で) 大文字のタイプ
<b>SHIFT</b>	( <b>CAPS</b> がロックされていない状態で) 大文字のタイプ ( <b>CAPS</b> がロックした状態で) 小文字のタイプ
<b>XFER</b>	“読みがな” を漢字へ変換 (変換後) 次の漢字候補表示
<b>↑</b>	(変換後) 1つの前の漢字候補へもどす
<b>↓</b>	(変換後) 次の漢字候補表示
<b>NFER</b>	漢字変換しない
<b>↵</b> (リターン)	(変換後) 文字の確定
スペース	(変換後) 表示内容を一度に確定

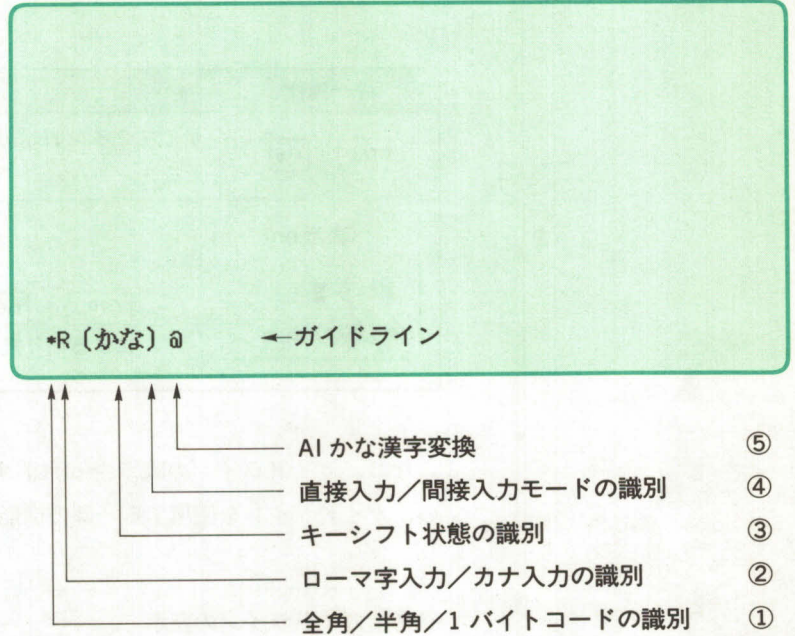
## 1.2 日本語入力モード画面

## ガイドライン

**注意：**日本語入力モードに入るためには、使用するシステムに対して日本語入力機能を使うための設定をする必要があります。

**参照：**日本語入力機能の設定  
☞ 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

**CTRL** + **XFER** キーを押して日本語入力モードに入ると、画面に次のようなガイドラインが表示されます。



	画面表示	表示の意味
①全角/半角/1バイト	(空白) * A	全角文字 半角文字 1バイトコード
②ローマ字/カナ	R (空白)	ローマ字入力 カナ, 英字入力
③キーシフト状態	英数 カナ かな JIS	英数字, 英記号 カタカナ ひらがな JIS
④直接/間接	{ } [ ]	直接入力 間接入力
⑤ AI かな漢字変換	@	AI 逐次変換 AI 連文節変換

### 1.3 ガイドライン表示の ON/OFF

**CTRL** + **f.6**

ガイドラインの表示を消すことができます。**CTRL** + **f.6** キーを押すとガイドライン表示が消えます。再び **CTRL** + **f.6** キーを押すとガイドラインが表示されます。

キー操作	機能
<b>CTRL</b> + <b>f.6</b>	ガイドライン表示の on(表示)/off(未表示)を切り換える
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0e0;"> <p style="text-align: center;">〈表示 on〉</p> <p>あいう ■ R (かな) @</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>← <b>CTRL</b> + <b>f.6</b> →</p> <p>による切り換え</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0e0;"> <p style="text-align: center;">〈表示 off〉</p> <p>あいう ■</p> </div> </div>	

なお、ガイドラインの表示を off(消す)にしておくと、表示選択などの、ガイドラインを使用する一部の機能が使用できなくなります。

#### 参考：ガイドラインの表示

日本語入力モードに入るといつもガイドラインが表示されるわけではありません。カーソルが最下行にあるときに日本語入力モードに入る (**CTRL** + **XFER** キー)と、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムでは、ガイドラインは表示されません。MS-DOS システムでは、画面がスクロールアップして最下行にガイドラインが表示されます。MS OS/2 システムでは、ガイドラインは最下行に表示されない場合があります。詳しくは MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアルを参照してください。

# 第2章

## 日本語入力モード

### 2.1 日本語入力モードに入る／出る

**CTRL** + **XFER**

日本語入力モードは通常の文字をタイプできる状態ならばいつでも使用することができます。

#### ●日本語入力モードに入る

注意：通常のモードとは、BASICのダイレクトモードや、MS-DOS、MS OS/2のコマンドモードなどの状態です。

通常のモードで、**CTRL** + **XFER** キーを押すと日本語入力モードに入ります。日本語入力モードに入ると、画面の最下行(ガイドライン)に日本語入力機能用の表示("R(かな)@" など)がされます。

#### ●日本語入力モードから出る

注意：日本語入力機能を使用するためには、システムに対する指定が必要です。また、日本語入力機能で使用する辞書ファイルがディスク内に必要です。☞「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

ガイドラインが表示されている状態で、再び **CTRL** + **XFER** キーを押すと、日本語入力モードから、通常のモードに戻ります。

キー操作	機能
<b>CTRL</b> + <b>XFER</b>	日本語入力モードに入る
<b>CTRL</b> + <b>XFER</b>	日本語入力モードを出る

日本語入力モードに入って、最初に2つの設定を行います。1つ目は“文字入力位置”そして2つ目は“読みがな”のタイプ方法です。

これらの設定は、一度設定しておけば頻繁に変更する必要はありません。

参照：“読みがな”の設定 ☞「第2部 2.3 カナ入力/ローマ字入力」

#### 参考：BASICのKINPUT命令

BASICのKINPUT命令を使用すると自動的に日本語入力モードに入ります。この場合には、日本語入力モードに入る操作(**CTRL** + **XFER** キー)は必要ありません。また、KINPUT命令を使用して日本語入力モードに入った場合は、**CTRL** + **XFER** キーを押して日本語入力モードから出ることはできません。

## 2.2 直接入力／間接入力(文字入力位置の指定)

f・1

タイプした文字をどこに表示して変換するかを決定するのが、“文字入力位置”の指定です。これは、“直接入力モード”あるいは“間接入力モード”の2種類から選択します。


直接入力モードは、画面上のカーソル位置で直接的な漢字変換を行うものです。

間接入力モードは、一度ガイドライン上で読みがなのタイプと漢字への変換を行った後、リターンキーを押して画面上のカーソル位置に文字を移動するものです。

直接入力モード／間接入力モードの切り換えは、**f・1** キーを押して行います。

文字のタイプ中に直接入力／間接入力の切り換えはできません。また、辞書ファイルがディスク内ないとスピーカが鳴り、切り換わりません。

注意：初期設定(出荷時の設定)では、直接入力を選択されています。

参照：辞書ファイル  「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」、 「第2部 第6章 辞書機能」

キー操作	機 能
<b>f・1</b>	直接入力／間接入力を切り換える
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">〈直接入力〉</p> <p>あいう ■ R【かな】 @</p> </div> <div style="text-align: center; width: 10%;"> <p>← <b>f・1</b> → による切り換え</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">〈間接入力〉</p> <p>R【かな】 @ あいう ■ &lt;</p> </div> </div>	

間接入力中の画面最下行の右端にある“<”マークは“ストッパー”と呼ばれるもので、タイプする文字数の目安です。

### ●ガイドライン(最下行)に達する読みがなのタイプ

直接入力の“読みがな”のタイプ中、最下行のガイドラインへカーソルが入ってしまうと一時的に間接入力モードになります。しかし、文字の確定後には画面がスクロールして再び直接入力モードに戻ります。

画面最下行への入力は直接入力で行うことができます。

## 2.3 カナ入力／ローマ字入力

カナ

“読みがな”のタイプ方法として、カナ入力とローマ字入力のいずれかを指定できます。

注意：初期設定では、ローマ字入力が選択されています。

ローマ字入力は、読みがなをローマ字読みでタイプします。

カナ入力は、キーボードのカナ文字に従って読みがなをタイプします。

ローマ字入力とカナ入力の切り換えは、**カナ** キーをロックする／しないの切り換えで行います。

使いやすい入力方法を指定してください。


キー操作	機能
<b>カナ</b>	カナ入力／ローマ字入力を切り換える
<p>〈カナ入力〉</p> <p><b>〔かな〕 @</b></p>	<p>〈ローマ字入力〉</p> <p><b>R〔かな〕 @</b></p>
on ← <b>カナ</b> → off による切り換え	


ローマ字入力の場合には、**CAPS** キーを押して、ロックした状態でタイプしてください。**CAPS** キーをロックしておかないと、かな小文字(あ～お、や～よ)が入力され、正しい読みがなをタイプできません。


また、キーシフト状態が “[英数]” ではローマ字入力できません。

**f.2** キーを押してキーシフト状態を “[かな]” に変えてローマ字入力を行います。

ローマ字入力、カナ入力にはそれぞれ規則があります。ルールに従ってタイプしてください。

参照：キーシフト状態  「第2部 1.2 日本語入力モード画面」

参照：ローマ字入力の規則  「付録A ローマ字入力の規則」

参照：カナ入力の規則  「付録B カナ入力の規則」



# 第3章

# 漢字

## 3.1 漢字のタイプ

ここでは、漢字のタイプ方法と、漢字をタイプするための注意事項を説明します。

すでに「第1部 2. 日本語をタイプしてみよう」で漢字タイプのおおまかな操作方法を行っていますが、ここでは改めて漢字のタイプ方法を詳しく解説します。

以降の操作は、必ず日本語入力モードに入って( **CTRL** + **XFER** キー ) から行ってください。

### ●漢字タイプの手順

漢字のタイプは、次の手順で行います。



以後、各手順ごとに操作方法を説明します。

**注意：**読みがなは、必ず“ひらがな”で画面表示させてください。カタカナや、半角文字で画面表示させても、漢字に変換することはできません。

**参照：**ひらがなのタイプ 「第2部 4.3 ひらがな/カタカナ」

**参照：**カナ入力/ローマ字入力 「第2部 2.3 カナ入力/ローマ字入力」


### ①読みがなのタイプ

変換したい文章の読みがなを、ローマ字入力またはカナ入力タイプすることにより、“ひらがな”で画面に表示させます。

以後このような操作を行うことを「“ひらがな”でタイプする」といいます。

ここでは例として“教官が、”とタイプしてみましょう。

注意：ローマ字入力を使用する場合は、**[CAPS]** キーを押して、ロックした状態でタイプしてください。

参照：ローマ字入力の規則  「付録 A ローマ字入力の規則」

### ○ローマ字入力の場合

ガイドラインの表示は“R[かな]@”です。ここで、“KYOUKANGA”とタイプします。

読みがなをローマ字入力を使用してタイプすると、タイプする文字はローマ字ですが、画面に表示される文字は“ひらがな”になります。



ローマ字入力で“読みがな”をタイプするためにはローマ字入力の規則に従った(にゃ→NYAなど)タイプを行ってください。


### ○カナ入力の場合


**[カナ]** キーを押してロックします。ガイドラインの表示は “[かな]@” です。ここで、“キョウカンガ”とタイプします。


読みがなをカナ入力を使用してタイプすると、タイプする文字はカナ文字ですが、画面に表示される文字は“ひらがな”になります。




注意：“ガ”は“カ”と濁点(゜)に分けてタイプしてください。

参照：濁音のタイプ  「付録 B カナ入力の規則」

参照：カナ入力の規則  「第2部 4.3 ひらがな/カタカナ」, 「付録 B カナ入力の規則」

参照：読みがな、文節の制限  「第3部 第1章 変換方式」

参照：全角文字から半角文字への切り換え  「第2部 4.4 半角文字」


カナ入力で“読みがな”をタイプするためには、カナ入力の規則に従ってタイプしてください。

読みがなは、反転表示で表示されます。

一度にタイプできる“読みがな”の文字数と文節の最大値は使用するシステムや変換方法によって異なります。

なお“読みがな”のタイプ中には、全角文字から半角文字への切り換えはできません。

注意：AI 逐次変換(または逐次変換)では読みがなを続けてタイプすると自動的に漢字へ変換されていきます。

参照：AI 逐次変換、逐次変換  「第3部 1.1 逐次変換」

注意：NFER キーを持つ機種では、「読みがな」のタイプ後に NFER キーを押すと変換前の「読みがな」がそのまま確定されます。

## ②漢字への変換

読みがなをタイプしたら、句読点(。), (.) キー)または、XFER キーで漢字に変換します。変換された最初の単語(文節)が、反転表示されます。

ここでは、(.) キーを押して「読みがな」を漢字へ変換します。

読 者 が  
R (かな) ①

## ③次候補の表示

変換された漢字が希望した文字に変換されている場合には、この操作は必要ありません。④の操作へ進んでください。

反転表示されている文字が、希望したものでなかった場合は、目的の文字になるまで、何回か XFER キー(または ↓ キー)を押します。


XFER キー(または ↓ キー)を押すごとに新しい候補が表示されます。1つ前の候補に戻る場合は ↑ キーを押します。


読 者 が  
R (かな) ①

また、ESC キーを押すと反転表示の部分がもとの「読みがな」に戻るので最初の「読みがな」の状態から再度変換し直せます。


文節を小さく区切ると早く正しい候補が表示できます。



この他に表示選択を使用していくつかの候補の中から番号で選択する方法もあります。


参照：文節を区切る  「第2部 3.3 文節の区切りを修正」

参照：表示選択  「第2部 3.4 表示選択」

#### ④漢字の確定

反転表示の文字が、目的の文字に変換されたら、 キーを押して(この場合、2回)、文字を確定します。確定された文字は、通常の表示にもどります。


教官が、  
R (かな) 














確定するためには、 キーを押して文節ごとに確定する方法と、スペースキーや次の“読みがな”をタイプして表示されている内容すべてを確定する方法があります。

### ●漢字タイプのまとめ

注意：画面表示は、直接入力、ローマ字入力の例です。






注意：“読みがな”のタイプ方法にはローマ字入力とカナ入力があります。

参照：カナ入力/ローマ字入力  
 「第2部 2.3 カナ入力/ローマ字入力」

操作順序	キー操作	画面表示例
①読みがなの入力	ひらがな文字タイプ	 R (かな) 
②漢字への変換	句読点 (  ,  ) または XFER	 R (かな) 
③次候補の表示	XFER または  , 	 R (かな) 
④漢字の確定	 , スペース または 次の文字タイプ操作など	教官が、  R (かな) 





## ●漢字タイプに使用するキー


以下に漢字タイプの操作に使用するキーと機能を示します。


漢字への変換	
キー操作	機能
XFER,  , 	“読みがな”が漢字に変わり、再変換または確定操作が可能となる
次候補の表示	
キー操作	機能
XFER または   ESC 1回 ESC 2回	次候補表示 1つ前の候補にもどす “読みがな”にもどす 文全体を“読みがな”にもどす
漢字の確定	
キー操作	機能
 スペース, 次の読みがな のタイプ	反転表示部分を確定 表示内容全て(反転表示部と下線付き表示部)を 確定


## ●正しい漢字に変換されなかった場合


正しい漢字に変換されなかった場合には、原因として次の4つが考えられます。対策に従って修正してください。

原因	対策
同音異義語に変換された	正しい漢字に変換されるまで何度か  キーを押す。または表示選択を利用して、同音異義語の漢字候補の中から希望の漢字を選択する
単語(文節)の切れ目が間違っている	正しい漢字に変換されるまで何度か  キーを押す。またはカーソル移動キーで文節を区切り直してから  キーを何度か押す
“読みがな”のタイプミス	正しい読みがなに修正して、再変換する
単語が辞書に登録されていない	 キーまたは、専用ユーティリティを使用して辞書へ単語を登録する

参照：表示選択  「第2部 3.4 表示選択」

参照：単語(文節)の切れ目が違う  「第2部 3.3 文節の区切りを修正」

参照：“読みがな”のタイプミス  「第2部 3.2 文字の修正」

参照：単語が辞書に登録されていない  「第2部 6.2 辞書への単語登録」

### 3.2 文字の修正

タイプした“読みがな”は次のキーを使用して修正することができます。“読みがな”とは、直接入力では反転表示部分、間接入力では下線の付いていない部分のことです。

#### ●読みがなの修正

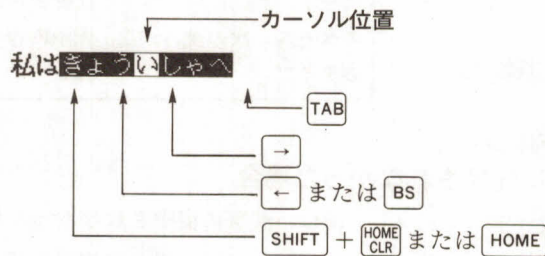
読みがなの修正に使用できるキーを次に示します。

##### ○カーソルの移動

カーソルを移動するためのキーには、**SHIFT** + **HOME CLR** (または **HOME**)、**←** (または **BS**)、**→**、**TAB** の各キーがあります。

**SHIFT** + **HOME CLR** (または **HOME**) キーは読みがなの先頭へ、**←** (または **BS**) キーは1文字左へ、**→** キーは1文字右へ、**TAB** キーは読みがなの最後の文字の右側へそれぞれ移動することができます。

注意：読みがなの先頭へカーソルを移動するキーは、ノーマルモードでのMS-DOSまたはMS OS/2システムの場合 **HOME CLR** キーとなります。また、ハイレゾリユーションモードでのMS-DOSでは **HOME** キーとなります。



##### ○文字の削除

文字の削除は、**DEL**、**HOME CLR** (または **CLR**)、**ESC** の各キーによって行います。

**DEL** キーはカーソルの左側の1文字を削除、**HOME CLR** (または **CLR**) キーはカーソル以降の文字を削除、**ESC** キーはすべての読みがなを削除することができます。

注意：カーソル以降の読みがなを削除するキーは、ノーマルモードでのMS-DOSまたはMS OS/2システムの場合 **SHIFT** + **HOME CLR** キーとなります。また、ハイレゾリユーションモードでのMS-DOSでは **CLR** キーとなります。

注意：読みがタイプされていない状態または、読みがすべて削除された状態で **ESC** キーを押さないでください。その後、読みをタイプして確定した場合、文字が正しく表示されないことがあります。

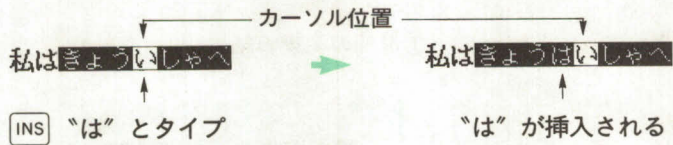
キー操作	機能	画面表示
<b>DEL</b>	1文字削除	私はきょういしゃへ ↑ 私はきょういしゃへ
<b>HOME CLR</b> (または <b>CLR</b> )	カーソル以降削除	私はきょういしゃへ ↑ 私はきょう
<b>ESC</b>	すべて削除	カーソル位置

参考：DEL キーの注意点

- ・“読みがな”の残りが1文字の場合には DEL キーは使えません(削除できません)。
- ・カーソルが“読みがな”の先頭にある場合にはカーソル位置の文字が削除されます。

○文字の挿入

文字の挿入は INS キーを使います。INS キーを押してから挿入文字をタイプします。挿入操作は、カーソルを移動するか、または XFER キーで漢字への変換操作など次の操作を行うことにより終わります。



注意：N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムの場合、INS キーをもう一度押しても挿入操作が終わることができません。

注意：画面例は AI 逐次変換、直接入力の場合です。

●文字の修正に使用するキー

注意：HOME CLR キーと、SHIFT + HOME CLR キーは、使用するシステムによってまったく逆の機能になります。注意してキー操作を行ってください。

注意：読みがタイプされていない状態または、読みがすべて削除された状態で ESC キーを押さないでください。その後、読みをタイプして確定した場合、文字が正しく表示されないことがあります。

カーソルの移動	
キー操作	機能
BS または ← → TAB	カーソルを1文字分左へ移動 カーソルを1文字分右へ移動 カーソルを文字列の最後の文字の後ろに移動
SHIFT + HOME CLR (または HOME)	(BASIC の場合) カーソルを変換していない“読みがな”の先頭へ移動 (MS-DOS, MS OS/2 の場合) カーソル以降の文字を削除
文字の削除	
キー操作	機能
ESC DEL HOME CLR (または CLR)	文字をすべて消去 カーソルの左側の1文字を削除 (BASIC の場合) カーソル以降の文字を消去 (MS-DOS, MS OS/2 の場合) カーソルを“読みがな”の先頭へ移動
文字の挿入	
キー操作	機能
INS	挿入の開始。以降にタイプした文字がカーソルの左側に挿入される

### 3.3 文節の区切りを修正

単語の切れ目(文節)が間違っ変換された場合でも、文節の切れ目を指定すれば、正しい漢字に変換できます。

#### ●文節の区切り修正の手順

たとえば、「今泣いた赤ちゃんがもう笑った」とタイプするために、「いまないたあかちゃんがもうわらった」と読みがなをタイプして **XFER** キーを押したところ、「居組板赤ちゃん蒲生笑った」のように変換されてしまったとします。このような場合は、次のような手順で再変換し、正しい漢字に直してください。

##### ①最初の変換の結果

居組板赤ちゃん蒲生笑った

R (かな) @

② **ESC** キーを押して誤変換をもとの“読みがな”にもどします。

**ESC** キーを1回押すと最初の文節が“読みがな”にもどります。 **ESC**

キーを2回押すと文全体が“読みがな”にもどります。

この例の場合は、**ESC** キーを2回押して文全体を“読みがな”の状態にもどしてください。

いまないたあかちゃんがもうわらった ■

R (かな) @

③カーソルを正しい文節の直後(次の文節の頭)に位置づけます。カーソルの移動はカーソル移動キー(**←**), (**→**)で行います。ここでは、「いま」の直後ですから、「な」にカーソルを移動します。

いまないたあかちゃんがもうわらった

R (かな) @

- ④漢字に変換するために **XFER** キーを押します。

■泣いた赤ちゃん蒲生笑った

R (かな) @

- ⑤正しく変換できたところまで、**↵** キーを押して文節ごとに確定していきます。

ここでは、2つの文節“今”“泣いた”を確定するために2回 **↵** キーを押します。

今泣いた赤ちゃん蒲生笑った

R (かな) @

- ⑥希望の漢字に変換されない部分や、文節がなおも正しく区切られない部分がある場合には②から⑤の操作を、希望する漢字に変換されるまで繰り返します。

ここでは、操作の繰り返しにより、“赤ちゃん蒲生笑った”を“赤ちゃんがもう笑った”に変換します。

今泣いた赤ちゃんがもう笑った ■

R (かな) @

以上で文節の区切りの修正操作は終了です。

### ●文節の区切り修正のまとめ

操作順序	キー操作
①誤変換文字を読みがなにもどす	<b>ESC</b>
②文節を区切りなおす	<b>←</b> , <b>→</b>
③漢字へ再変換する	<b>XFER</b>
④正しい文節までを確定する	<b>↵</b>

## 3.4 表示選択

SHIFT + XFER

注意：表示選択機能は間接入力でも使用できます。☞ 「第2部 2.2 直接入力/間接入力」

注意：表示選択機能は部首選択でも使用できます。☞ 「第2部 3.5 部首選択」

“読みがな”を漢字へ変換する場合、XFER キーを使用して行う方法の他に、SHIFT + XFER キーによって1度に最大9つの漢字候補を表示させる方法があります。

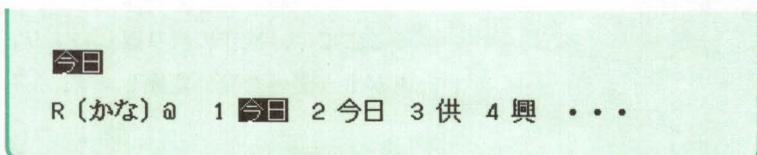
## ●表示選択の手順

- ① “読みがな” をタイプします。



注意：画面は直接入力の例です。



- ② SHIFT + XFER キーを押すと、最大9つの候補がガイドラインに表示されます。漢字候補は候補番号付きで表示されます。このとき、“読みがな”の部分は第1候補の漢字に変換されます。



- ③漢字候補が表示されたら、希望の候補へカーソルを位置づけます。

← → キーで左右の候補にカーソルを移動することができます。候補が9つ以上ある場合には数画面に渡って候補が表示されます。

XFER キーまたは ↓ キーで次の候補の画面へ移動できます。↑ キーで1つ前の画面にもどります。






- ④希望の候補にカーソルを位置づけて  キーを押すと、カーソル位置の候補を選択できます。または候補番号を直接タイプして  キーを押すと、指定した番号の候補を選択できます。

供 ■  
R (かな) @

注意：表示選択を中断するためには **ESC** キーを押してください。

選択が終わると、表示されていた候補が消え、表示選択から抜けます。

### ●表示選択のまとめ

操作順序	キー操作
①読みがなのタイプ	
②表示選択に入る	<b>SHIFT</b> + <b>XFER</b>
③漢字候補へ カーソル移動	 ,  (左右の移動)  (前画面), <b>XFER</b> または  (次画面)
④候補の確定	

## 3.5 部首選択

CTRL + f.1

部首選択は漢字の部首の“読み”をタイプして漢字候補を表示する方法です。CTRL + f.1 キーを押すと部首選択ができます。

## ●部首選択の手順

- ① CTRL + f.1 を押します。

■  
R (かな) 部首

注意：画面は直接入力の例です。

注意：部首選択を中断するには候補が表示されていない状態で CTRL + f.1 キーを押してください。

- ②部首の“読み”をタイプします。

ここでは糸偏(へん)の漢字を選択したいので部首の“読み”「いと」をタイプします。

いと ■  
R (かな) 部首

参照：部首の“読み” ⇨ 「付録 C 部首の読み一覧表」

部首の“読み”は事前に決められています。一般に使用している読み方とは多少違う部分があります。たとえば“いとへん”は“いと”、“くさかんむり”は“くさ”のように“読み”が決められています。詳しくは付録を参照してください。

注意：部首選択に、XFER キーの代わりに SHIFT + XFER キーを押すと1度に最大9つの漢字候補がガイドラインに表示されます(表示選択)。

- ③ XFER キーで漢字へ変換します。


ここで、指定した部首の漢字が1つずつ画面に表示されます。

次の候補を表示するには XFER キーまたは ↓ キーを押します。前の候補へ戻るには ↑ キーを押します。

綱  
R (かな) 部首

参照：表示選択 ⇨ 「第2部 3.4 表示選択」

注意：ESC キーを押すと元の“読み”の状態にもどれます。



注意：MS-DOSまたはMS OS/2システムの場合は、キーを押して文字を確定すると、自動的に部首選択から抜けます。

④希望の候補が表示できたら、キーを押して文字を確定します。

編 ■

R (かな) 部首

注意：MS-DOSまたはMS OS/2システムの場合は、⑤の操作は必要ありません。


⑤部首選択から抜けるためには、 +  キーを押してください。通常の日本語入力モードに戻ります。

### 参考：部首





部首とは漢字を分類するための漢字の共通な構成部分です。たとえば、木偏(へん)の部首を持つ漢字には「栂、栢、栢」などがあります。また、竹冠(かんむり)の部首を持つ漢字には「竿、箒、箔」などがあります。

以上で部首選択の操作は終わりです。


部首選択を使うことにより、ここで行った部首の“読み”から漢字に変換できるだけでなく、特殊な“読み”から特殊記号に変換することもできます。


参照：特殊記号  「第2部 5.3 特殊記号」

## ●部首選択のまとめ

操作順序	キー操作
①部首選択に入る	 + 
②部首の“読み”をタイプする	(“いと”など)
③漢字へ変換する	
④文字を確定する	

### 3.6 直接入力と間接入力による画面表示の違い

参照：直接入力/間接入力   
「第2部 2.2 直接入力/間接入力」

参考：AI 逐次変換   
「第3部 1.1 逐次変換」

注意：2つの入力モードによる画面表示の違いは、他の変換方式(逐次変換, AI 連文節変換, 連文節変換, 単文節変換)を使用した場合でも同じです。

すでに説明しているように、直接入力と間接入力では“読みがな”をタイプする位置が違います。直接入力は画面中のカーソル位置に直接文字を表示していくのに対し、間接入力はいったんガイドライン上に“読みがな”をタイプして、確定した後に画面中のカーソル位置へ文字を移動させます。

この2つの入力モードの違いを、初期設定の AI 逐次変換を使用して比較してみます。

例として、「故郷の川で過ごした年月」を使用します。

	直接入力	間接入力
①	こきょうのかわで ■ R (かな) @	R【かな】@ こきょうのかわで ■
②	故郷のかわで過ごしたとしつき ■ R (かな) @	R【かな】@ 故郷の・・・つき ■
③	故郷の川で過ごした年月 R (かな) @	R【かな】@ 故郷の・・・年月
④	故郷の川で過ごした年月 R (かな) @	故郷の R【かな】@ 川で過ごした年月
結果	故郷の川で過ごした年月 ■ R (かな) @	故郷の川で過ごした年月 ■ R【かな】@ ■


- ①読みがなをタイプします。
- ②自動変換されます。
- ③ **XFER** キーを押して、変換候補の選択を行います。
- ④確定します。

“読みがな” をタイプすると、直接入力では反転表示されますが、間接入力では通常の表示のままです。

なお、直接入力、間接入力どちらも、変換後の反転表示部分では次候補を表示させることができます。また、下線付きの部分は変換操作を行っていない部分です。確定した文字は通常の表示にもどります。

直接入力以最下行に文字が来たときは、一時的に間接入力になります。

---

参照：直接入力以最下行に文字がきたとき  「第2部 2.2 直接入力/間接入力」



# 第4章

## いろいろな文字

### 4.1 文字タイプの方法

日本語の文章には、いろいろな種類の文字(英数字・カタカナ・ひらがな・漢字・記号など)が混在しています。このような文章をタイプするには、文字の種類に合ったキーを押してから、文字をタイプします。

たとえば、英文字をタイプするためには英数字キー(**F2**)を押してから文字をタイプします。続けてカタカナ文字をタイプするためにはカタカナキー(**F3**)を押してから文字をタイプします。このように文字をタイプする前に必ず文字の種類に合った入力モードに切り換えてから文字をタイプする方法を、モード先行指定と呼びます。

MS-DOSのコマンドやさまざまなBASICの命令は「リファレンスマニュアル」・・・

↑            ↑            ↑            ↑            ↑  
全角英数字 全角カタカナ ひらがな            漢字            半角文字

この章では、さまざまな文字のタイプおよび変換方法について説明します。

以降の操作は、必ず日本語入力モードに入って(**CTRL** + **XFER** キー)から行ってください。

## 4.2 英数字, 英記号

f・2

ここでは、英数字とキーボード上にある記号のタイプ方法を説明します。英数字, 英記号をタイプするには、**f・2** キーを押します。

注意: **カナ** キーがロックされていると、英数字モードになりません。

**f・2** キーはローマ字入力/英数字の切り換えを行うキーです。**カナ** キーがロックされていない状態を確かめて、**f・2** キーを押すと英数字, 英記号のタイプができます。もう一度 **f・2** キーを押すともとのローマ字入力モードにもどります。


注意: 表示例は、AI 逐次/AI 連文節変換, 直接入力の場合です。

キー操作	機能
<b>f・2</b>	ローマ字入力/英数字を切り換える
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           &lt;ローマ字入力&gt;            R (かな) @         </div> <div style="text-align: center;">           ← <b>f・2</b> →            による切り換え         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           &lt;英数字&gt;            (英数) @         </div> </div>	

## ●英数字, 英記号タイプの注意点

- ①英数字モード中に **CAPS** キーをロックすると、大文字のタイプができます。**CAPS** キーをロックした状態で、**SHIFT** キーを押しながら英文字のキーを押すと、小文字のタイプができます。
- ② **CAPS** キーがロックされていない状態では、英小文字のタイプができます。このとき **SHIFT** キーを押しながら英文字のキーを押すと、大文字のタイプができます。

## ●キーボード上にない記号

参照: 部首選択を使用した記号のタイプ  「第2部 5.3 特殊記号」

キーボード上にない記号は、記号の“読みがな”として、「きごう」とタイプし、漢字の変換と同様な操作でタイプします。また、この他に部首選択を使用した記号のタイプ方法もあります。

ここでは“読みがな”に“きごう”を使用して記号を入力する方法を説明します。

操作は次のようになります。

- ①読みがなとして, “きごう” とタイプします。

きごう ■  
R (かな) Ⓜ

- ②読みを変換するために **XFER** キーを押します。画面のガイドライン上に漢字または記号が1つ表示されます。

〒  
R (かな) Ⓜ

注意: **XFER** キーの代わりに **SHIFT** + **XFER** キーを押すと1度に最大9つの候補を表示し選択することができます(表示選択)。☞「第2部 3.4 表示選択」

- ③続けて **XFER** キーを押すと, 1個ずつ記号が変わります。

☒  
R (かな) Ⓜ

- ④ **↵** キーまたは, 次の読みをタイプすると表示されていた記号が画面のカーソル位置に入ります。

※ ■  
R (かな) Ⓜ

### 4.3 ひらがな／カタカナ

f.3

ここでは、ひらがな文字、カタカナ文字のタイプ方法を説明します。  
 ひらがな文字とカタカナ文字を切り換えるには、**f.3** キーを押します。  
**f.3** キーを押すたびに、ひらがな文字とカタカナ文字の入力モードが切り換わります。  
 なお、カタカナでタイプした文字は、漢字に変換することはできません。漢字をタイプするための“読みがな”は必ずひらがなでタイプしてください。

注意：表示例は、ローマ字入力、直接入力の場合です。

キー操作	機能
<b>f.3</b>	ひらがな／カタカナの入力モードを切り換える
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;ひらがな&gt;</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; width: 150px;">R (かな) @</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>← <b>f.3</b> → による切り換え</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;カタカナ&gt;</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; width: 150px;">R (カナ) @</div> </div> </div>	

### 4.4 半角文字

f.4

ここでは、半角文字のタイプ方法を説明します。  
 全角文字／半角文字の切り換えは、**f.4** キーで行います。  
**f.4** キーを押すと、ガイドラインの入力モード括弧の左側に\* (アスタリスク)が表示されます。  
 \* (アスタリスク)が表示されている状態では、半角の文字がタイプできます。

注意：半角文字には、カタカナ、数字、英字があります。

注意：表示例は、直接入力の場合です。キーシフト状態は、直前のモードを表示します。ここでは、[カナ] になっています。

キー操作	機能
<b>f.4</b>	全角文字／半角文字の入力モードを切り換える
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;全角文字&gt;</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; width: 150px;">R (カナ) @</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>← <b>f.4</b> → による切り換え</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>&lt;半角文字&gt;</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; width: 150px;">*R (カナ) @</div> </div> </div>	

## [参考]

半角文字には、2 バイトコード文字と、1 バイトコード文字の 2 種類があります。どちらも画面上に半角文字として表示されますが、この 2 つは、まったく違う文字として扱われるので注意してください。

半角文字 — { 2 バイトコード文字 (1234567ハカカ)  
1 バイトコード文字 (1234567ハカカ)

注意：このタイプ方法を使用しても、スペース(空白)だけは 1 バイトコード文字になります。

f.4 キーによってタイプできる半角文字は 2 バイトコード文字です。この 2 バイトコードの半角文字は、ひらがなや漢字の字体(字の形)に合わせて作られており、混在させても見やすい表示が得られます。

## 4.5 JIS16 進コード

f.5


JIS16 進コードによる入力、特殊記号など、キーボードからタイプできない文字や、辞書に登録されていない文字をタイプする場合に使用します。

JIS16 進コードをタイプするには、f.5 キーを押します。

f.5 キーを押すと、キーシフト状態の表示が “[JIS]” に変わります。この状態で JIS コードの 16 進表記 4 桁をタイプすると、その場で、対応する 1 文字が確定されます。このモードは 1 文字を画面に表示するとすぐに直前の文字入力モードにもどります。

参照：JIS16 進コード 「付録 D 漢字コード表」

注意：JIS16 進コードのタイプ時には、直接入力モードになります

キー操作	機能
f.5	JIS 16 進コード入力モードにする
	

このモードから抜けるためには、MS-DOS または MS OS/2 の場合には ESC キーを押してください。BASIC の場合には f.5 キーを押してください。

## 4.6 1バイトコード

f・6

ここでは日本語入力モードで1バイトコード文字をタイプする方法を説明します。

1バイトコード文字とは、命令やコマンドのタイプに用いる“run”や“TYPE”，あるいはカタカナなどの文字です。つまり日本語入力モードに入らないでタイプする文字は、すべて1バイトコード文字です。

2バイトコード文字／1バイトコード文字の切り換えは[f・6]キーで行います。

[f・6]キーを押すと、キーシフト状態の表示の括弧〔 〕の左側にAの文字が表示されます。この状態で、1バイトコード文字をタイプできます。もう一度[f・6]キーを押すと以前のモードにもどり、2バイトコード文字をタイプできます。

注意：1バイトコード入力とは自動的に直接入力になります。

注意：表示例は、AI逐次変換、直接入力の場合です。

キー操作	機能
[f・6]	2バイトコード文字／1バイトコード文字の入力モードを切り換える
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;">                 &lt;2バイトコード文字&gt;                  (英数) @             </div> <div style="text-align: center;">                 ← [f・6] →                  による切り換え             </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;">                 &lt;1バイトコード文字&gt;                  A (英数) @             </div> </div>	

## 4.7 いろいろな文字のタイプ

ここでは、漢字、カタカナ、英字、ひらがな文字が混在した文章を例に、タイプ方法を紹介します。

例文として「アテネでOLYMPICが開催された。」をタイプしてみましょう。

この文中には、漢字“開催”，英字“OLYMPIC”，ひらがな“で，が，された”，カタカナ“アテネ”など、いろいろな種類の文字が混在しています。

## ○読みがなタイプ

- ①カタカナをタイプするために、**f.3** キーを押して入力モードを“R〔カナ〕@”（または“〔カナ〕@”）に変えます。“アテネ”とタイプします。

アテネ ■  
R〔カナ〕@

- ②ひらがなをタイプするために再び**f.3** キーを押してキーシフト状態の表示を“R〔かな〕@”（または“〔かな〕@”）に戻します。ひらがなの“で”をタイプします。

アテネで ■  
R〔かな〕@


- ③英字をタイプするために**f.2** キーを押して入力モードを〔英数〕に変えます。“OLYMPIC”とタイプします。


アテネでOLYMPIC ■  
〔英数〕@


注意：AI 逐次変換,または逐次変換を使用している場合には自動的に第1文節から変換されます。

- ④再びひらがなをタイプするために英数字入力から抜けます。**f.2** キーを押して入力モードを“R〔かな〕”（または“〔かな〕”）に戻します。“が”とタイプします。


アテネでOLYMPICが ■  
R〔かな〕@


参照：“読みがな”のタイプ  「第2部 3.1 漢字のタイプ」



注意：ローマ字入力を使用する場合には、必ず  キーをロックした状態にしておきましょう。

参照：[かな]  「第2部 4.3 ひらがな/カタカナ」

注意：操作例では、AI 逐次変換、直接入力を使用しています。

注意：同音異義語に変換された場合には、 キーを何度か押して候補を表示させ、正しい文字を選択してから、次の操作に進んでください。

参照：確定  「第2部 3.1 漢字のタイプ」

- ⑤漢字の“読みがな”をひらがなでタイプします。キーシフト状態の表示が“R [かな]@”（または“〔かな〕@”）であることを確認します。違う場合は、 ～ キーを押してキーシフト状態の表示を変更してください。

読みがなの“かいさいされた”をタイプします。

アテネでOLYMP I Cがかいさいされた ■  
R [かな] @


### ○変換

- ⑥  キーを1回押して“読みがな”を漢字に変換します。

アテネでOLYMP I Cが開催された。  
R [かな] @

漢字変換の対象になるものはひらがなだけですから、この場合“かいさい”の部分だけが、“開催”に変換されます。

### ○確定

- ⑦変換された漢字が正しい文字へ変換されたので、確定します。スペースキーを押すと表示されているすべての文字が確定されます。次の読みがなをタイプしてもすべての文字が確定されます。 キーを押すと文節ごとに確定されます。

アテネでOLYMP I Cが開催された。 ■  
R [かな] @

# 第5章

## 便利な機能

通常、変換できる“読みがな”は、ひらがなに決められていますが、例外として、英字の略号から機関名への変換、数字3桁の郵便番号から住所への変換を行うことができます。また、部首選択の機能を使用して特殊記号を表示することができます。

### 5.1 略号 → 機関名

参照：辞書への登録 ☞ 「第2部 6.2 辞書への単語登録」

“読みがな”にアルファベットの略号を使用して機関名に変換できるものがあります。辞書ファイル内には、すでにアルファベットの略号を“読みがな”とする機関名が登録されています。この“読みがな”（英字の略号）は機関名の略称などを指定しています。

次に“読みがな”に“WHO”を使用して、“世界保健機関”へ変換する操作例を示します。

参照：英文字(“WHO”)のタイプ ☞ 「第2部 4.2 英数字、英記号」

- ① “読みがな”として略号“WHO”をタイプしてみます。

WHO ■  
(英数) a


- ② XFER キーを押して変換してみます。

世界保健機関  
(英数) a

③確定するために  キーを押します。


操作例で行った“WHO”だけでなく、辞書にはいくつかの機関名が、略称で表示できるように登録されています。次に変換できる“読みがな”と表示される機関名をいくつか示します。

“読み” (略称)	表示内容 (機関名)
ASEAN	東南アジア諸国連合
EC	欧州共同体
	ヨーロッパ共同体
GATT	関税貿易一般協定
IMF	国際通貨基金
IOC	国際オリンピック委員会
JOC	日本オリンピック委員会
NATO	北大西洋条約機構
OPEC	石油輸出国機構
UN	国際連合
WHO	世界保健機関
⋮	⋮
⋮	⋮

参照：辞書ファイル保守ユーティリティ  「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」, 「BASIC ユーザーズマニュアル」, 「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」

どのような機関名が辞書に登録されているかを知るためには、使用するシステムの辞書ファイル保守ユーティリティを使用して辞書の一覧を行い確認してください。


ユーザーが単語登録する場合も、同様に略号で登録することができます。

参照：ユーザーの単語登録  「第2部 6.2 辞書への単語登録」


## 5.2 郵便番号 → 住所

“読みがな”に郵便番号の数字3桁を使用して住所へ変換することができます。この機能を使用すれば、住所録の作成などに大変便利です。“読みがな”には数字3桁を指定します。5桁の郵便番号の場合は先頭の3桁を指定します。


次に、“読みがな”に“101”を使用して、“東京都千代田区”へ変換する操作例を示します。

参照：数字("101")のタイプ   
「第2部 4.2 英数字, 英記号」

- ① “読みがな”として数字3桁“101”をタイプしてみます。

101 ■  
(英数) 


- ②変換するために  XFER キーをタイプします。

東京都千代田区  
(英数) 

- ③確定するために  キーをタイプします。

次に変換できる郵便番号と住所の例をいくつか示します。

“読み” (郵便番号)	表示内容 (住所)
001	北海道札幌市北区
002	北海道札幌市北区
	北海道石狩郡
101	東京都千代田区
411	静岡県田方郡
	静岡県三島市
509	岐阜県土岐市
	岐阜県可児市
	岐阜県瑞浪市
	⋮

参照：辞書ファイル保守ユーティリティ   
「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」,  
「BASIC ユーザーズマニュアル」,  
「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」

どのような郵便番号と住所が辞書に登録されているかを知るためには、使用するシステムの辞書ファイル保守ユーティリティを使用して辞書の一覧を行ってください。

## 5.3 特殊記号


CTRL + f.1

部首選択を使用して記号やギリシャ文字、ロシア文字、罫線、単位、丸付き数字などをタイプすることができます。

操作方法は、部首選択の操作と同様です。違いは、操作②の“読み”に特殊な文字を指定することです。

たとえば、記号をタイプするためには“.”とタイプします。“.”はピリオド(英字)です。

操作は次のようになります。

参照：部首選択  「第2部 3.5 部首選択」

① CTRL + f.1 キーを押して部首選択に入ります。

② “読み”に“.”をタイプします。

まず、f.2 キーを押してキーシフト状態の表示を“[英数]”にしてから、“.”(ピリオド)をタイプしてください。



(英数) 部首

注意：カナ入力を使用している場合には、キーシフト状態の表示が“[かな]”になります。

次に、ひらがなで“き”を表示するために、f.2 キーを押してキーシフト状態の表示を“R [かな]”に戻してから“き”とタイプします。



R (かな) 部首

これで“.”がタイプできました。

③ **XFER** キーで漢字へ変換します。

他の候補を表示するためには、**XFER** キーまたは **↓** キーを押します。

④ 希望の候補が表示されたら、**↵** キーを押して確定します。

§ ■

R (かな) 部首

以上で部首選択を用いた特殊記号のタイプ方法は終わりです。  
この方法に使用できる“読み”には次のようなものがあります。

読み	表示例
・か	「」【】《》 (括弧)
・が	≤ ≥ ∞ ∴ (学術記号)
・き	# @ § ★ (記号)
・ぎ	α β γ δ ε (ギリシャ文字)
・け	十 十 十 十 (罫線)
・た	ミリメートル km (単位)
・と	NoKKTel(株)(有) (特殊文字)
・は	十 十 十 十 (半角罫線)
・ま	①②③④⑤ (丸付き数字)
・ろ	I II III IV V (ローマ数字)
・ろしあ	A B B Γ (ロシア文字)
きごう	〒 ※ § ○ ◎ (記号)

注意：半角罫線は2バイトコード文字です。

参照：2バイトコード「第2部 4.6 1バイトコード」

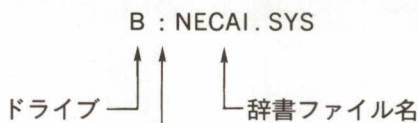
参照：部首選択を使用してタイプできる記号と特殊文字「付録C 部首の読み一覧表」

部首選択を使用してこの他にもいろいろな記号や文字をタイプすることができます。





- ③ここで、ドライブと辞書ファイル名を変更することができます。  
 変更が必要な場合には次の規則に従って指定してください。  
 辞書ファイル名の形式は次のようになります。



“:”記号は区切りとして必ず入れてください

**注意：**N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムではファイル名の大文字と小文字を区別します。辞書ファイル名の文字の指定に注意してください。

**注意：**MS OS/2システムではドライブ名を指定するときは、辞書ファイル名も必ず指定してください。

**注意：**辞書ファイルとして使用できるファイルは事前に決められています。指定以外の辞書ファイルを使用することはできません。

**参照：**パス名の指定 ☞ 「第3部 3.3 MS OS/2の場合」

**参照：**システムに事前に設定した内容 ☞ 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

**参照：**辞書ファイル名とドライブ番号の変更 ☞ 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

**ドライブ** : 使用するシステムにより違います。

N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムではドライブ番号(1, 2, ... など)

MS-DOSシステムではドライブ名(A, B, ... など)

**辞書ファイル名** : 使用するシステムにより違います。

N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムではKNJAI.DIC(または、BUNSET.SU)、MS-DOSシステムではNECAI.SYS(または、NECDIC.SYS)です。


なお、MS-DOSシステムを利用する場合は、辞書ファイルを指定ドライブのルートディレクトリに置いてください。MS OS/2システムを利用する場合は、辞書ファイルをサブディレクトリに置くことができます。辞書ファイルをサブディレクトリに置いた場合には、パス名も必ず指定してください。

- ④変更後に  キーを押してください。

新しく指定した辞書ファイル名、ドライブに切り換えられ、直前のモードにもどります。

以上で辞書の切り換え操作は終了です。

この方法による変更は再変更、またはシステムの再起動まで有効です。システムを再起動すると、ここで指定した内容は無効となりシステムに事前に設定した内容が有効になります。

なお、辞書ファイル名とドライブの変更は  キーによる方法の他に、専用のユーティリティプログラムやファイルを使用する方法もあります。

## ●エラーメッセージの対策

辞書の切り換えに関するエラーメッセージを次に示します。各々の対策に従って対処してください。

メッセージ	対 策
辞書が見つかりません	辞書ファイル名を確認し、もう一度操作する
辞書の指定が不正です	“NECAI.SYS” のように〈ファイル名〉. (ピリオド) 〈拡張子〉 の形で再設定する
ディスクの I/O でエラーが発生しました	指定されたドライブに正しいフロッピーディスクをセットし、再操作する

## 6.2 辞書への単語登録

f・8

システムディスクの辞書ファイルにあらかじめ登録されている単語は、いろいろな分野の文章(新聞, 雑誌, ビジネス文書など)で多く使われている, 使用頻度の高い単語です。従って, 珍しい人名, 会社名のような固有名詞, 特殊な専門用語などは, 単語として登録されていない場合があります。多くの場合, 何度も **XFER** キーを押して, 長い単語を少しずつ(場合によっては1文字ずつ)変換しなくてははいけません。

このような場合のために, 日本語入力機能には, 自由に単語を登録できる機能(単語登録機能)があります。辞書ファイルに独自の単語を登録することで, 変換がより速く, 的確に行われるようになります。

また, この単語登録機能を用いると, 短い読みがなで長い単語を登録することもでき, タイプの手間を軽減することができます。

新しい単語を辞書ファイルに登録する方法には, 次の2通りの方法があります。


- (1) 日本語入力モード中で, **f・8** キーを用いる。
- (2) 辞書ファイル保守ユーティリティを用いる。


ここでは, (1)の方法を説明します。

### 参考: 辞書ファイル保守ユーティリティ

辞書ファイル保守ユーティリティは, 単語登録以外にもいろいろな辞書の保守管理を行うためのユーティリティです。このユーティリティは使用するシステムによって異なります。たとえば, N<sub>88</sub>-日本語 BASIC (86)システムでは dicmen.n88, MS-DOS システムまたは MS OS/2 システムでは DICM を使用します。

注意: MS OS/2 システムでは, ガイドラインとカーソルが重なっている状態で辞書への単語登録 (**f・8**) を行うことはできません。

参照: dicmen.n88  「BASIC ユーザーズマニュアル」

参照: DICM  「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」または「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンス」

## ●単語登録の手順

**[F8]** キーで、画面上の文字を簡単に辞書ファイルに登録することができます。一度、単語とその“読み”を登録すれば、以後はその“読み”で簡単に変換できるようになります。

ここでは、“明広”という文字を“あきひろ”という読みで単語登録してみます。操作手順は、次のとおりです。

① **[CTRL]** + **[XFER]** キーで、日本語入力モードに入ります。

②登録したい単語を画面に表示します。

この例では、読みがなを“みょう”“ひろ”のように分けて変換し、表示します。このように登録前の漢字は、音読み、訓読みを使ってともかく目的の漢字を画面に表示します。

③ **[F8]** キーを押して、単語登録モードにします。画面は、次のようになります。

明広 ■

R (かな) @ 登録：漢字

注意：登録できる単語は、画面に表示されている文字だけです。また、文字数は、全角で16文字以内です。

注意：N<sub>86</sub>-日本語 BASIC(86)システムではキーシフト状態の表示が“AR [カナ]@”に変わります。

注意：単語登録を途中で中止するときは、**[ESC]** キーを押します。

注意：登録できる文字数は16文字以内、登録文字の読みも16文字以内です。

④登録する単語の、範囲を指定します。

まず、カーソル移動キー(**[←]** **[→]** **[↑]** **[↓]** キー)で、カーソルを単語の先頭の文字に位置づけ、**[↵]** キーを押します。

明広

R (かな) @ 登録：漢字

次に、単語の最後の文字にカーソルを位置づけて、**[↵]** キーを押します。登録される単語は、反転表示で表示されます。

明広


R (かな) @ 登録：漢字

注意：1バイトコード文字を含む単語を登録することはできません。

⑤ガイドラインの“漢字”が“読み”に変わります。ここで、16文字以内の読みをタイプします。

入力モードが、1バイトコード入力(ガイドラインの左端が“A”)になるので、英数字またはカタカナ文字で読みをタイプします。

なお、読みに英記号やカナ記号を使用することはできませんので注意してください。

ここでは“アキヒロ”とタイプし、キーを押します。

明広

AR【カナ】@登録：読み アキヒロ







16文字以内の読み

注意：N<sub>86</sub>-日本語 BASIC(86)システムを使用している場合には“品詞の選択”は必要ありません。操作は⑤までです。

⑥読みのタイプ後、品詞の選択になります。





登録する単語に適した品詞をここで指定してください。


品詞の選択は、キーとキーを使用します。

ここではキーを使って“固有名詞”にカーソルを位置付け、キーを押します。画面は次のようになります。

明広

AR【カナ】@登録：品詞 無し 基本語 動詞 固有名詞

⑦より細かい品詞の選択を行います。ここでは選択する項目が数画面にわたっているので、4つのカーソル移動キー(   キー)を使って品詞を選択します。

登録する単語(“明広”)に適した品詞は“名前”です。カーソルを“名前”に位置付け、キーを押してください。

明広

AR【カナ】@登録：品詞 苗字 名前 地名 団体名

以上で品詞の選択操作は終わり、同時に単語登録操作も終わります。

## ●品詞の指定

**注意：**単語登録時に品詞の指定を誤ると正しく変換されなくなりますので注意してください。

参照：品詞の指定 ☞ 「BASIC ユーザーズマニュアル」、「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」、「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」

前項「単語の登録の手順」中の⑥で説明した品詞の選択は、次のように分かれています。登録単語に適した品詞を指定してください。正しく品詞を指定することにより、変換効率が上がります。

品 詞		単語例
無し	——	——
基本語	名詞 サ変名詞 形容詞 形容動詞	日本語 停止 美しい 静かだ
動詞	カ行5段 ガ行5段 サ行5段 タ行5段 ナ行5段 バ行5段 マ行5段 ラ行5段 アワ行5段 1段 サ行変格 カ行変格	行く 泳ぐ 押す 打つ 死ぬ 飛ぶ 飲む 乗る 思う 着る 為す 来る
固有名詞	苗字 名前 地名 団体名 会社名 建物名 商品名	吉川 詳子 東京 商工会議所 日本電気 技術センタービル PC-9801

品詞の指定なしに単語登録を行う場合は、品詞の指定“無し”を選択してください。

なお、動詞、形容詞、形容動詞を登録する場合は、語幹のみを登録してください。

品詞	活用形	登録部分 (語幹)
動詞	行く	行
形容詞	美しい	美し
形容動詞	静かだ	静か

## ●登録単語の使い方

登録した単語は、漢字をタイプする方法と同様に、変換して表示することができます。

ここでは、先ほど登録した単語「明広」を表示してみましょう。

- ①登録単語の“読み”をタイプします。

あきひろ ■  
R (かな) ㊦

- ② **XFER** キーで単語へ変換します。

明広 ■  
R (かな) ㊦

- ③ **↵** キーで確定します。

明広 ■  
R (かな) ㊦

なお単語登録時には単語の“読み”として半角のカタカナや英数字を使用しますが、登録した単語を使用する際には、“読み”として全角文字をタイプしなくてはなりません。

登録した“読み”	使用する“読み”	登録単語
アキヒロ	あきひろ	明広
FAT	FAT	ファイルアロケーションテーブル

## ●単語登録のポイント

ここでは、単語登録機能を使用するうえでの工夫をいくつか紹介します。

- (1) 読みを略語で登録しておく、長い読みの入力を省略できます。
- (例) 読み：FAT      登録単語：ファイルアロケーションテーブル
- (2) 読みをあまり短く登録すると、後で登録した単語が連想しにくくなり、誤変換の原因ともなるので注意しましょう。

(例) 読み：こ      登録単語：コントロールコード

この例で、“ことしのもくひょうは(今年の目標は)”と入力して変換すると、“コントロールコードと市の目標は”などと誤変換されてしまいます。

- (3) 辞書を、個人別、用途別に分けて作成しておく、各々の辞書に専門用語が蓄えられて便利です。また、学習機能により前回選択した語句が最優先で表示されるので、希望する文字に変換されやすい辞書となります。

- (4) 登録した単語や、辞書に含まれている単語を見ることができます。これには、辞書ファイル保守ユーティリティの辞書一覧機能を使用します。

参照：辞書ファイル名の変更  
☞ 「第2部 6.1 辞書の切り換え」または「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

参照：辞書ファイル保守ユーティリティ  
☞ 「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」,  
「BASIC ユーザーズマニュアル」,  
「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」

## ●エラーメッセージの対策

単語登録に関するエラーメッセージを次に示します。各々の対策に従って対処してください。

参照：辞書ファイル保守ユーティリティ  
☞ 「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」,  
「BASIC ユーザーズマニュアル」,  
「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」


メッセージ	対策
登録するための領域が足りません	辞書ファイル保守ユーティリティを使用して辞書を再編成し、もう一度登録する
読みを登録するページがありません	辞書ファイル保守ユーティリティを使用して“読み”を登録するか、辞書を再編成してもう一度登録する
辞書に存在してない読みで単語を登録することはできません	
読みに不正な文字があります	“読み”を変えてもう一度登録する

## 6.3 登録単語の削除

f.9

注意：MS OS/2 システムでは、ガイドラインとカーソルが重なっている状態で登録単語の削除 (f.9) を行うことはできません。

注意：削除できる単語はユーザーが登録した単語だけです。この例では“明広”が事前に辞書に登録してあるものとします。

参照：辞書への単語登録  「第2部 6.2 辞書への単語登録」

注意：単語削除を途中で中止するには、ESC キーを押してください。

注意：N<sub>88</sub>-日本語 BASIC (86) システムではキーシフト状態の表示が“AR [カナ]@”に変わります。

日本語入力モード中に **f.9** キーを押すと単語削除ができます。この方法により、画面上の文字を辞書から削除することができます。

操作手順は、次のようになります。

①日本語入力モードに入ります (CTRL + XFER キー)。

②削除したい単語を画面に表示します。

ここでは単語“明広”を削除してみましょう。

“あきひろ”の読みがなで漢字に変換し画面に表示します。

③ **f.9** キーを押して、単語削除モードにします。画面は次のようになります。

明広 ■


R (かな) @ 削除：漢字

④削除する単語を指定します。

カーソル移動キー (← → ↑ ↓ キー) で、カーソルを削除したい単語の先頭に位置づけ、リターンキーを押します。

明広


R (かな) @ 削除：漢字

次に、単語の最後の文字にカーソルを位置づけて、 キーを押します。

明広

R (かな) @ 削除：漢字

⑤ガイドラインの“漢字”が“読み”に変わります。ここで、16文字以内の“読み”をタイプします。入力モードは1バイトコード入力(ガイドラインの左端が“A”)になっています。

ここでは、単語“明広”の読み“アキヒロ”をタイプし、キーを押します。

明広

AR【カナ】@ 削除：読み アキヒロ ■



16文字以内の読み

⑥辞書ファイルから登録単語が削除され直前のモードに戻ります。

以上で単語削除の操作は終了です。登録した単語が不用になったら、この方法で削除してください。

## ●エラーメッセージの対策

単語削除に関するエラーメッセージを次に示します。各々の対策に従って対処してください。

メッセージ	対策
この語句は削除できません	削除できる単語はユーザーが登録した単語だけなので、語句を確かめる
読みまたは語句が見つかりません	辞書に登録されていない文字であるので、語句を確かめる

## 辞書とは

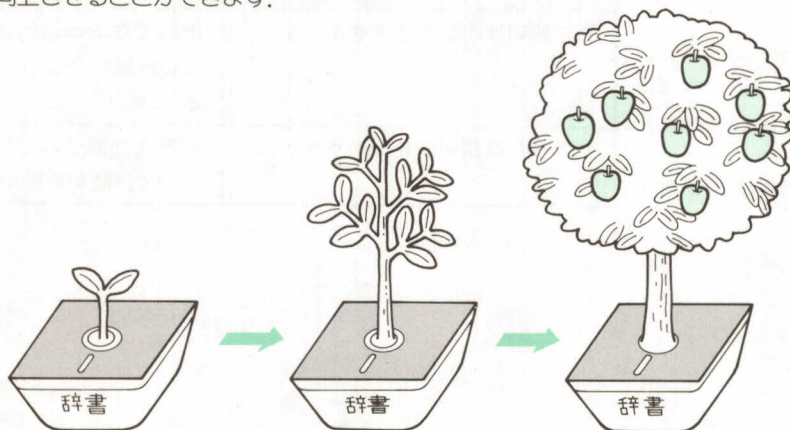
英和辞書は英単語から日本語の意味が引けます。国語辞書は読みから漢字と意味を引くことができます。このように辞書では、1つのキーワードから対応する項目を引き出すことができます。この対応する項目が表形式で並んだものが辞書です。コンピュータの日本語入力機能で使用する辞書は“読みがな”から漢字を引くことができるように作られています。また、漢字がどの品詞に分類されるかも書かれています。

たとえば「よしこ」という“読みがな”から「美子、良子…」などの漢字を探することができます。これらの漢字は固有名詞の名前のグループに入ります。

次に辞書ファイル内の一部を示します。

読み	漢字	品詞
あ	会, 合, 明, 空	動ア 5
	開, 在, 有	動カ 5
	編	動マ 5
	逢, 遭	動ラ 5
	阿, 安, 亜, 啞, 網, 我,	
あっ	圧	動サ変
あっか	悪化	基名詞, 動サ変
あっかん	圧巻	基名詞
あっさく	圧搾	基名詞, 動サ変

ところで、辞書ファイルには新しく自由な“読み”を付けて文字列を登録することができます。この単語登録によってユーザー独自の登録語を増やし、辞書を成長させていくと、日本語入力機能の使い勝手を一段と向上させることができます。



また、辞書ファイルを固定ディスクにコピーして利用すると、漢字への変換速度が著しく向上します。

# 第7章

## 環境設定、情報表示

日本語入力機能の環境設定(**f・10**キー)を使うことにより、かな漢字変換方式を決める“変換方式”の変更、直前に選択した漢字を最優先に表示する“学習機能”の有無の切り換え、そして読みがなのタイプ中に辞書から該当する文字をメモリ内に読み込んでおく“先読み機能”の有無の切り換えを、それぞれ行うことができます。また、情報表示(**HELP**キー)を使用すれば、現在設定されている環境を表示し確認することができます。

この章では、設定方法について説明します。設定する内容の詳しい説明は他の章を参照してください。

参照：環境設定の詳しい設定内容  
☞ 「第3部 第1章 変換方式」,  
「第3部 第2章 学習機能、  
先読み機能」

### 7.1 環境設定

**f・10**

環境設定は、**f・10**キーで行います。この設定は一時的なものです。システムの再起動時には、事前にシステムに指定した設定にもどります。設定を変更するときは、次の手順に従ってください。

① **CTRL** + **XFER** キーで日本語入力モードに入ります。

② **f・10** キーを押すと環境設定が行えます。

**f・10** キーを押すと逐次／連文節変換を指定している場合と単文節変換を指定している場合では表示される選択項目が違います。

ガイドラインは次のように変わります。

参照：事前にシステムに指定した設定  
☞ 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

注意：逐次変換には、AI 逐次変換が含まれます。また、連文節変換には、AI 連文節変換が含まれません。

注意：キーシフト状態の表示が〔設定〕になります。

### ○逐次／連文節変換の場合

R〔設定〕 @  逐次変換  逐文節 連文 学習  有 無 先読み  有 無

注意：AI逐次変換を使用している場合にも、画面の表示は“逐次”です。

画面の表示例は、変換方式が“逐次”，学習機能が“有”，先読み機能が“有”に設定されています。

### ○単文節変換の場合

単文節変換では学習機能の“有，無”の選択のみです。④に進んでください。

注意：キーシフト状態の表示が〔学習〕になります。

R〔学習〕  有 無

注意：逐次変換を選択した場合には、先読み機能を“無”に変更できません。

③逐次／連文節変換の場合それぞれの設定項目は、 TAB キーで移動できます。最初は“変換方式”が選択(反転表示)されています。

④変更したい設定項目が反転表示されているときに、 → キーまたは  ← キーを使って、カーソルを設定したい選択項目に移動してください。

注意：環境設定を中断するためには、 ↵ キーを押す前に  ESC キーを押してください。直前のモードに戻ります。

⑤  ↵ キーを押すと指定が有効になります。画面は直前のモードにもどります。

## 7.2 情報表示

HELP

HELP キーを押すと、現在指定している辞書ファイル名、変換方式、学習機能の有無、そして先読み機能の有無が表示されます。

① CTRL + XFER キーで、日本語入力モードに入ります。

② HELP キーを押してみます。

ガイドラインのキーシフト状態の表示が“(情報)”になります。

なお、使用しているシステムによって辞書ファイル名が異なります。たとえば、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムの場合は“KNJAI.DIC”、MS-DOS または MS OS/2 の場合は“NECAI.SYS”などとなります。次の例は MS-DOS の場合です。

## ○逐次変換または連文節変換の場合

辞書ファイル名、変換方式、学習機能、先読み機能を表示します。

(情報) 辞書 B:NECAI.SYS 変換方式 逐次 学習 有 先読み 有

## ○単文節変換の場合

辞書ファイル名、学習機能を表示します。

(情報) 辞書 B:NECDIC.SYS 学習 有

③ ESC キーを押すと、情報表示は終了し、もとのモードにもどります。

注意：逐次変換には、AI 逐次変換が含まれます。また、連文節変換には、AI 連文節変換が含まれます。



# 第 3 部

知っておいてほしい知識

本部では、日本語入力機能を操作する上で知っておいてほしいそれぞれの変換方式の違いと、学習機能、先読み機能の意味について解説します。また、日本語入力機能をさまざまなシステム上で使用する場合に必要な指定を、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システム、MS-DOS システム、MS OS/2 システムを例に挙げて解説します。

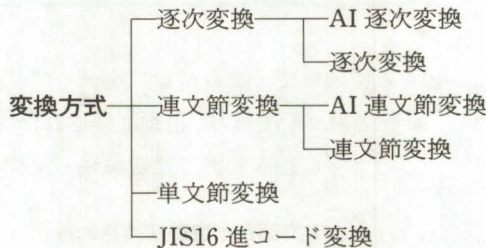
# 第1章

## 変換方式

参照：AI 逐次変換，AI 連文節変換  
☞ 「第3部 第1章 [コラム] AI かな漢字変換」

日本語を表示するためには“読みがな”を変換しながら文字をタイプします。変換方式には、文字を続けてタイプすれば自動的に変換が行われる AI 逐次変換と逐次変換、いくつかの文節ごとに変換操作を行いながらタイプする AI 連文節変換と連文節変換、1 文節ごとに変換を行う単文節変換、そして漢字コードをタイプする JIS16 進コード変換の 4 種 6 方式の変換方式があります。本書では AI 逐次変換と AI 連文節変換をそれぞれ逐次変換，連文節変換の 1 つとして説明します。

### ●変換方式の種類



注意：MS OS/2 システムでは、AI 逐次変換，AI 連文節変換のみが使用できます。

変換方式は、ユーザーが最も使いやすい状態に指定することが必要です。初期設定では AI 逐次変換が設定されていますが、自動変換機能のある逐次変換も、使い慣れないと、希望の候補を表示するために何度も変換操作を行わなければならないこともあります。このような場合には変換方式を連文節変換に変更して変換操作を行うことをお勧めします。また、メモリ容量が少ない場合でも日本語が使えるようにするためには単文節変換を使用してください。辞書ファイルが使えないような場合には JIS16 進コード変換を使うことができます。

参照：直接入力/間接入力 ☞ 「第2部 2.2 直接入力/間接入力」

なお、これらの変換方式は、直接入力を使用するか、または間接入力を使用するかによって画面表示が一部異なります。

次に 4 つの変換方式を、「故郷の川で過ごした年月。」を例文に説明します。

## 1.1 逐次変換

**注意：**AI 逐次変換ではガイドラインに@マークが表示されますが、逐次変換では@マークは表示されません。

AI 逐次変換と逐次変換の操作方法は同じです。文中では AI 逐次変換と逐次変換を、合わせて逐次変換と呼びます。

逐次変換は、“読みがな”をタイプしていくと変換キーを押さなくても自動的に先頭の読みから漢字へ変換していく方法です。

4 文節目をタイプすると 1 文節目が自動的に漢字に変換されます。続けて読みがなをタイプすると、文節ごとに順次(逐次)漢字へと変換されていきます。

操作は次のようになります。

- ① “読みがな” をタイプします。

こきょうのかわで ■

R (かな) @

- ② さらに続けて “読みがな” をタイプすると、自動的に最初の文節から変換されていきます。自動変換された文節は下線付きで表示されます。このように逐次変換では変換キーを押さなくても自動変換されます。


↓ 1 文節目が自動変換される

故郷のかわですこしたとしつき ■

R (かな) @

**注意：**下線付きの部分が正しく変換されていない場合も心配することはありません。後で再変換することができます。

**参考：**変換するために使用するキーは、句読点の他に **XFER** キーも使用できます。

**参照：**変換に使用するキー  「第2部 3.1 漢字のタイプ」

**注意：**ここで反転表示部分と下線付き表示部分が入れ換わります。

- ③ 反転表示部分を変換するために、句読点(□ □)を押します。ここでは、文の最後の「。」をタイプするために □ キーを 1 回押しします。画面は次のように変わります。

故郷の川で過ごした年月。

R (かな) @

反転表示の部分は再変換または確定することができます。

注意：自動変換された漢字が正しく変換されていればこの操作は必要ありません。⑤へ進み漢字の確定を行います。

参照：正しい候補を表示する操作  
☞ 「第2部 3.1 漢字のタイプ」

#### ④漢字の次候補を表示します。

自動変換された漢字が正しく変換されていない場合には正しい候補を表示する操作を行います。この操作は反転表示している部分に対してのみ有効です。

例文は、正しく変換されているのでこの操作は行いません。

#### ⑤正しく変換できた漢字を確定します。

例では全ての文節が正しく変換されたので、この文を確定します。

☞ キーを押すと文節ごとに確定できます。

スペースキーを押すか、または次の“読みがな”をタイプするなどの次の操作を行うと、現在表示されている内容(反転表示部と下線付き部)がすべて確定されます。

故郷の川で過ごした年月。■

R (かな) Ⓜ

参照：次候補の表示、確定 ☞ 「第2部 3.1 漢字のタイプ」

この例文では一度に全ての文節を確定しましたが、文によっては正しく変換されない文節もあります。その場合には、④(次候補の表示)、⑤(確定)の操作を繰り返してください。

以上で逐次変換の操作は終わりです。

逐次変換は、使い初めに誤変換や正しく文節が区切られないなど、少し使いづらい印象があります。これは、それぞれのユーザーに合った辞書の学習が充分に行われていないからです。日本語入力機能を使い進めるうちに辞書の学習が行われ、しだいに使用頻度の高い文字が少ない変換操作で表示されるようになります。

ですから使い初めのうちは④(次候補表示)と⑤(確定)の操作を何度か繰り返して行うことになります。

参照：辞書の学習 ☞ 「第3部 2.1 学習機能」, 「第2部 6.2 辞書への単語登録」

### ●逐次変換の使用上の注意

使用する入力方式(直接/間接入力)によって、使用できる“読みがな”の文字数、一回の変換操作で変換できる文節数に違いがあります。

	“読みがな” の最長文字数	一度に変換できる文節数	
		BASIC の場合	MS-DOS, MS OS/2 の場合
直接入力	64	32	32
直接入力(画面最下行時)	32	32	16
間接入力	32	32	16

## 1.2 連文節変換

AI 連文節変換と連文節変換の操作方法は同じです。文中では AI 連文節変換と連文節変換を、合わせて連文節変換と呼びます。

注意：AI 連文節変換ではガイドラインに@マークが表示されますが、連文節変換では@マークは表示されません。

連文節変換は、複文節の“読みがな”をタイプし、**XFER** キーを押して漢字に変換します。

連文節変換では、句読点または **XFER** キーによって変換操作を行います。逐次変換のような自動変換は行われません。

① “読みがな” をタイプします。

「こきょうのかわですごしたとしつき」とタイプします。

こきょうのかわですごしたとしつき

R (かな) @

② 句読点(、。)または **XFER** キーにより漢字へ変換します。

**.** キーを1回押すと、画面は次のように変換されます。

故郷の川で過ごした年月。

R (かな) @

参照：正しい候補を表示する操作  
「第2部 3.1 漢字のタイプ」

③漢字が正しく変換されない場合には、**XFER** キーによる次候補の表示を行います。ここでは正しく変換されているのでこの操作は行いません。

④最後に確定を行います。

**↵** キーを押して文節ごとに確定するか、またはスペースキーを押して全文節を確定します。

故郷の川で過ごした年月。■

R (かな) Ⓜ

この例では一度に全ての文節が正しく変換されましたが、正しく変換されない文節に対しては③、④の操作を繰り返し、正しい漢字になるまで変換操作を行ってください。

以上で連文節変換の操作は終わりです。

連文節変換ではいくつかの文節の読みをまとめてタイプし、後から**XFER** キーで変換、確定操作を行います。ですから何回か③(変換)、④(確定)の操作を繰り返しながらタイプしていくことになります。

## ●連文節変換の使用上の注意

連文節変換を使用する場合、使用する入力方式(直接/間接入力)による操作上の違いはありません。日本語入力機能の制限は次のようになっています。

	"読みがな"の最長文字数	一度に変換できる文節数	
		BASIC の場合	MS-DOS, MS OS/2 の場合
直接入力	64	32	32
直接入力(画面最下行時)	32	32	16
間接入力	32	32	16

## 1.3 単文節変換

単文節変換は、“読みがな”の文節単位に **XFER** キーを押して、漢字に変換します。

単文節変換の操作は今までと同様の手順で行います。他の方法との違いは、文節ごとに変換、確定の操作を行わなければならない点です。

注意：単文節変換は文節変換とも呼びます。

①読みがなを1文節ずつタイプします。

「こきょうの」とタイプします。

こきょうの ■

R (かな)

② **XFER** キーで漢字へ変換します。

故郷の

R (かな)

注意：単文節変換では、変換操作を行うためのキーは **XFER** キーだけです。**⇐** キーでは変換操作を行うことはできません。

③ **XFER** キー(または **↓** キー)で次候補を表示します。

例では正しく変換されているので、この操作は必要ありません。

④漢字を確定します。正しい漢字に変換していることを確認して、**⇐**

キーを押すか次の読みがなをタイプして漢字を確定します。ここでは、

1回 **⇐** キーを押して“故郷の”を確定します。

故郷の ■

R (かな)

以降、①から④の操作を繰り返します。

ここでは①へ戻り続きの“読みがな”をタイプします。画面は正しく変換できた状態です。

故郷の川で過ごした年月 ■

R (かな)

以上で単文節変換の操作は終わりです。

### ●単文節変換の使用上の注意

単文節変換方式は他の変換方式に比べ、より少ないメモリ容量で使用できます。

日本語入力機能の制限は、次のとおりです。

“読みがな”最長文字数	32
1度に変換できる最大文節数	16

### ●連続変換

単文節変換は1文節ごとに **XFER** キーを押して漢字へ変換する方法ですが、事前に“読みがな”だけをまとめてタイプし、後で文節ごとに変換する方法を連続変換と呼びます。次に操作方法を示します。

①読みがなをまとめてタイプします。

単文節変換を使用して変換をしますが、ここでまとめて“読みがな”をタイプしておきます。

こきょうのかわで過ごしたとしつき ■

R (かな)

注意：画面例は直接入力の場合です。

②変換する単位の文節を指定するために、カーソルを移動します。カーソルは文節の直後に位置づけます。

ここでは、第1文節(こきょうの)の直後“か”にカーソルを移動します。

こきょうの**か**わですごしたとしつき

R (かな)

注意：この時残りの“読みがな”は表示されません。

③指定した文節を漢字に変換するために **XFER** キーを押します。

変換された漢字が希望の漢字でない場合は **XFER** キー(または **↓** キー)を押して次候補を表示し、希望の漢字を表示させます。直前の候補に戻る場合は **↑** キーを押します。

故郷の

R (かな)

ここで、“読みがな”が辞書に登録されていない場合は漢字に変換されず“読みがな”のままとなります。また、**XFER** キー(または **↓** キー)を押して次候補を表示させ、それ以上候補がなくなると最初の“読みがな”の状態に戻ります。

④希望の漢字に変換できたら **↵** キーを押して漢字を確定します。

ここで、残りの読みがなが反転表示されます。

故郷の**か**わですごしたとしつき ■

R (かな)

以降は②から④までの操作を繰り返して、正しく変換します。

故郷の川で過ごした年月 ■

R (かな)

以上で連続変換の操作は終わりです。

#### ○連続変換の使用上の注意

連続変換を行う場合の日本語入力機能の制限は次のとおりです。

システム	“読みがな”の最長文字数
BASIC	32
MS-DOS	32
MS OS/2	32

## 1.4 JIS16 進コード変換

JIS16 進コード変換は文字のコード番号を直接タイプして1文字ずつ表示する変換方式です。

N<sub>88</sub>-BASIC (86) (ROM モード) システムでは、この変換方式のみを使用できます。その他のシステムでこの変換方式を使用するためには、システムに対する指定が必要です。

この変換方式は、直接漢字 ROM 内の文字を使用するため、辞書ファイルもメモリも使用しません。


JIS16 進コード変換方式は、他の変換方式中で使用できる JIS16 進コード入力 (f.5 キー) と操作方法が大変よく似ていますが別のものですので混同しないようにしてください。

BASIC システムを使用する場合と MS-DOS システムを使用する場合では画面表示が少し違います。次に各々の操作方法を説明します。


参照：日本語に関するシステムの指定 ㊦ 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

参照：JIS16 進コード入力 ㊦ 「第2部 4.5 JIS16 進コード」

## ● BASIC システムの場合

参照: setup.n88  「第3部 3.1 N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)の場合」

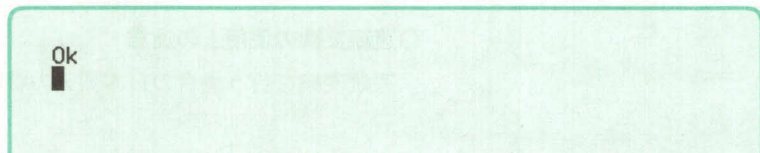
注意: BASIC システムでディスプレイ装置が横40桁表示の場合は、日本語入力モードに入るとJIS16進コード変換のみが使用できます。

参照: JIS16進コード(漢字コード)  「付録D 漢字コード表」

注意: タイプしたコード番号がそのまま表示される状態では日本語入力モードへは入っていません。

N<sub>88</sub>-BASIC(86)(ROMモード)システムを使用しているか、またはN<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)(DISKモード)システムで属性設定ユーティリティ(setup.n88)からJIS16進コード変換を選択した場合には、次のような操作で日本語入力機能を使用します。

- ①日本語入力モードに入ります(CTRL + XFER キー)。



このとき、画面には何の変化もありません(ガイドラインは表示されません)。注意してください。

- ②JIS16進コードをタイプします。

JIS16進コード4桁をタイプすると自動的に漢字に変換されます。例えば“航”の文字は、そのJIS16進コードである“3952”をタイプすると、自動的に表示されます。つづけてJIS16進コードをタイプすると、次々にコードに合った漢字に変換されて表示されます。誤ったJIS16進コードをタイプするとスピーカが鳴ります。最初から正しいコードをタイプし直してください。



- ③日本語入力モードから出ます(CTRL + XFER キー)。

## ● MS-DOS システムの場合

参照：CONFIG.SYS ファイル  
☞ 「第3部 3.2 MS-DOS  
の場合」

注意：[カナ] キーがロックされて  
いるとスピーカが鳴り JIS16 進コ  
ード変換が行えません。

注意：コンソール入出力(キーボ  
ード、画面)がグラフ文字を扱うモ  
ードになっている状態、例えばエ  
スケープシーケンスコード"ESC"  
3"が発行された後などは JIS16 進  
コード変換が行えません。

注意：JIS16 進コード変換を中断  
するためには [CTRL] + [XFER]  
キーを押してください。

MS-DOS システムでは、システム構築ファイル(CONFIG.SYS ファ  
イル)内に日本語入力機能に関する指定がないか、またはCONFIG.SYS  
ファイル自体がない場合には、日本語入力モードに入ると自動的に  
JIS16 進コード変換が採用されます。

- ①日本語入力モードに入ります([CTRL] + [XFER] キー)。
- ②ガイドラインが次のように表示されます。

A> █  
(16進)

- ③この状態で JIS16 進コードをタイプすると、コードに対応する文字を  
表示することができます。文字は画面内のカーソル位置にそのまま表  
示されます。
- ④1文字の表示が終わると自動的に日本語入力モードから抜け出ます。

以上で JIS16 進コード変換の操作は終わりです。

## ● MS OS/2 システムの場合

参照：日本語入力機能に関する指  
定☞ 「第3部 3.3 MS OS/2  
の場合」

MS OS/2 システムでは、JIS 16 進コード変換は使用できません。  
なお、MS OS/2 システムで日本語入力機能を使用するためには、シス  
テム構築ファイル (CONFIG.SYS ファイル) 内に日本語入力機能に関  
する指定が必要です。

## AI かな漢字変換

日本語には、同音異義語がたくさんあります。ですから、「読みがな」を漢字に変換するためには、この同音異義語の中からどれが適当な漢字を選択しなければなりません。

たとえば、「彼が東京を発つ」の文中の、動詞「たつ」についてみると、「立つ、建つ、発つ」などの同音異義語があります。これらは、同じ「たつ」でも意味によって使い分けられます。したがって、この例文を正しく変換するためには、「たつ」に対する漢字候補の中から、ユーザーが希望の漢字を選択しなければなりません。

そこで、もし「彼が東京を発つ」、「彼が大地に立つ」などの文をその意味に合うように「発つ」と「立つ」などに使い分けて変換することができれば、大変に便利で漢字への変換操作が簡単になるでしょう。つまり、変換する文節（「たつ」など）と、前の文節（「東京を」、「大地に」など）との間に意味のつながりを見つけ、同音異義語の中から、文にあった語を表示できればよいのです。このような処理のできる変換方式がAI かな漢字変換（AI 逐次変換／AI 連文節変換）です。

AI かな漢字変換の機能は、学習機能よりも優先されます。たとえば、「子供は親に似る」という文を直前に確定すると、「にる」の「読みがな」に対しては、学習機能により、「似る」が優先的に表示されてしまいます。つまり、「お田さんが魚を似る」のように誤って変換されてしまう可能性があります。ところが、AI かな漢字変換では、「お田さんが魚を煮る」のように正しい動詞（「煮る」）を優先的に表示することができます。

また、AI かな漢字変換は、ユーザーがある文節の内容を変更すると、続く文節を、変更した文節と意味が合う漢字候補に自動的に変更します。たとえば、最初の変換操作によって文が、「彼女が吸収に規制する」と変換されてしまったとします。そこで、ユーザーが「吸収に」を「九州に」に変更すると、AI かな漢字変換は、変更された文節に合わせて、続く文節の「規制する」を「帰省する」に自動的に変更します。

このように、AI かな漢字変換によって、よりスムーズな日本語入力が行えます。

# 第2章

## 学習機能、先読み機能

### 2.1 学習機能

日本語入力機能の中には、同音異義語の中で、以前(一番最近)に選択された語を、辞書の候補群の先頭に登録しておく“学習機能”があります。

たとえば、いま、「器官」という語句を表示したいとしましょう。そして、読みがなの「きかん」をタイプして **[XFER]** キーを押しても「期間」や「機関」などの語に変換されてしまい、「器官」が表示されるまでには、何回か **[XFER]** キーを押さなければならないとします。しかし、一度「器官」を選んで確定してしまうと、次回からは、最初に「器官」が表示されるようになります。もちろん、このとき「機関」で確定すると、次には「機関」が最初に表示されるようになります。


こうして、漢字を選択するごとに、最も新しく選択した漢字が最初に、その1つ前の操作で選択した漢字が2番目に、というように辞書内の候補群の順番が並べ替えられていきます。

こうした学習機能の働きによって、最近使った語句は常に変換候補の初めの方に現れることになり、結果として変換効率を高めることができます。

学習を充分に行った辞書ファイルは、漢字表示の順序が決まってきます。この充分に学習済みの辞書ファイルの内容(漢字の順序)を変更したくない場合や、そのときに限って特殊な用語を使う場合、また他の人のシステムディスクを借りて日本語入力機能を使用する場合など、辞書に学習結果を残さない方がいいこともあります。このようなときには学習機能が働かないように設定することができます。通常、この機能は“有”(学習機能が働く状態)に設定されていますが、これはいつでも“無”(学習機能が働かない状態)に切り換えられます。

なお、学習機能の設定は、**[f・10]** キーによって行います。

注意：初期設定では、学習機能“有”に指定してあります。

参照：学習機能の設定  「第2部 7.1 環境設定」

## 2.2 先読み機能

---

注意：単文節変換では“先読み機能”が使えません。

参照：先読み機能の設定  
「第2部 7.1 環境設定」

先読み機能は、ユーザーが“読みがな”をタイプしていくのに連動して、その読みに対応する単語を辞書から先(変換キーを押す前)に読み込んでおく機能です。これにより、文字の変換に要する時間を短縮することができます。

AI 逐次変換(または逐次変換)を選択すると自動的に先読み機能“有”に設定されます。また、連文節変換を指定した場合には先読み機能の有無を自由に設定することができます。先読み機能を“無”(先読み機能が働かない状態)に設定すると、変換キー(  ,  ,  キー)が押されてから辞書が参照されるようになります。通常、この機能は“有”(先読み機能が働く状態)に設定されています。

なお、先読み機能の設定は  キーによって行います。

# 第3章

## 日本語入力機能を使うために

注意：640 K バイトタイプシステムディスクをご利用になる場合には、辞書ファイルの準備が必要です。☞ 「付録 E 640 K バイトタイプシステムディスクの場合の準備」

注意：初期状態では AI 逐次変換が使用できるよう設定されています。

本書で説明している日本語入力機能を使用するためにはシステムに対する設定が必要です。システムのお買い上げ時には、初期状態として日本語入力機能が使用できるように設定済みですが、ユーザー独自のシステムディスク内で日本語入力機能を使用するためには、システムに対する設定を独自に行わなければなりません。

また、初期状態の変換方式を変更するためにもシステムに対する設定が必要となります。

### 参考：ユーザー独自のシステムディスク

お買い上げになったシステムディスクから、システムファイルと必要なコマンドのファイルだけを選んでコピーし作成したディスクが、ユーザーのシステムディスクです。このディスク内にはコマンドのファイルだけでなくユーザーが頻繁に使用するユーティリティプログラムやアプリケーションプログラムのファイルなども納めることができます。

注意：日本語入力機能を使用するための指定がない場合は、JIS16 進コード変換が採用されます。

日本語入力機能を使用するために必要な設定は使用するシステムによって異なります。

ここでは N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システム、MS-DOS システム、MS OS/2 システムを例に挙げ、それぞれのシステムで日本語入力機能を使用するための設定方法を説明します。

### ●日本語入力機能を使用するために必要な設定のシステムによる違い

システム	指定方法	必要なファイル
BASIC	setup.n88 ユーティリティプログラム	辞書ファイル (KNJAI.DIC) (または、BUNSET.SU)
MS-DOS, MS OS/2	CUSTOM コマンド (または、エディタ)	CONFIG.SYS ファイル 辞書ファイル(NECAI.SYS) (または、NECDIC.SYS)

3.1 N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)の場合

setup.n88

**注意:** 640K バイトタイプシステムディスクをご利用になる場合には、辞書ファイルの準備が必要です。☞「付録E 640K バイトタイプシステムディスクの場合の準備」

**注意:** 再起動とは、リセットキーを押すか、またはパソコンの電源を再度 **ON** にして N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムを再度起動することです。

**参照:** setup.n88 ユーティリティ ☞「BASIC ユーザーズマニュアル」

**注意:** 画面中で白地の部分はユーザーがタイプする部分です。

**注意:** “setup.n88” はメニュー(menu)からも実行できます。

**参照:** メニュー ☞「BASIC ユーザーズマニュアル」

N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムの初期状態では、日本語入力機能が使用できるように、すでに設定されています。

しかし、初期状態の変換方式を変更したり、新しく作成したユーザーのシステムディスク内で日本語入力機能を使用する場合には、“setup.n88” ユーティリティプログラムを使用して、“変換方式”、“辞書ファイルのドライブ番号”を指定してください。

“setup.n88” ユーティリティによる設定は、システムの再起動後に有効になり、その後改めて変更するまで変化しません。

次に setup.n88 ユーティリティを使用して日本語入力機能を設定する方法を解説します。ただし setup.n88 ユーティリティの操作は日本語入力モード中からできません。日本語入力モードからいったん抜けてから操作を行ってください。

なお、日本語入力機能の設定の操作は必要な場合にだけ行ってください。誤って設定を変更してしまった場合には、操作手順に従って正しく変更し直してください。

以下の操作は N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムのプロンプトが表示されている状態から手順に従って操作を行ってください。

- ① “setup.n88” をディスクからロード(読み込み)します。“setup.n88” は “BASIC ユーティリティプログラムディスク” 内に入っています。

```
load"setup.n88" ☞
```

なお、“setup.n88” はドライブ 1 から起動してください。他のドライブから起動すると “Disk offline” のエラーメッセージが表示されます。

- ② プログラムを実行します。

```
run ☞
```

注意：このとき、ドライブにシステムディスクをセットしてから、ドライブ番号を指定してください。

③次のメッセージが画面に表示されます。

ここで、システムディスクをセットしているドライブ番号をタイプします。ここでは例として“1”を指定します。

N88-日本語BASIC(86) セットアップユーティリティ  
システムディスクがセットされているドライブは? 1

④画面が次のように変わります。

この画面はメニュー形式になっています。この画面では↑と↓キーによって反転部分を上下の項目に移動することができます。

ここでは“日本語入力属性の設定”を選択します。↑または↓キーを使用して反転部分を“日本語入力属性の設定”に位置づけ←キーを押します。

N88-日本語BASIC(86) セットアップユーティリティ  
【基本メニュー】

日本語入力属性の設定  
画面ハードコピーの機能設定  
演算モードの設定  
終 了

↑キー、↓キーで選択してRETURNキーを押すとその処理に移ります

注意：終了するまではシステムディスクを入れ換えないでください

⑤現在設定されている日本語入力機能の環境が表示されます。

N88-日本語BASIC(86) セットアップユーティリティ  
【日本語入力属性の設定】

日本語入力方式：

AI 逐次変換 AI 連文節変換 逐次変換 連文節変換 単文節変換 JISコード入力

辞書ファイルのドライブ：

SYSTEM 1 3 4 5 6 7 8 9 10 . . . . .

注意：JISコード入力(JIS16進コード変換方式)を設定した場合には、“辞書ファイルのドライブ”の行へカーソルは移動しません。

参照：JIS16進コード変換方式  
「第3部 1.4 JIS16進コード変換」

参照：AI逐次変換，逐次変換  
☞ 「第3部 1.1 逐次変換」

参照：AI連文節変換，連文節変換  
☞ 「第3部 1.2 連文節変換」

参照：単文節変換 ☞ 「第3部  
1.3 単文節変換」

参照：JISコード入力 ☞ 「第3  
部 1.4 JIS16進コード変換」

現在設定されている内容は、日本語入力方式(変換方式)が“AI逐次変換”，辞書ファイルのあるドライブ番号が“2”となっています。

“日本語入力方式”は、6つの変換方式、AI逐次、AI連文節、逐次、連文節、単文節、JISコード入力(JIS16進コード)の中から選択します。

“初期入力モード”は、起動時に利用する変換方式を選択します。

“辞書ファイルのドライブ”は、辞書ファイルの入っているドライブ番号を選択します。“SYSTEM”とは、システム起動時にシステムディスクをセットしたドライブです。

この画面で、設定内容を変更できます。メニューカーソル(反転表示)を、カーソル移動キー(→ ← ↑ ↓)を使って選択項目に位置づけると、項目が反転表示されます。

変更する場合は、設定内容を確認し、最後に $\left[ \leftarrow \right]$ キーを押してください。


設定を中断するには、 $\left[ \text{STOP} \right]$ キーまたは、 $\left[ \text{CTRL} \right] + \left[ \text{C} \right]$ キーを押してください。設定内容は変更されず、④の画面にもどります。

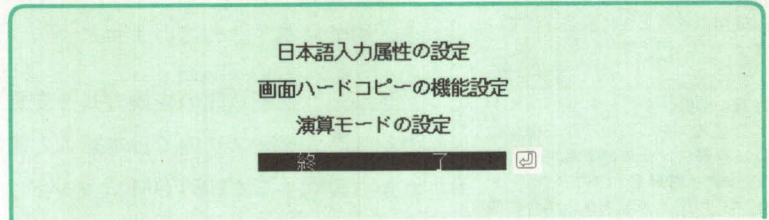
⑥画面には次のメッセージが表示されます。

変更してよろしいですか(y/n)? ■

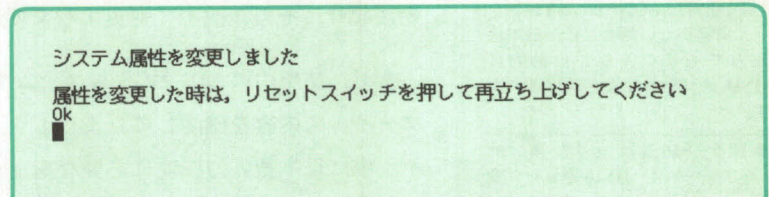
“y”を押すと、システムの設定を変更できます。画面は④へもどります。

“n”を押すと、画面は⑤へもどります。もう一度設定を行うことができます。

- ⑦最後に“終了”にメニューカーソルを位置づけ、キーを押してください。



- ⑧次のメッセージが表示されます。



以上で“setup.n88”ユーティリティによる日本語入力機能に関する設定は終わりです。

最後に、指定した設定を有効にするために、N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムを再起動してください。

### 3.2 MS-DOS の場合

### CUSTOM, エディタ

**注意:** 初期状態では AI 逐次変換が使用できるように設定されています。

**注意:** 640K バイトタイプシステムディスクをご利用になる場合には、辞書ファイルの準備が必要です。☞「付録 E 640K バイトタイプシステムディスクの場合の準備」

**注意:** システム構築ファイル (CONFIG.SYS ファイル) 内に日本語入力機能に関する指定がないか、または CONFIG.SYS ファイル自体がない場合には、日本語入力モードに入ると自動的に JIS16 進コード変換が採用されます。

**参照:** JIS16 進コード変換 ☞「第3部 1.4 JIS16 進コード変換」

**注意:** 画面中で、白地の部分はユーザーがタイプする部分です。

MS-DOS システムの初期状態では、日本語入力機能が使用できるよう、すでに指定されています。

しかし、初期状態の変換方式を変更したり、新しく作成したユーザーのシステムディスク内で日本語入力機能を使用したりする場合には、これから説明する CUSTOM コマンドまたはエディタによって、システム構築ファイル (CONFIG.SYS ファイル) 内に特別な指定を書き込む必要があります。

これら CONFIG.SYS ファイルへの指定は、システムの再起動後に有効になり、その後改めて変更するまで変化しません。

まず、使用中の MS-DOS システムディスク内にある CONFIG.SYS ファイルの内容を確認してみましょう。TYPE コマンドを使用してファイル中に日本語入力機能に必要な指定が含まれているかどうか確かめてみてください。

```
A> TYPE CONFIG.SYS ☞
.
.
.
DEVICE = NECAIK1.DRU
DEVICE = NECAIK2.DRU B:NECAI.SYS
```

↑                    ↑  
AI 逐次変換    ドライブ B に辞書ファイル

この例では、AI 逐次変換が使用でき、辞書ファイルがドライブ B にある NECAI.SYS を使用することが記述されています。

次に、変換方式などを変更する方法を、CUSTOM コマンドを使う場合とエディタを使う場合とに分けて説明します。

## ● CUSTOM コマンドを使用する場合

参照：CUSTOM コマンド  
「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」

注意：CUSTOM コマンドは外部コマンドです。コマンドの使用時には、このコマンドファイル(CUSTOM.EXE)がディスク内にないと使用できません。

注意：画面中で、白地の部分はユーザーがタイプする部分です。

MS-DOS システムの CUSTOM コマンドは、システム構築ファイル (CONFIG.SYS ファイル) の内容を対話形式で作成・変更することができます。この CUSTOM コマンドによって、日本語入力機能を使用する指定を、CONFIG.SYS ファイル内に記述することができます。

次に操作方法を示します。

- ①まず、MS-DOS のプロンプトが表示されている状態から CUSTOM コマンドを実行します。

A> CUSTOM

CUSTOM コマンド内では、メニューカーソル(反転表示部分)をカーソル移動キー(← → ↑ ↓)を使って移動します。

- ②画面の下にメッセージが表示されます。

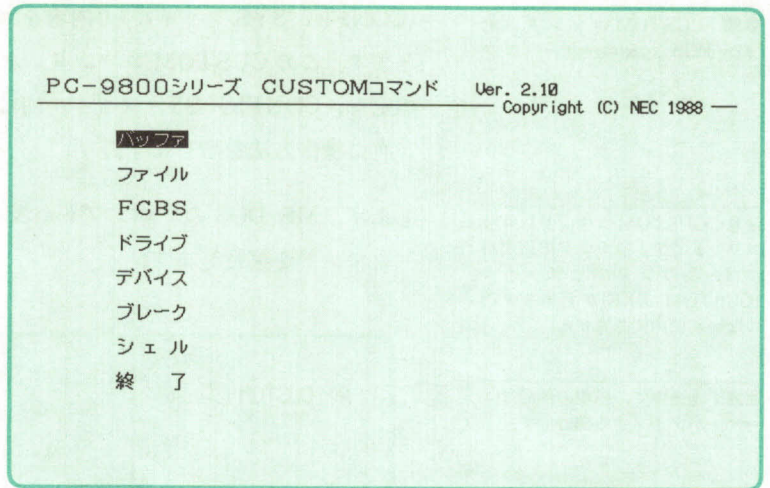
ここでは CONFIG.SYS ファイルを“作成”するかまたは“更新”するかを選択します。

今回は“更新”を選択します。メニューカーソルをカーソル移動キー(← →)を使って“更新”に位置づけ、↵ キーを押してください。

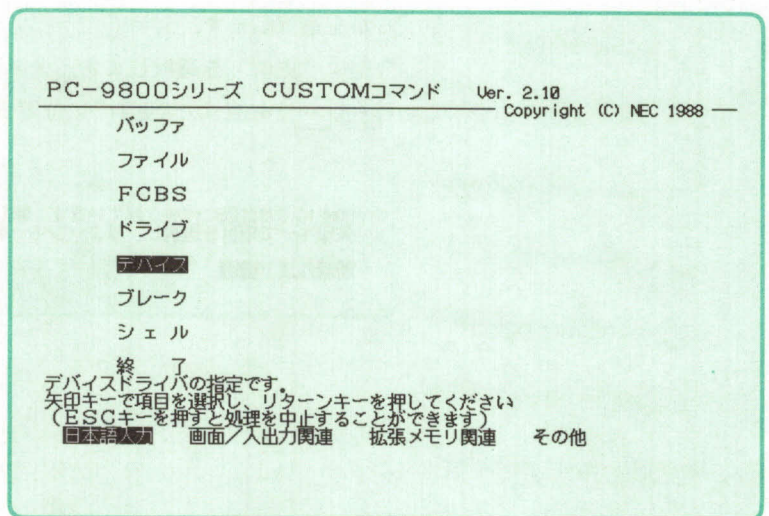
CONFIG.SYSは既に作成されています。新しく作成しますか、更新しますか？  
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください。


新規作成

③画面は次のように変わります。

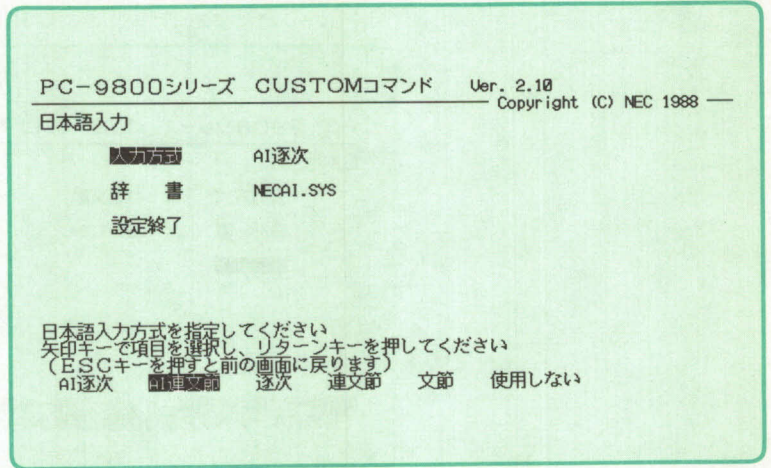



④日本語入力機能についての指定を行うには“デバイス”を選択します。メニューカーソルをカーソル移動キー(↑ ↓)を使用して“デバイス”に位置づけてください。画面の最下行に次のように表示されます。



カーソル移動キー(← →)を使用して、“日本語入力”に反転表示を位置づけ、キーを押してください。

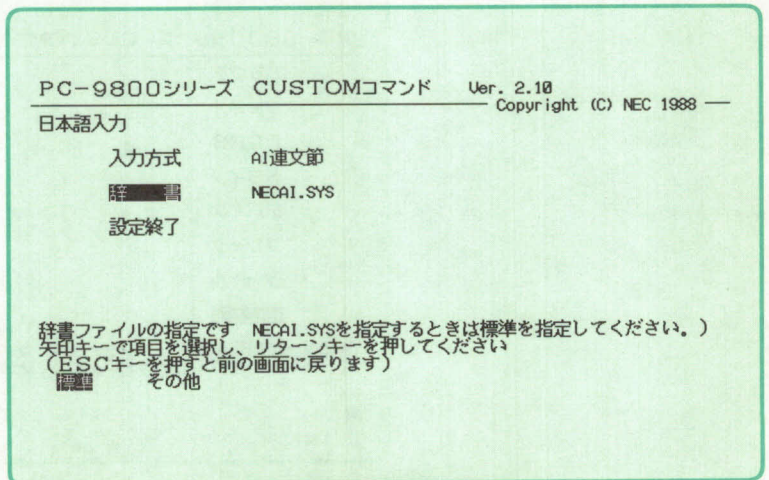
- ⑤画面が再び変わり、現在指定している、日本語入力機能で使用する変換方式(入力方式)と、辞書ファイルについての情報が表示されます。ここで、変換方式(入力方式)を AI 逐次変換から AI 連文節変換へ変更してみます。“入力方式”にメニューカーソルを位置づけると、画面最下行に変換方式の選択項目が表示されます。




ここで、“AI 連文節”にメニューカーソルを位置づけ(反転表示)、キーを押してください。


- ⑥次に、辞書ファイルの指定をします。メニューカーソルを“辞書”に位置づけると、画面の下にメッセージが表示されます。ここで使用する辞書ファイルの変更を行います。

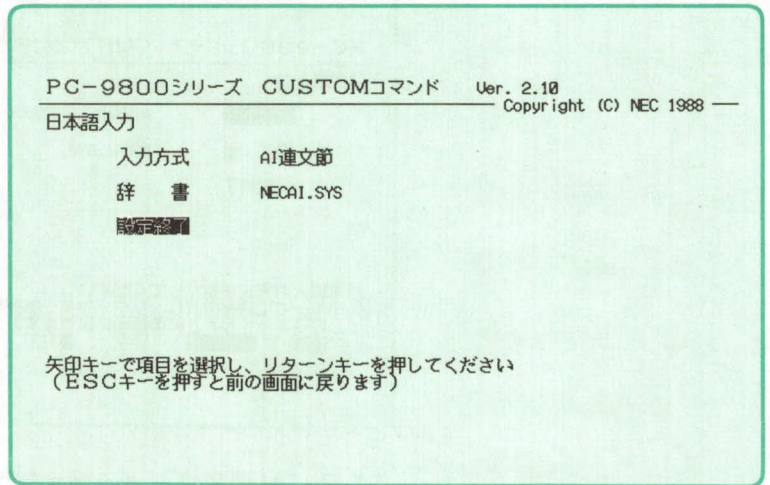
注意：変換方式(入力方式)に逐次変換、連文節変換、文節変換(単文節変換)を選択した場合には、“標準”の辞書ファイル名がNEC-DIC.SYSになります。




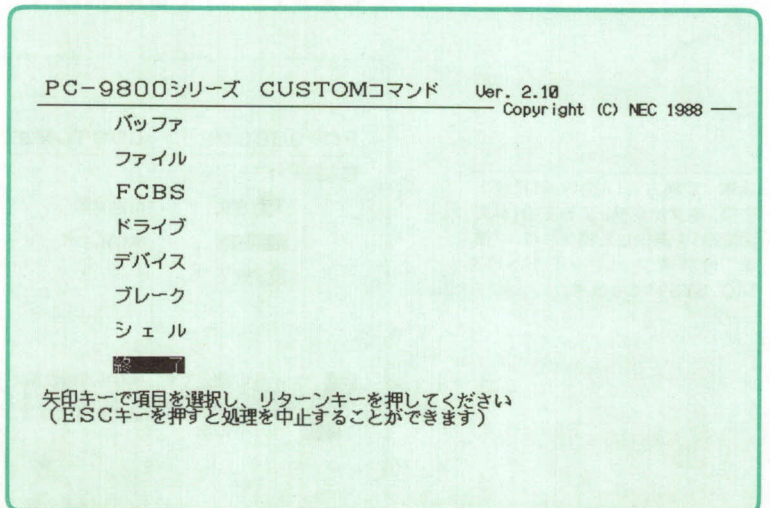
ここでは“標準”の辞書ファイル(NECAI.SYS)を使用します。“標準”に反転表示を位置づけ、キーを押してください。

ここで、“その他”を選択すると、ファイル名の入力になります。

- ⑦これで、日本語に関する指定は終わりです。“設定終了”にメニューカーソルを位置づけキーを押してください。




- ⑧画面は③と同じ操作画面に戻ります。ここで“終了”にメニューカーソルを位置づけキーを押してください。



⑨最後に、現在の CONFIG.SYS ファイルに指定されている内容が表示されます。画面中の最初の 2 行は、日本語入力機能の指定です。変更により、AI 連文節変換方式が指定されました。

ここで、内容に間違いがなければ“はい”を選択し、操作を終了します。操作を続ける場合には“いいえ”を選択します。

ここで画面の内容に間違いがないことを確認してから、メニューカーソルを“はい”に位置づけ  キーを押してください。

```

PC-9800シリーズ CUSTOMコマンド Ver. 2.10
Copyright (C) NEC 1988
-----
DEVICE=NECAIK1.DRU
DEVICE=NECAIK2.DRU /R B:NECAI.SYS ←日本語入力に関する指定
                                     (AI 連文節)
      .
      .
      .

CONFIG.SYS は以上の内容で作成されます よろしいですか?
(はい:CONFIG.SYS を作成して終了する いいえ:処理を継続する)
 はい  いいえ
  
```

⑩画面は MS-DOS システムのプロンプトへ戻ります。

```

A> █
  
```

以上で CUSTOM コマンドを使用した日本語入力機能の変更操作は終了です。

## ●エディタを使用する場合

エディタとは、テキスト(文書)ファイルを作成するためのプログラムです。

エディタとしては、MS-DOS システムディスク内にある EDLIN を使用することができますが、MS-DOS システム上で実行できる市販のエディタなども利用可能です。

エディタを使用して日本語入力機能で使用する変換方式や辞書ファイル名、ドライブ名を CONFIG.SYS ファイルに登録します。

次にそれぞれの変換方式に必要な指定を示します。

注意：AI 逐次変換と AI 連文節変換の相互切り換えを、日本語入力モード中に **[F10]** キーで一時的に行うことができます。

注意：[ ] 内の記述は省略することができます。

### ○ AI 逐次変換または AI 連文節変換

```
DEVICE=NECAIK1.DRV  
DEVICE=NECAIK2.DRV [/R][ドライブ名:][辞書ファイル名]
```

**/R** : AI 連文節変換を指定します。省略時は AI 逐次変換を指定したことになります。

**ドライブ名** : A, B, ... など辞書ファイルのあるドライブ名を指定します。省略時はカレントドライブを指定したことになります。

**辞書ファイル名** : NECAI.SYS (省略時と同じです。)

注意：逐次変換と連文節変換の相互切り換えを、日本語入力モード中に **[F10]** キーで一時的に行うことができます。

注意：[ ] 内の記述は省略することができます。

### ○ 逐次変換または連文節変換

```
DEVICE=NECAIK1.DRV  
DEVICE=NECAIK2.DRV /T[/R][ドライブ名:][辞書ファイル名]
```

**/T** : AI かな漢字変換を使用しないことを指定します。

**/R** : 連文節変換を指定します。省略時は逐次変換を指定したことになります。

**ドライブ名** : A, B, ... など辞書ファイルのあるドライブ名を指定します。省略時はカレントドライブを指定したことになります。

**辞書ファイル名** : NECDIC.SYS (省略時と同じです。)

## ○単文節変換

注意：[ ]内の記述は省略することができます。

注意：日本語入力モード中に[F・10]キーによって、単文節変換へ変更することはできません。単文節変換を使用するためにはCONFIG.SYSファイルの変更が必要です。

**DEVICE=NECDIC.DRV [ドライブ名:] [辞書ファイル名]**

**ドライブ名** : A, B, ...など辞書ファイルのあるドライブ名を指定します。省略時はカレントドライブを指定したことになります。

**辞書ファイル名** : NECDIC.SYS(省略時も同じです。)

**参考：デバイスドライバ**

"DEVICE="に続けて記述した"NECAIK1.DRV","NECDIC.DRV"などをデバイスドライバと呼びます。デバイスドライバとは、デバイス(周辺装置)の制御のために用意されているプログラムです。

辞書ファイルのドライブ名を省略した場合には、辞書ファイルをカレントドライブのルートディレクトリに置いてください。

ドライブ名を指定した場合は、辞書ファイルを指定したドライブのルートディレクトリに置いてください。

**参考：カレントドライブ、ルートディレクトリ**


カレントドライブとは、MS-DOS システムが現在注目しているドライブです。ルートディレクトリとは、階層ディレクトリ構造の元となるディレクトリです。

CONFIG.SYS ファイルの変更後は必ずシステムを再起動してください。再起動を行わないと指定が有効になりません。

参照：階層ディレクトリ  
「MS-DOS x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」



## ● CUSTOM コマンドを使用する場合


参照: CUSTOM コマンド   
「MS OS/2 x.x ユーザーズリファレンスマニュアル」





注意: CUSTOM コマンドは外部コマンドです。コマンドの使用時には、このコマンドファイル(CUSTOM.EXE)がディスク内にないと使用できません。

MS OS/2 システムの CUSTOM コマンドは、システム構築ファイル (CONFIG.SYS ファイル) の内容を対話形式で作成・変更することができます。この CUSTOM コマンドによって、日本語入力機能を使用する指定を、CONFIG.SYS ファイル内に記述することができます。

次に操作方法を示します。




- ①まず、MS OS/2 のプロンプトが表示されている状態から CUSTOM コマンドを実行します。

[A:¥] CUSTOM 


CUSTOM コマンド内では、メニューカーソル(反転表示部分)をカーソル移動キー(   )を使って移動します。

- ②画面の下にメッセージが表示されます。

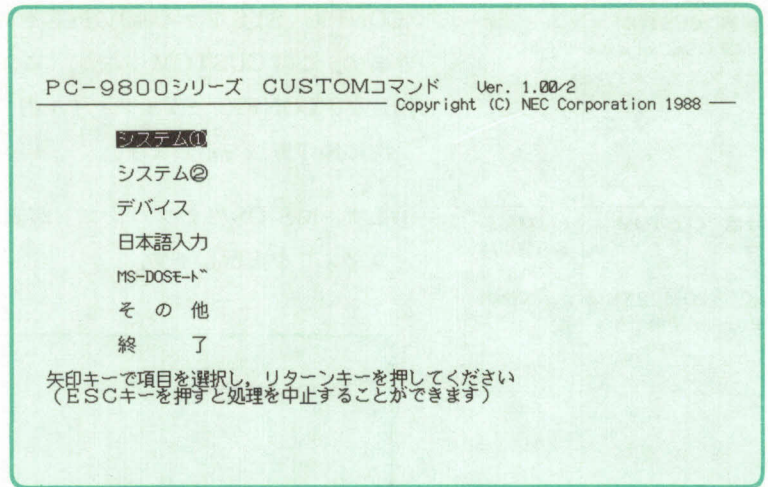
ここでは CONFIG.SYS ファイルを“作成”するかまたは“更新”するかを選択します。

今回は“更新”を選択します。メニューカーソルをカーソル移動キー( )を使って“更新”に位置づけ、 キーを押してください。

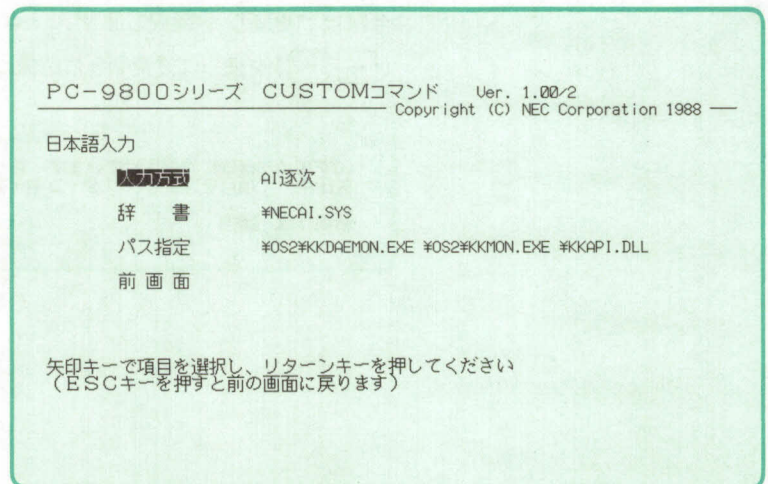
CONFIG.SYSは既に作成されています。新しく作成しますか、更新しますか  
矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください

新規作成 

③画面は次のように変わります。

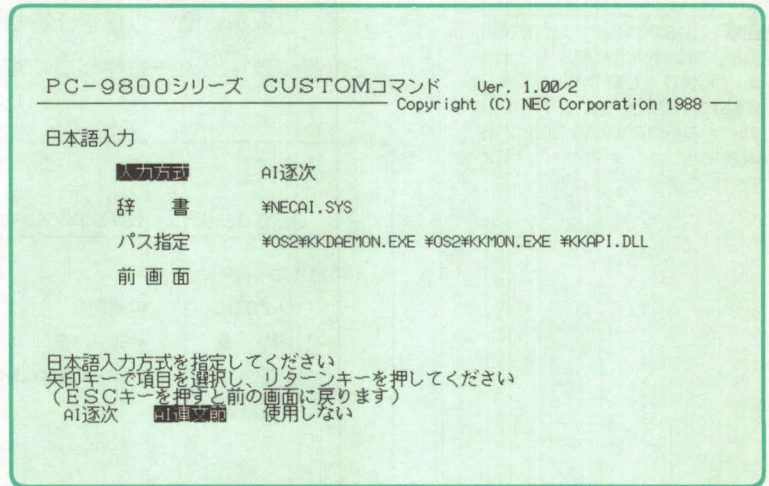


④日本語入力機能についての指定を行うには“日本語入力”を選択します。メニューカーソルをカーソル移動キー(↑ ↓)を使用して“日本語入力”に位置づけて(Enter)キーを押してください。画面は次のように表示されます。



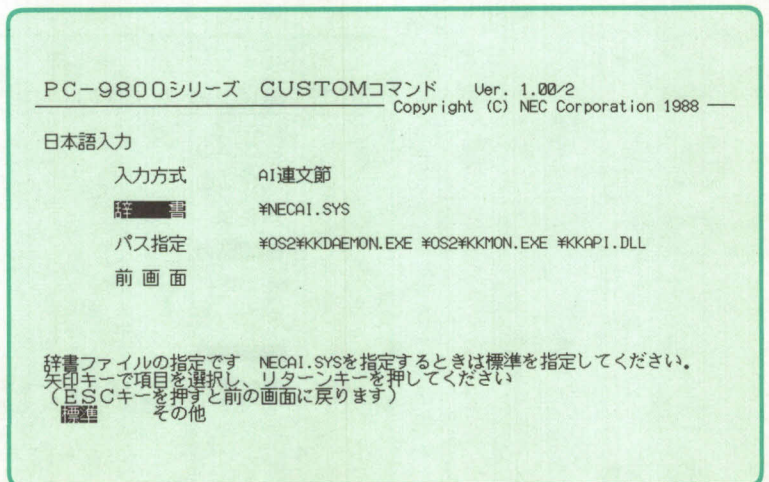
⑤現在指定している、日本語入力機能で使用する変換方式(入力方式)と、辞書ファイルについての情報が表示されます。


ここで、変換方式(入力方式)を AI 逐次変換から AI 連文節変換へ変更してみます。“入力方式”にメニューカーソルを位置づけ(⇐)キーを押すと、画面最下行に変換方式の選択項目が表示されます。




ここで、“AI 連文節”にメニューカーソルを位置づけ(反転表示), (⇐)キーを押してください。

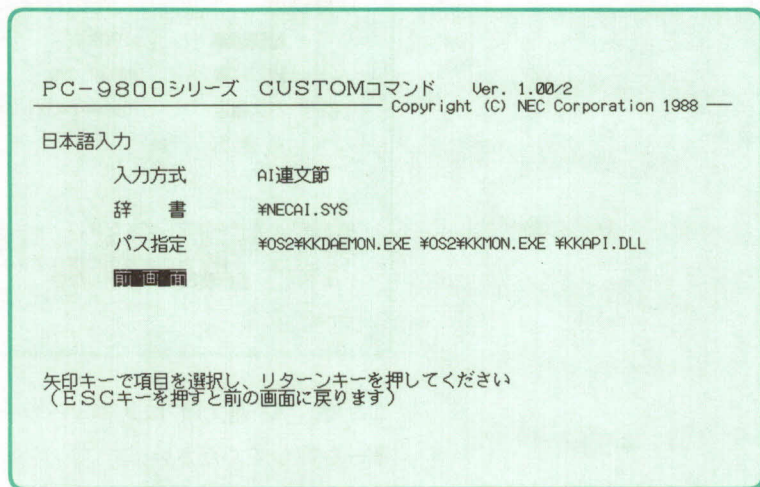
⑥次に、辞書ファイルの指定をします。メニューカーソルを“辞書”に位置づけ(⇐)キーを押すと、画面の下にメッセージが表示されます。ここで使用する辞書ファイルの変更を行います。




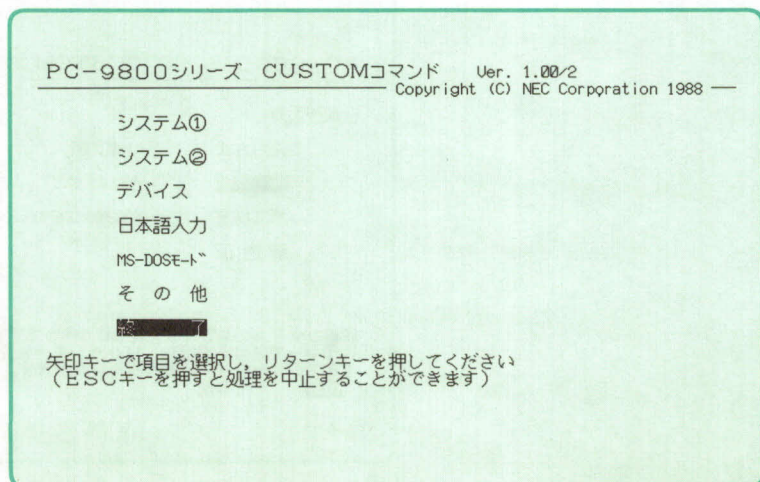
ここでは“標準”の辞書ファイル(NECAI.SYS)を使用します。“標準”にメニューカーソルを位置づけ、キーを押してください。  
ここで、“その他”を選択すると、ファイル名の入力になります。  
“標準”の辞書ファイルを選択した場合には、辞書ファイルのパス名を指定することができます。

注意：CUSTOM コマンドを使用して、日本語入力に関するファイル(KKDAEMON.EXE KKMOM.EXE KKAPI.DLL)のパス名を指定する場合には、“日本語入力”メニューの中の“パス指定”を選択してください。

⑦これで、日本語に関する指定は終了です。“前画面”にメニューカーソルを位置づけキーを押してください。




⑧画面は③と同じ操作画面に戻ります。ここで“終了”にメニューカーソルを位置づけキーを押してください。



⑨最後に、現在の CONFIG.SYS ファイルに指定されている内容が表示されます。画面中の最初の行は、日本語入力機能の指定です。変更により、AI 連文節変換方式が指定されました。

ここで、内容に間違いがなければ“はい”を選択し、操作を終了します。操作を続ける場合には“いいえ”を選択します。

ここで画面の内容に間違いがないことを確認してから、メニューカーソルを“はい”に位置づけ  キーを押してください。

```

PC-9800シリーズ CUSTOMコマンド Ver. 1.00/2
Copyright (C) NEC Corporation 1988 —
RUN = ¥OS2¥KKDAEMON.EXE ¥OS2¥KKMON.EXE ¥KKAPI.DLL /R ¥NECAI.SYS
      .
      .
      .
CONFIG.SYS は以上の内容で作成されます よろしいですか?
(はい:CONFIG.SYS を作成して終了する いいえ:処理を継続する)
 はい  いいえ
  
```

日本語入力に関する  
指定 (AI 連文節)

⑩画面は MS OS/2 システムのプロンプトへ戻ります。

```
[A:¥]_
```

以上で CUSTOM コマンドを使用した日本語入力機能の変更操作は終了です。

## ●エディタを使用する場合

エディタとは、テキスト(文書)ファイルを作成するためのプログラムです。

エディタとしては、MS OS/2 システムディスク内にある EDLIN を使用することができますが、MS OS/2 システム上で実行できる市販のエディタなども利用可能です。

エディタを使用して日本語入力機能で使用する変換方式や辞書ファイル名、ドライブ名を CONFIG.SYS ファイルに登録します。

次にそれぞれの変換方式に必要な指定を示します。

### ○ AI 逐次変換または AI 連文節変換

```
RUN=[パス名]KKDAEMON.EXE [パス名]KKMON.EXE [パス名]KKAPI.DLL [/R] [ドライブ名][パス名][辞書ファイル名]
```

**/R** : AI 連文節変換を指定します。省略時は AI 逐次変換を指定したことになります。

**ドライブ名** : A, B, ……など辞書ファイルのあるドライブ名を指定します。省略時は MS OS/2 システムを起動したドライブを指定したことになります。

**パス名** : 辞書ファイルのあるディレクトリを指定します。省略時はルートディレクトリを指定したことになります。

**辞書ファイル名** : NECAI.SYS(省略時も同じです。)

MS OS/2 システムでは、ドライブ名の他にパス名を使用することにより、辞書ファイルを指定するディレクトリ内に置くことができます。たとえば、ドライブ B の DIC ディレクトリ内に辞書ファイル(NECAI.SYS)がある場合の指定は次のようになります。

```
RUN=¥OS2¥KKDAEMON.EXE ¥OS2¥KKMON.EXE ¥KKAPI.DLL B: ¥DIC¥NECAI.SYS
```

↑  
パス名

注意：AI 逐次変換と AI 連文節変換の相互切り換えを、日本語入力モード中に [F10] キーで一時的に行うことができます。

注意：[ ] の記述は省略することができます。

## 3.4 メモリ容量と辞書ファイル

使用する変換方式によって日本語入力機能に必要なメモリ容量と辞書ファイルが違います。

### ●メモリ容量

各変換方式に必要なメモリ容量は次のようになっています。

変換方式	必要メモリ容量(単位:KB)		
	BASIC の場合	MS-DOS の場合	MS OS/2 の場合
AI 逐次	121	128*	最大 150
AI 連文節	121	128*	最大 150
逐次	121	128*	—
連文節	121	128*	—
単文節	42	37	—
JIS	(使用しない)	(使用しない)	—

注意: 表中の値には、システムが使用する容量は含まれていません。

注意: MS OS/2 システムの場合は、動作環境により、変換方式が使用するメモリ容量は異なります。

参照: EMS インタフェース  
☞「MS-DOS x.x ユーザーズ  
リファレンスマニュアル」

\* EMS インタフェースを使用すると日本語入力機能が使用する必要メモリ容量は約 70KB になります。

### ●辞書ファイル

使用する変換方式によって、利用する辞書ファイルが違います。各システムで利用できる変換方式と辞書ファイルの関係は次のようになっています。

変換方式	辞書ファイル名		
	BASIC の場合	MS-DOS の場合	MS OS/2 の場合
AI 逐次	KNJAI.DIC	NECAI.SYS	NECAI.SYS
AI 連文節	KNJAI.DIC	NECAI.SYS	NECAI.SYS
逐次	BUNSET.SU	NECDIC.SYS	—
連文節	BUNSET.SU	NECDIC.SYS	—
単文節	BUNSET.SU	NECDIC.SYS	—
JIS	(使用しない)	(使用しない)	—



# 付 録



# 付録A

## ローマ字入力の規則

### ●ローマ字入力の注意点

句点(.), 読点(。), 長音(ー), “ん”などのタイプ方法は次のとおりです。

文字	キー操作	タイプ例	表示
はつ音(ん)	<b>N</b> 1文字 または, <b>N</b> に続いて, <b>SHIFT</b> + <b>ん</b>	NIHONGO KAN'I	にほんご かんい
“を”	<b>W</b> <b>O</b>	WO	を
長音記号(ー)	<b>ハ</b> または <b>¥!</b>	PE¥JI	ページ
促音(っ)	子音を重ねる または、母音に続けて, <b>SHIFT</b> + <b>ん</b>	DOTTI A'	どっち あっ
かな小文字	<b>SHIFT</b> を押しなが ら <b>A, I, U, E, O</b>	<b>SHIFT</b> + <b>A</b>	あ
よう音(“きゃき ゆきよ”など)	“Y” を間に入れる	KYAKYUKYO	きゃきゆきよ
句点(。)	<b>ル</b>	—	。
読点(、)	<b>本</b>	—	、

注意：ローマ字入力を行うときは、必ず **CAPS** キーをロックしておいてください。  
い。なお、表中の“表示”は入力モード〔かな〕の場合の例です。

## ●ローマ字入力規則表

あ	い	う	え	お
A	I	U	E	O
か	き	く	け	こ
KA	KI	KU	KE	KO
さ	し	す	せ	そ
SA	SI	SU	SE	SO
た	ち	つ	て	と
TA	TI (CHI)	TU (TSU)	TE	TO
な	に	ぬ	ね	の
NA	NI	NU	NE	NO
は	ひ	ふ	へ	ほ
HA	HI	HU (FU)	HE	HO
ま	み	む	め	も
MA	MI	MU	ME	MO
や	い	ゆ	いえ	よ
YA	YI	YU	YE	YO
ら	り	る	れ	ろ
RA	RI	RU	RE	RO
わ	うい	う	うえ	を
WA	WI	WU	WE	WO
が	ぎ	ぐ	げ	ご
GA	GI	GU	GE	GO
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
ZA	ZI (JI)	ZU	ZE	ZO
だ	ぢ	づ	で	ど
DA	DI	DU	DE	DO
ば	び	ぶ	べ	ぼ
BA	BI	BU	BE	BO
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
PA	PI	PU	PE	PO

きゃ	きい	きゅ	きえ	きよ
KYA	KYI	KYU	KYE	KYO
しゃ	しい	しゅ	しえ	しよ
SYA (SHA)	SYI	SYU (SHU)	SYE (SHE)	SYO (SHO)
ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
TYA (CHA)	TYI	TYU (CHU)	TYE (CHE)	TYO (CHO)
にゃ	にい	にゅ	にえ	によ
NYA	NYI	NYU	NYE	NYO
ひゃ	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ
HYA	HYI	HYU	HYE	HYO
みゃ	みい	みゅ	みえ	みよ
MYA	MYI	MYU	MYE	MYO
りゃ	りい	りゅ	りえ	りよ
RYA	RYI	RYU	RYE	RYO
ぎゃ	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ
GYA	GYI	GYU	GYE	GYO
じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
ZYA (JA)	ZYI	ZYU (JU)	ZYE (JE)	ZYO (JO)
ぢゃ	ぢい	ぢゅ	ぢえ	ぢよ
DYA	DYI	DYU	DYE	DYO
でゃ	でい	でゅ	でえ	でよ
DHA	DHI	DHU	DHE	DHO
びゃ	びい	びゅ	びえ	びよ
BYA	BYI	BYU	BYE	BYO
ぴゃ	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ
PYA	PYI	PYU	PYE	PYO
ふぁ	ふい	ふ	ふえ	ふぉ
FA	FI	FU	FE	FO
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
VA	VI	VU	VE	VO

注意：表中の「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ」は、カタカナ文字でタイプしてください。

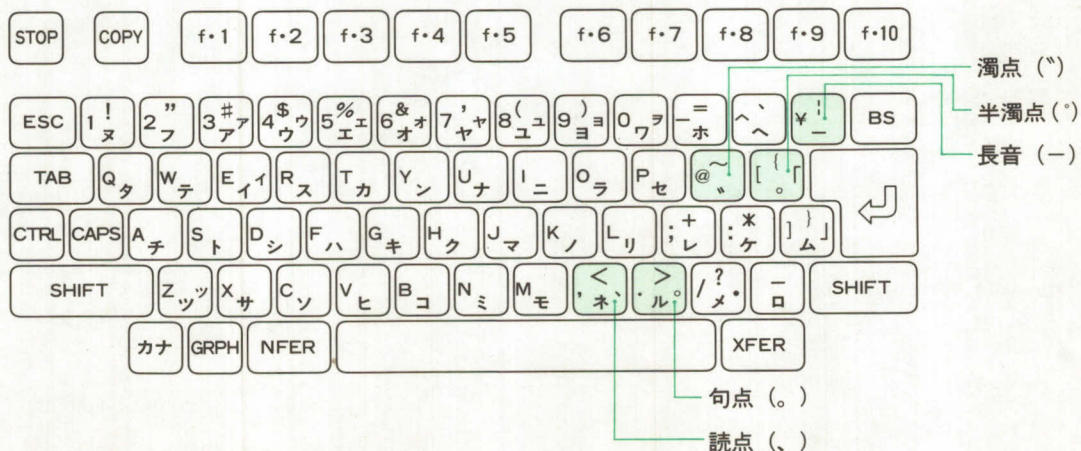
# 付録B

## カナ入力の規則

### ●カナ入力の注意点

文字	キー操作	タイプ例	表示
長音記号(ー)	¥!_	カーソル	かーそる
かな小文字	SHIFT を押しなが ら、ア、イ、ウ、エ、オ	SHIFT + 3#ア	あ
“を”	SHIFT を押しなが ら 0_ワ	SHIFT + 0_ワ	を
句点 (。)	SHIFT + .>ル。	—	。
読点 (、)	SHIFT + .<ネ、	—	、
濁点	文字の後に@~ (濁点キー)を押す	カ @~	が
半濁点	文字の後に[!_↑ (半濁点キー)を押す	ハ [!_↑	ば

注意：カナ入力を行うときは、必ず「カナ」キーをロックしておいてください。  
なお、表中の“表示”は入力モード〔かな〕の場合の例です。





# 付録C

## 部首の読み一覧表

部首選択(**CTRL** + **f+1** キー)により、特殊な漢字や特殊記号を表示することができます。部首選択で使用する“読み”を次の表に示します。表には特殊な漢字の“読み”を集めた「部首→漢字」表と、特殊記号の“読み”を集めた「特殊記号」表の2つがあります。

なお、部首選択の操作方法については、「第2部 第3章 3.5 部首選択」,「第2部 第5章 5.3 特殊記号」で説明しています。

### ●表の使い方

#### ・「部首→漢字」表

この表は、部首の画数、部首、“読み”の3つに分かれています。表示させたい漢字の部首の画数から部首の“読み”を見つけることができます。

たとえば、「該、訣、詔」など“ごんべん”の部首の“読み”を見つけるためには、次のようにします。

- ①表から、“言(ごんべん：7画)”を見つけます。
- ②右欄の読みより、“言”の読み、“ごん”が見つけれられます。

#### ・「特殊記号」表

この表は、“読み”と記号の2つに分かれています。たとえば、「Σ」の“読み”を見つけるためには、次のようにします。

- ①表中から(Σ)を捜します。
- ②左欄の読みより、記号(Σ)の読み、“.が”が見つけれられます。

●部首→漢字

画	部 首	読 み	画	部 首	読 み	画	部 首	読 み
一 画	一	いち	三 画	士	さむらい	四 画	方	ほう
	ノ	の		夕	ゆう		日	にち
二 画	ナ	なべ ふた		大	だい		月*	つき
	人	にん ひと		女	おんな		木	き
	儿	ひとあし る		子	こ		欠	けつ あくび
	リ*	りっとう		宀	う		夕	いちた
	刀*	かたな		寸	すん		爰	るまた
	八	はち		小(㇇)	しょう つ		毛	け
	匚, 口, 冂	かまえ		尸	しゃく		气	きがまえ
	冫	わ		山	やま		水*	みず すい
	彳	ん に		己	おのれ		爪	つめ
	几	つくえ		巾	はば		片	かた
	凵	うげぼこ		广	ま		牛(牝)	うし
画	力	か ちから	彡	えん	犬*	いぬ		
	勹	つつみ く	弋	しき	ネ*	ね		
	十	じゅう	弓	ゆみ	王(玉)	おう たま		
	冫	ふし せつ	彳	ぎょう	戈	ほこ		
	厂	がん	(左) 冫(卑)	こざと	五 画	瓜	うり	
	又	また ぬ	(右) 冫(𠂇)	おおざと		示*	しめす	
	三 画	口	くち ろ	辶(辵)		しん	ネ*	ころも
		彳*	さん し	艹		くさ	田*	た
	画	彳*	けもの	四 画		心*	こころ	疒
		忄*	りっしん		火*	ひ	夂	はつ
扌(手)		て	灬*		よつてん	白	しろ	
土		つち ど	女		のぶん	皮	かわ	

画	部首	読み	画	部首	読み	画	部首	読み	
五 画	皿	さら	六 画	血	ち	九 画	革	かく	
	目	め		衣	きぬ		韋	なめし	
	矢	や		冫(西)	にし		音	おと	
	石	いし	七 画	臣	おみ		頁	おおがい ページ	
	禾	のぎ		見	みる けん		風	かぜ	
	穴	あな		言	ごん		食	しょく	
	立	たつ りつ		谷	たに		首	くび	
	四	よん		豆	まめ		香	かおり こう	
	瓦	かわら		豕	いのこ		面	めん	
六 画	糸	いと		貝	かい	十 画	馬	うま	
	缶	かん		赤	あか		骨	ほね	
	竹	たけ		走	はしる そう		髟	かみ	
	羊	ひつじ	足(疋)	あし	十 一 画	鬥	とう		
	羽	はね	身	み		鬼	おに		
	老	おい ろう	車	くるま		高	たかい		
	耒	すき	辛	からい		鳥	とり		
	耳	みみ	八 画	酉	さけ ひよみ	魚	うお		
	聿	ふで		采	のごめ	鹿	しか		
	肉*	にく		豸	むじな	麥(麦)	ばく むぎ		
	画	米	こめ	角	つの	三 画	黒	くろ	
		臼	うす	八 画	金	かね	四 画	鼻	はな
		舌	した		門	もん	五 画	齒	は
舟		ふね	隹		ふるとり	六 画	龜	かめ	
虍		とら	雨	あめ					
虫		むし	非	あらず					

注意：\*のついたものは、同一部首で表現が2つあるものを示します。

(巾-心, ネ-示, ネ-衣, 刀-リ, オ-犬, シ-水, 火-火, 月-肉)



# 付録D

## 漢字コード表

### ●表の見方

表中にある文字は、漢字コードによって参照することができます。

表の左側の欄には JIS コードまたはシフト JIS コードを表す 4 桁の 16 進数(0…9, A, B, C, D, E, F)が、最上行(または最下行)には 1 桁の 16 進数がそれぞれ並んでいます。

例えば“伊”の JIS コードを表中から求めるためには、次のようにします。

- ①表中の“い”のグループに含まれている“伊”の文字を見つけます。
- ②“伊”のある行を左にたどり、JIS コードの欄からまず 4 桁の 16 進数“3040”を得ます。
- ③“伊”のある列を上(または下)にたどり、最上行(または最下行)から 1 桁の 16 進数“B”を得ます。
- ④②で求めた値と③で求めた値を加えます。

$$3040 + B = 304B$$

“304B”が“伊”の JIS コードとなります。

なお、本書で使用する JIS16 進コード入力、または JIS16 進コード変換では JIS コードをタイプしてください。

---

注意：PC-9800 シリーズのノーマルモード機(PC-9801VX など)を使用する場合と、ハイレゾリューションモード機(PC-98XL<sup>2</sup>など)を使用する場合とでは、画面に表示される書体が一部異なります。

## 1. 半角文字一覧

シフト JIS		0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
853F	0020	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">SP</span> ! " #	\$ % & ' ( ) * +	, - . /	
854F	0030	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 : ;	< = > ?
855F	0040	@ A B C	D E F G	H I J K	L M N O
856F	0050	P Q R S	T U V W	X Y Z [ ¥ ] ^ _	
8580	0060	` a b c	d e f g	h i j k	l m n o
8590	0070	p q r s	t u v w	x y z {   } ~	
859E	00A0	。 「 」	、 ・ ヲ ヲ	イ ウ エ オ	ヤ ュ ヨ ッ
85AE	00B0	ー ア イ ウ	エ オ カ キ	ク ケ コ サ	シ ス セ ソ
85BE	00C0	タ チ ツ テ	ト ナ ニ ヌ	ネ ノ ハ ヒ	フ ヘ ホ マ
85CE	00D0	ミ ム メ モ	ヤ ュ ヨ ラ	リ ル レ ロ	ワ ン ヰ 。

注意：表中の半角文字はテキスト画面に表示できるもので、すべて2バイトコード文字です。

2. 全角文字一覧

漢字コード表 (JIS 第1水準)

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
記 号	8 1 3 F	2120	[SP]、。	, . . :	; ? ! °	° ^ ~ "
	8 1 4 F	2130	^ _ _ 、	ゝ ㇿ ㇾ //	全々ノ〇	— — — /
	8 1 5 F	2140	\\ ~	... .. ' ' .	" " ( )	[ ] [ ]
	8 1 6 F	2150	{ } < >	< > 「 」	『 』 【 】	+ - ± ×
	8 1 8 0	2160	÷ = ≠ <	> ≤ ≥ ∞	∴ † ‡ °	' " ° ™ ¥
	8 1 9 0	2170	\$ ¢ £ %	# & * @	§ ☆ ★ ○	● ◎ ◇
	8 1 9 E	2220	◆ □ ■	△ ▲ ▽ ▼	※ 〒 → ←	↑ ↓ =
英 ・ 数 字	8 2 4 F	2330	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9	
	8 2 5 F	2340	A B C	D E F G	H I J K	L M N O
	8 2 6 F	2350	P Q R S	T U V W	X Y Z	
	8 2 8 0	2360	a b c	d e f g	h i j k	l m n o
	8 2 9 0	2370	p q r s	t u v w	x y z	
ひ ら が な	8 2 9 E	2420	あ あ い	い う う え	え お お か	が き ぎ く
	8 2 A E	2430	ぐ け げ こ	ご さ ざ し	じ す ず せ	ぜ そ ぞ た
	8 2 B E	2440	だ ち ぢ っ	つ づ て で	と ど な に	ぬ ね の は
	8 2 C E	2450	ば ば ひ び	び ぶ ぶ ぶ	へ べ ぺ ほ	ぼ ぼ ま み
	8 2 D E	2460	む め も ья	や ゆ ゅ よ	よ ら り る	れ ろ わ わ
	8 2 E E	2470	ゐ ゑ を ん			
カ タ カ ナ	8 3 3 F	2520	ァ ア イ	ィ ウ エ	ェ オ カ	ガ キ ギ ク
	8 3 4 F	2530	グ ケ ゲ コ	ゴ サ ザ シ	ジ ス ズ セ	ゼ ソ ゾ タ
	8 3 5 F	2540	ダ チヂ ッ	ツ ズ テ デ	ト ド ナ ニ	ヌ ネ ノ ハ
	8 3 6 F	2550	バ パ ヒ ビ	ピ フ ブ ブ	ヘ ベ ペ ホ	ボ ポ マ ミ
	8 3 8 0	2560	ム メ モ ャ	ヤ ユ ヲ ヨ	ヨ ラ リ ル	レ ロ ヲ ワ
	8 3 9 0	2570	キ エ ヲ ン	ヅ カ ケ		
ギ リ シ ア 字	8 3 9 E	2620	Α Β Γ	Δ Ε Ζ Η	Θ Ι Κ Λ	Μ Ν Ξ Ο
	8 3 A E	2630	Π Ρ Σ Τ	Υ Φ Χ Ψ	Ω	
	8 3 B E	2640	α β γ	δ ε ζ η	θ ι κ λ	μ ν ξ ο
	8 3 C E	2650	π ρ σ τ	υ φ χ ψ	ω	
ロ シ ア 文 字	8 4 3 F	2720	А Б В	Г Д Е Ё	Ж З И Й	К Л М Н
	8 4 4 F	2730	О П Р С	Т У Ф Х	Ц Ч Ш Щ	Ъ Ы Ь Э
	8 4 5 F	2740	Ю Я			
	8 4 6 F	2750	а б в	г д е ё	ж з и й	к л м н
	8 4 8 0	2760	о п р с	т у ф х	ц ч ш щ	ъ ы ь э
	8 4 9 0	2770	ю я			
ア	8 8 9 E	3020	亜 啞 娃	阿 哀 愛 挨	始 逢 葵 茜	穉 惡 握 濕
	8 8 A E	3030	旭 葦 芦 鱈	梓 庠 幹 扱	宛 姐 虻 飴	絢 綾 鮎 或
	8 8 B E	3040	粟 裕 安 庵	按 暗 案 闇	鞍 杏	
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

注意：2120は漢字コードとして定義されていません。  
2121の [SP] は空白(スペース)コードを示します。

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
イ	88BE	3040			以伊	位依偉困
	88CE	3050	夷委威尉	惟意慰易	椅為畏異	移維緯胃
	88DE	3060	菱衣謂違	遺医井亥	域育郁磯	一壹益逸
	88EE	3070	稻茨芋鱒	允印咽員	因姻引飲	淫胤蔭
	893F	3120	院陰隱	韻吋		
ウ	893F	3120		右宇	烏羽迂雨	卯鶉窺丑
	894F	3130	確臼渦嘘	唄鬱蔚鰻	姥厩浦瓜	閏噲云運
	895F	3140	雲			
エ	895F	3140	荏餌叡	營嬰影映	曳榮永泳	洩瑛盈穎
	896F	3150	穎英衛詠	銳液疫益	馱悅謁越	閱復厭円
	8980	3160	園堰奄宴	延怨掩援	沿演炎焰	煙燕猿緣
	8990	3170	艷苑菌遠	鉛鴛塩		
オ	8990	3170		於	汚甥凹央	奧往応
	899E	3220	押旺横	欧殴王翁	襖鶯鷗黄	岡沖荻億
	89AE	3230	屋憶臆桶	牡乙俺卸	恩温穩音	
カ	89AE	3230				下化仮何
	89BE	3240	伽伽佳加	可嘉夏嫁	家寡科暇	果架歌河
	89CE	3250	火珂禍禾	稼箇花苛	茄荷華菓	蝦課嘩貨
	89DE	3260	迦過霞蚊	俄峨我牙	画臥芽蛾	賀雅餓駕
	89EE	3270	介会解回	塊壞廻快	怪悔恢懷	戒拐改
	8A3F	3320	魁晦械	海灰界皆	絵芥蟹開	階貝凱劾
	8A4F	3330	外咳害崖	慨概涯碍	蓋街該鎧	骸裡馨蛙
	8A5F	3340	垣柿蠣鈎	劃嚇各廓	拡攪格核	殼獲確穫
	8A6F	3350	覚角赫較	郭闊隔革	学岳楽額	顎掛笠檉
	8A80	3360	櫃梶鰈馮	割喝恰括	活渴滑葛	褐轄且鯉
	8A90	3370	叶柀樺鞆	株兜竈蒲	釜鎌嚙鴨	栢茅萱
	8A9E	3420	粥刈苳	瓦乾侃冠	寒刊勘勸	卷喚堪姦
	8AAE	3430	完官寛干	幹患感慣	憾換敢柑	桓棺款飲
	8ABE	3440	汗漢澗灌	環甘監看	竿管簡緩	缶翰肝艦
8ACE	3450	莞觀諫貫	還鑑問閑	関陥韓館	館丸含岸	
8ADE	3460	巖玩癌眼	岩甌贗雁	頑顔願		
キ	8ADE	3460			企	伎危喜器
	8AEE	3470	基奇嬉寄	岐希幾忌	揮机旗既	期棋棄
	8B3F	3520	機帛毅	気汽畿祈	季稀紀徽	規記貴起
	8B4F	3530	軌輝飢騎	鬼亀偽儀	妓宜戯技	擬欺犧疑
	8B5F	3540	祇義蟻誼	議掬菊鞠	吉吃喫桔	橘詰砧杵
	8B6F	3550	黍却客脚	虐逆丘久	仇休及吸	宮弓急救
	8B80	3560	朽求汲泣	灸球究窮	笈級糾給	旧牛去居
	8B90	3570	巨拒擣拳	渠虚許距	鋸漁禦魚	亨享京
	8B9E	3620	供俠僑	兇競共凶	協匡卿叫	喬境峽強
	8BAE	3630	彊怯恐恭	挾教橋況	狂狹矯胸	脅興蕎郷
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
キ	8BBE	3640	鏡響響驚	仰凝堯曉	業局曲極	玉桐秆僅
	8BCE	3650	勤均巾錦	斤欣欽琴	禁禽筋緊	芹茵衿襟
	8BDE	3660	謹近金吟	銀		
ク	8BDE	3660		九俱句	区狗玖矩	苦軀馭駟
	8BEE	3670	駒具愚虞	喰空偶寓	遇隅串櫛	釧屑屈
	8C3F	3720	掘窟杏	靴轡窪熊	隈彙栗綠	桑鋏勲君
	8C4F	3730	薰訓群軍	郡		
ケ	8C4F	3730		卦袈祁	係傾刑兄	啓圭珪型
	8C5F	3740	契形徑惠	慶慧憩揭	携敬景桂	溪畦稽系
	8C6F	3750	經繼繫野	荃荆蚩計	詣警輕頸	鷄芸迎鯨
	8C80	3760	劇戟擊激	隙桁傑欠	決潔穴結	血訣月件
	8C90	3770	儉倦健兼	券劍喧圈	堅謙建憲	懸拳捲
	8C9E	3820	檢權牽	犬猷研硯	絹梟肩見	謙賢軒遣
	8CAE	3830	鍵險顯驗	驗元原敵	幻弦減源	玄現絃絃
	8CBE	3840	言諺限			
コ	8CBE	3840		個古呼固	姑孤己庫	弧戸故枯
	8CCE	3850	湖狐糊袴	股胡狐虎	誇跨鈷雇	顧鼓五互
	8CDE	3860	伍午吳吾	娛後御悟	梧檣瑚碁	語誤護醐
	8CEE	3870	乞鯉交佼	侯候倅光	公功效勾	厚口向
	8D3F	3920	后喉坑	垢好孔孝	宏工巧巷	幸庠庚康
	8D4F	3930	弘恒慌抗	拘控攻昂	晃更杭校	梗構江洪
	8D5F	3940	浩港溝甲	皇硬稿糠	紅紘絞綱	耕考肯肱
	8D6F	3950	腔膏航荒	行衡講貢	購郊醇釵	礦鋼閣降
	8D80	3960	項香高鴻	剛劫号合	壕拷濠豪	轟翹克刻
	8D90	3970	告国穀酷	鵠黑獄漉	腰甌忽惚	骨狍込
	8D9E	3A20	此頃今	困坤壘婚	恨懇昏昆	根梱混痕
	8DAE	3A30	紺良魂			
サ	8DAE	3A30	些	佐又峻嵯	左差查沙	磋砂詐鎖
	8DBE	3A40	裝坐座挫	債催再最	哉塞妻宰	彩才採栽
	8DCE	3A50	歲濟災采	犀碎砦祭	齋細菜裁	載際劑在
	8DDE	3A60	材罪財冴	坂阪界紳	肴咲崎埼	倚鷺作削
	8DEE	3A70	咋搾昨朔	柵窄策索	錯桜鮭笹	匙冊刷
	8E3F	3B20	察拶撮	擦札殺薩	雜阜鯖捌	鏑鮫皿晒
	8E4F	3B30	三傘參山	慘撒散棧	燦珊產算	纂蚕讚贊
	8E5F	3B40	酸餐斬暫	殘		
シ	8E5F	3B40		仕仔伺	使刺司史	嗣四士始
	8E6F	3B50	姉姿子屍	市師志思	指支孜斯	施旨枝止
	8E80	3B60	死氏獅祉	私糸紙紫	肢脂至視	詞詩誌誌
	8E90	3B70	諮資賜雌	飼鹵事似	侍兒字寺	慈持時
	8E9E	3C20	次滋治	爾壘痔磁	示而耳自	蒔辭汐鹿
	8EAE	3C30	式識鳴竺	軸穴零七	叱執失嫉	室悉湿漆
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
シ	8EBE	3C40	疾質実菴	篠偲柴芝	屢藥縞舍	写射捨赦
	8ECE	3C50	斜煮社紗	者謝車遮	蛇邪借勺	尺杓灼爵
	8EDE	3C60	酌积錫若	寂弱惹主	取守手朱	殊狩珠種
	8EEE	3C70	腫趣酒首	儒受呪寿	授樹綬需	囚収周
	8F3F	3D20	宗就州	修愁拾洲	秀秋終繡	習臭舟蒐
	8F4F	3D30	衆襲讐蹴	輯週曾酬	集醜什住	充十從戎
	8F5F	3D40	柔汁洩獸	縱重銃叔	夙宿淑祝	縮肅塾熟
	8F6F	3D50	出術述俊	峻春瞬竣	舜駿准循	旬楯殉淳
	8F80	3D60	準潤盾純	巡遵醇順	処初所暑	曙洛庶緒
	8F90	3D70	署書薯蓣	諸助叙女	序徐恕鋤	除傷償
	8F9E	3E20	勝匠升	召哨商唱	嘗獎妾娼	宵将小少
	8FAE	3E30	尚庄床廠	彰承抄招	掌捷昇昌	昭晶松梢
	8FBE	3E40	樟樵沼消	涉湘燒焦	照症省硝	礁祥称章
8FCE	3E50	笑粧紹肖	菖蔣蕉衝	裳訟証詔	詳象賞醬	
8FDE	3E60	鉦鍾鐘障	翰上丈丞	乘冗剩城	場壞壤常	
8FEE	3E70	情擾条杖	淨状暈稷	蒸讓釀錠	囑埴飾	
903F	3F20	拭植殖	燭織職色	触食蝕辱	尻伸信侵	
904F	3F30	唇娠寝審	心慎振新	晋森榛浸	深申疹真	
905F	3F40	神秦紳臣	芯薪親診	身辛進針	震人仁刃	
906F	3F50	塵壬尋甚	尽腎訊迅	陣靱		
ス	906F	3F50			筭誦	須酢囟厨
	9080	3F60	逗吹垂帥	推水炊睡	粹翠哀遂	醉錐錘隨
	9090	3F70	瑞髓崇嵩	数枢趨雛	据杉梶菅	頗雀裾
	909E	4020	澄摺寸			
セ	909E	4020		世瀬畝是	凄制勢姓	征性成政
	90AE	4030	整星晴棲	栖正清牲	生盛精聖	声製西誠
	90BE	4040	誓請逝醒	青静齐税	脆隻席惜	威斥昔析
	90CE	4050	石積籍績	脊責赤跡	蹟碩切拙	接撰折設
	90DE	4060	窃節説雪	絶舌蟬仙	先千占宣	專尖川戰
	90EE	4070	扇撰詮梅	泉浅洗染	潜煎煽旋	穿箭線
	913F	4120	織羨腺	舛船薦詮	賤踐選選	錢銃閃鮮
914F	4130	前善漸然	全禪繕膳	糲		
ソ	914F	4130			噲塑岨	措曾曾楚
	915F	4140	狙疏疎礎	祖租粗素	組蘇訴阻	遡鼠僧創
	916F	4150	双叢倉喪	壯奏爽宋	層匝惣想	搜掃挿搔
	9180	4160	操早曹巢	槍槽漕燥	争瘦相窓	糟総綜聡
	9190	4170	草莊葬蒼	藻裝走送	遭鎗霜騷	像増憎
	919E	4220	臟蔵贈	造促側則	即息捉束	測足速俗
91AE	4230	属賊族統	卒袖其揃	存孫尊損	村遜	
タ	91AE	4230				他多
	91BE	4240	太汰詫唾	墮妥惰打	柁舵橈陀	駄驛体堆
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
タ	9 1 C E	4250	対耐岱帶	待怠態戴	替泰滯胎	腿苔袋貸
	9 1 D E	4260	退逮隊黛	鯛代台大	第醍題鷹	滝瀧卓啄
	9 1 E E	4270	宅托扱拓	沢濯琢託	鐸濁諾茸	凧蛸只
	9 2 3 F	4320	叩但達	辰奪脱異	堅迪棚谷	狸鱈樽誰
	9 2 4 F	4330	丹单嘆坦	担探旦歎	淡湛炭短	端筆綻耽
	9 2 5 F	4340	胆蛋誕鍛	团壇彈断	暖檀段男	談
チ	9 2 5 F	4340				值知地
	9 2 6 F	4350	弛恥智池	痴稚置致	蚶遲馳築	畜竹筑蓄
	9 2 8 0	4360	逐秩窒茶	嫡着中仲	宙忠抽昼	柱注虫衷
	9 2 9 0	4370	註耐鑄駐	樗瀦猪苧	著貯丁兆	凋喋寵
	9 2 9 E	4420	帖帳庁	弔張彫徵	懲挑暢朝	潮牒町眺
	9 2 A E	4430	聴脹腸蝶	調課超跳	銚長頂鳥	勅抄直朕
	9 2 B E	4440	沈珍賃鎮	陳		
ツ	9 2 B E	4440		津墜椎	槌追鎚痛	通塚樹擱
	9 2 C E	4450	槻佃漬柘	辻蕙綴鏢	椿潰坪壺	婦紬爪吊
	9 2 D E	4460	釣鶴			
テ	9 2 D E	4460	亭低	停偵剃貞	呈堤定帝	底庭廷弟
	9 2 E E	4470	梯抵挺提	梯汀碇禎	程締艇訂	諦諦遁
	9 3 3 F	4520	邸鄭釘	鼎泥摘擢	敵滴的笛	適鎬濁哲
	9 3 4 F	4530	徹撤轍迭	鉄典填天	展店添纏	甜貼転顛
	9 3 5 F	4540	点伝殿澱	田電		
ト	9 3 5 F	4540		兔吐	堵塗妬屠	徒斗杜渡
	9 3 6 F	4550	登菟賭途	都鍍砥礪	努度土奴	怒倒党冬
	9 3 8 0	4560	凍刀唐塔	塘套宕島	嶋悼投搭	東桃禱棟
	9 3 9 0	4570	盜淘湯壽	灯燈当痘	禱等答筒	糖統到
	9 3 9 E	4620	董蕩藤	討膳豆踏	逃透鐙陶	頭騰闕働
	9 3 A E	4630	動同堂導	憧撞洞瞳	童胴苟道	銅峠鴉匿
	9 3 B E	4640	得徳瀆特	督秃篤毒	独読析椽	凸突椽届
	9 3 C E	4650	鳶苫寅酉	瀨噸屯惇	敦沌豚遁	頓呑曇鈍
ナ	9 3 D E	4660	奈那内乍	凧薙謎灘	捺鍋檜馴	繩暇南楠
	9 3 E E	4670	軟難汝			
ニ	9 3 E E	4670	二	尼弍邇匂	賑肉虹廿	日乳入
	9 4 3 F	4720	如尿菲	任妊忍認		
又	9 4 3 F	4720			濡	
ネ	9 4 3 F	4720			禰祢寧	葱猫熱年
	9 4 4 F	4730	念捻燃然	粘		
ノ	9 4 4 F	4730		乃迺之	埜囊惱濃	納能腦膿
	9 4 5 F	4740	農覗蚤			
ハ	9 4 5 F	4740	巴	把播霸杷	波派琶破	婆罵芭馬
	9 4 6 F	4750	俳廃拝排	敗杯盃牌	背肺輩配	倍培媒梅
	9 4 8 0	4760	煤煤狼買	壳賠陪這	蠅秤矧荻	伯剝博拍
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
ハ	9490	4770	柏泊白箔	粕舶薄迫	曝漠爆縛	莫駁麥
	949E	4820	函箱裕	箸肇筍櫨	幡肌畑畠	八鉢潑発
	94AE	4830	酸髪伐罰	拔筏閥鳩	嘶埽蛤隼	伴判半反
	94BE	4840	叛帆搬斑	板汜汎版	犯班畔繁	般藩販範
	94CE	4850	采煩頒飯	挽晩番盤	磬蕃蚕	
ヒ	94CE	4850			匪	卑否妃庇
	94DE	4860	彼悲扉批	披斐比泌	疲皮碑秘	緋罷肥被
	94EE	4870	誹費避非	飛樋篋備	尾微枇毘	毘眉美
	953F	4920	鼻柎稗	匹疋髭彦	膝菱肘弼	必畢筆逼
	954F	4930	檜姫媛紐	百謬倭彪	標氷漂瓢	票表評豹
	955F	4940	廟描病秒	苗錨鉞蒜	蛭鱧品彬	斌浜瀨貧
956F	4950	賓頻敏瓶				
フ	956F	4950		不付埠夫	婦富富布	府怖扶敷
	9580	4960	斧普浮父	符腐膚芙	譜負賦赴	阜附侮撫
	9590	4970	武舞葡蕪	部封楓風	葺落伏副	復幅服
	959E	4A20	福腹復	覆淵弗払	沸仏物鮒	分吻噴墳
	95AE	4A30	憤扮焚奮	粉糞紛雰	文聞	
ヘ	95AE	4A30			丙併	兵塀幣平
	95BE	4A40	弊柄並蔽	閉陞米頁	僻壁癖碧	別警蔑篋
	95CE	4A50	偏変片篇	編辺返遍	便勉婉弁	鞭
ホ	95CE	4A50				保舗舗
	95DE	4A60	圃捕歩甫	補輔穂募	墓慕戊暮	母簿菩倣
	95EE	4A70	俸包呆報	奉宝峰峯	崩庖抱捧	放方朋
	963F	4B20	法泡烹	砲縫胞芳	萌蓬蜂褒	訪豊邦鋒
	964F	4B30	飽鳳鵬乏	亡傍剖坊	妨帽忘忙	房暴望某
	965F	4B40	棒冒紡肪	膨謀貌貿	鉦防吠頰	北僕卜墨
966F	4B50	撲朴牧睦	穆鉤勃没	殆堀幌奔	本翻凡盆	
マ	9680	4B60	摩磨魔麻	埋妹昧枚	每哩檣幕	膜枕鮪枉
	9690	4B70	鱒樹亦俣	又抹末沫	迄儘繭磨	万慢滿
	969E	4C20	漫蔓			
ミ	969E	4C20	味	未魅巳箕	岬密蜜湊	蓑稔脈妙
	96AE	4C30	耗民眠			
ム	96AE	4C30	務	夢無牟矛	霧鷓掠婿	娘
	96AE	4C30				冥名命
メ	96BE	4C40	明盟迷銘	鳴姪牝滅	免棉綿緬	面麵
	96BE	4C40				摸模
モ	96CE	4C50	茂妄孟毛	猛盲網耗	蒙儲木默	目杳勿餅
	96DE	4C60	尤戾粃貰	問悶紋門	匄	
	96DE	4C60			也冶夜	爺耶野弥
ヤ	96EE	4C70	矢厄役約	葉訳躍靖	柳藪鐘	
	96EE	4C70			愉	愈油癒
ユ	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F



漢字コード表 (JIS 第2水準)

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
一	989E	5020	弌 丐 丕			
丨	989E	5020		个 卯		
丶	989E	5020		、 井		
丿	989E	5020			丿 乂 乖 乘	
乙	989E	5020				亂
丨	989E	5020				丨 豫 事
	98AE	5030	舒			
二	98AE	5030	弌 于 亞	亟		
亠	98AE	5030		亠 亢 京	亳 賣	
人	98AE	5030			从 仍	仄 仆 仂 仗
	98BE	5040	仂 伋 仵 价	伋 佚 估 佛	佻 佻 佻 佻	侈 侏 佻 佻
	98CE	5050	佩 佰 侑 佯	來 侖 佻 佻	俟 俎 俘 俛	侑 俚 侑 侑
	98DE	5060	俚 倚 佻 佻	倪 控 倅 倅	倅 倡 倅 倅	倅 倅 們 們
	98EE	5070	偃 假 會 偕	修 偈 倅 倅	倅 倅 倅 倅	倅 倅 倅 倅
	993F	5120	僉 僉 傳	僉 僉 僉 僉	僉 僉 僉 僉	僉 僉 僉 僉
994F	5130	僉 僉 僉 僉	僉 僉 僉 僉	僉 僉 僉 僉	僉 僉 僉 僉	
儿	994F	5130			儿 兀 兒	兌 兔 兢 競
入	995F	5140	兩 兪			
八	995F	5140	兮 冀			
冂	995F	5140		冂 回 册 冉	冂 冂 冂 冂	
冂	995F	5140				冂 冤 冂 冂
	996F	5150	冂 冂			
冫	996F	5150	冫 决	冫 冲 冰 况	冫 涸 凉 凜	
几	996F	5150				几 處 凵 凭
	9980	5160	凵			
凵	9980	5160	凵 凵			
刀	9980	5160	又	刊 刂 刂 刂	刪 刮 刂 刂	剗 剗 剗 剗
	9990	5170	剗 剗 剗 剗	剩 剗 剗 剗	劍 劍 劍 劍	剗 剗 剗 剗
	999E	5220	辦			
力	999E	5220	勗 勗	勗 劬 勗 勗	勗 勞 勗 勗	勗 勗 勗 勗
	99AE	5230	勸			
勹	99AE	5230	勹 勹 勹	勹 勹 勹 勹		
匕	99AE	5230			匕	
匚	99AE	5230			匚 匚 匚	匚 匚
匚	99AE	5230				匚 區
十	99BE	5240	卅 卅 卅 卅	卅 準		
卜	99BE	5240		卜		
卩	99BE	5240		卩	卩 卩 卩 卩	
厂	99BE	5240				厂 厃 厃 厃
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
厂	9 9 CE	5250	厥 厥 厥			
厶	9 9 CE	5250	厶	參 篡		
又	9 9 CE	5250		雙 叟	曼 變	
口	9 9 CE	5250			叮 叨	叭 吠 吁 吡
	9 9 DE	5260	呀 听 吭 吼	吮 呐 吩 咨	呖 咏 呵 咎	眩 呱 呷 咎
	9 9 EE	5270	咒 呻 咀 叟	咄 咐 咆 哇	号 威 啞 咬	哄 哈 咨
	9 A 3 F	5320	咫 晒 吃	佬 咯 哞 哥	哦 唏 唔 哽	哮 哭 哺 哢
	9 A 4 F	5330	啲 哇 啣 啞	售 啜 啖 啖	咯 唸 唢 唢	喙 咯 咯 噉
	9 A 5 F	5340	啜 啞 啞 喘	啣 單 啼 喃	喻 喇 唢 唢	嗅 嗟 嘎 嗜
	9 A 6 F	5350	啞 嗔 嘔 嗷	嘖 嗟 嗽 嘛	噠 噠 噠 營	嘴 嘶 嘲 噓
	9 A 8 0	5360	噫 噤 嘯 噓	噪 噤 噤 噤	嚙 噠 噠 噠	嚙 嚙 嚴 嚙
	9 A 9 0	5370	噤 噤 噤 噤	噤 噤 噤 噤		
口	9 A 9 0	5370			口 囧 囧 囧	囧 囧 囧
	9 A 9 E	5420	囧 囧 囧	圓 團 圖 膏	囧	
土	9 A 9 E	5420			圪 坏 圪	圪 圪 址 坏
	9 A A E	5430	坩 垂 垆 坡	坩 坩 垆 垆	坩 坩 坩 坩	埃 坩 坩 坩
	9 A B E	5440	坩 坩 坩 坩	坩 坩 坩 坩	坩 坩 坩 坩	毀 坩 坩 坩
	9 A C E	5450	坩 坩 坩 坩	坩 坩 坩 坩	坩 坩 坩 坩	墟 坩 坩 坩
	9 A D E	5460	坩 坩 坩 坩	坩 坩 坩 坩	坩 坩 坩 坩	墟 坩 坩 坩
士	9 A D E	5460	壯	壺 壹 壺 壺	壽	
夕	9 A D E	5460			夕	
夕	9 A D E	5460			夕 夂	
夕	9 A D E	5460				夕 夕 夕
大	9 A D E	5460				夫
	9 A E E	5470	夭 夂 夸 夾	高 奕 奂 奎	奚 奘 奢 奘	奧 奘 奘
女	9 B 3 F	5520	奸 妁 妝	佞 佞 妣 妣	姆 姨 姜 妍	姪 姚 娥 娟
	9 B 4 F	5530	娑 娜 娉 娉	婀 姪 婉 嫵	娶 婢 婪 媚	媼 媼 媼 媼
	9 B 5 F	5540	媽 媽 媼 媼	嫩 嫵 嫵 嫵	嬌 嬋 嬋 嬋	嫩 嬋 嬋 嬋
	9 B 6 F	5550	孃 孃 孃			
子	9 B 6 F	5550	子	孕 孛 孛 孛	孩 孰 孛 孛	學 孛 孛
宀	9 B 6 F	5550				宀
	9 B 8 0	5560	它 宦 宸 寃	寇 雀 寃 寐	寤 實 寢 寢	寥 寫 寢 寶
	9 B 9 0	5570	寶			
寸	9 B 9 0	5570	尅 尅 尅	對		
小	9 B 9 0	5570		尔 尅		
尢	9 B 9 0	5570		尢	尢	
尸	9 B 9 0	5570			尸 尹 屁	屈 屎 頁
	9 B 9 E	5620	屣 屣 屣	屬		
屮	9 B 9 E	5620		屮		
山	9 B 9 E	5620		屮 屮	屹 岌 岑 岔	岌 岌 岌 岌
	9 B A E	5630	岌 岌 岌 岌	岌 岌 岌 岌	岌 岌 岌 岌	岌 岌 岌 岌
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
山	9BBE	5640	峯嶺崑崑	崢峻崑崑	嵌岳嶠嶠	嵬差嶠嶠
	9BCE	5650	嶄嶄嶄嶄	嶢嶢嶢嶢	嶣嶣嶣嶣	嶤嶤嶤嶤
《《	9BCE	5650				《《
工	9BDE	5660	巫			
己	9BDE	5660	己卮			
巾	9BDE	5660	帟	帟帟帟帟	帶帷幄帷	幘幘幘幘
	9BEE	5670	幘幘帟帟			
干	9BEE	5670		干并		
玄	9BEE	5670		玄麼		
广	9BEE	5670			广庠廂廂	廈廡廡
	9C3F	5720	廖廣廡	厨廡廢廡	解廡廡廡	廳廡
互	9C3F	5720				互廸
升	9C4F	5730	升弃昇彝	彝		
弋	9C4F	5730		弋弑		
弓	9C4F	5730		弓	弩弭弭弭	彈彌彎彎
互	9C5F	5740	互彖彖彖			
彡	9C5F	5740		彡彭		
彳	9C5F	5740		彳徬	徃徃徃徃	很徑徇從
	9C6F	5750	徬徬徬徬	徬徬徬徬		
心	9C6F	5750		忖忖	忖忖忖忖	惠忿怡恠
	9C80	5760	怙怙恚恚	怙怙怙怙	忖忖忖忖	恠恠恠恠
	9C90	5770	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠
	9C9E	5820	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠
	9CAE	5830	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠
	9CBE	5840	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠
	9CCE	5850	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠
	9CDE	5860	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠
9CEE	5870	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	恠恠恠恠	
戈	9CEE	5870			戈戍戍	戍戍戍
	9D3F	5920	戍戍戍	戍戍戍戍		
戸	9D3F	5920			扁	
手	9D3F	5920			扎扞扞	扞扞扞扞
	9D4F	5930	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9D5F	5940	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9D6F	5950	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9D80	5960	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9D90	5970	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9D9E	5A20	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9DAE	5A30	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
	9DAE	5A30	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞	扞扞扞扞
支	9DAE	5A30				支攴攴
	9DBE	5A40	攴攴攴攴	攴攴攴攴	攴攴攴攴	攴攴攴攴
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
斗	9DBE 9DCE	5A40 5A50	斛			斛
斤	9DCE	5A50	斫斷			
方	9DCE	5A50	旃	旃旁旃旌	旃旃旃	
无	9DCE	5A50			无	无
日	9DCE 9DDE 9DEE 9E3F	5A50 5A60 5A70 5B20	昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃	昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃	昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃	昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃 昃昃昃昃
日	9E3F	5B20			日 日 日	
月	9E3F 9E4F	5B20 5B30	朧霸			朧朧朧朧
木	9E4F 9E5F 9E6F 9E80 9E90 9E9E 9EAE 9EBE 9ECE 9EDE 9EEE 9F3F 9F4F	5B30 5B40 5B50 5B60 5B70 5C20 5C30 5C40 5C50 5C60 5C70 5D20 5D30	朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧	朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧	朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧	朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧 朧朧朧朧
欠	9F4F 9F5F	5D30 5D40	歛歛歛歛	歛	歛歛歛歛	歛歛歛歛
止	9F5F	5D40		歸		
歹	9F5F 9F6F	5D40 5D50	殄殄殄殄	殄	殄殄殄殄	殄殄殄殄
殳	9F6F	5D50		殳 殳 殳	殳	
母	9F6F	5D50			母 母	
毛	9F6F 9F80	5D50 5D60	毳毳		毳	毳 毳 毳
氏	9F80	5D60	氏			
气	9F80	5D60	气	氛 氛 氣		
水	9F80 9F90 9F9E 9FAE 9FBE	5D60 5D70 5E20 5E30 5E40	沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝	沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝	沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝	沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝 沝
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
水	9FCE	5E50	湮 漪 渙 浚	渟 渾 渣 湫	渫 淥 湍 湔	泝 泐 泑 泒
	9FDE	5E60	滿 滃 游 澗	溪 溘 滉 溏	滓 溇 溏 滄	洩 滔 膝 溏
	9FEE	5E70	溥 滂 溟 潁	漑 漑 滉 滂	滾 漿 滲 滌	滯 漲 滌
	E03F	5F20	漾 滂 滃	澆 滂 滂 滂	澀 滂 滂 滂	潭 激 滂 滂
	E04F	5F30	澎 滂 滂 滂	澳 滂 滂 滂	滂 滂 滂 滂	濕 滂 滂 滂
	E05F	5F40	濱 滂 滂 滂	滂 滂 滂 滂	滂 滂 滂 滂	滂 滂 滂 滂
	E06F	5F50	瀾 瀾 激 瀨	灣		
火	E06F	5F50		炙 炒 炯	炯 炬 炸 炳	炮 烟 杰 杰
	E080	5F60	烙 焉 烽 焜	焙 煥 熙 熙	煦 煇 煌 煖	煬 燻 燻 燻
	E090	5F70	煩 熨 熬 爛	烹 熾 燒 燉	燔 燎 燠 燉	燧 燧 燧
	E09E	6020	燹 燿 燦	爐 爛 爨		
爪	E09E	6020		爭	爬 爰 爲	
爻	E09E	6020			爻	俎
爿	E09E	6020				爿 牀 牆
	E0AE	6030	牀 牀			
牛	E0AE	6030	牴 牯	犁 犁 犇 犒	犖 犖 犖	
犬	E0AE	6030			犹	豺 狃 狃 狃
	E0BE	6040	狎 狒 狒 狒	狡 狹 狷 狷	猗 猗 猗 猗	狎 猴 狃 狃
	E0CE	6050	猥 狎 獎 猓	默 默 猗 獨	獐 獸 獵 獻	獺
王	E0CE	6050				珈 玳 玳
	E0DE	6060	玻 珀 珥 珥	珞 璠 琅 瑯	琥 珥 珥 珥	玳 玳 玳 玳
	E0EE	6070	瑁 瑜 瑩 瑰	瑁 瑪 瑤 瑾	璋 璞 璧 瓊	瓏 嬰 瓊
瓜	E13F	6120	瓠 瓣			
瓦	E13F	6120	甝 甝	甝 甝 甝 甝	甝 甝 甝 甝	甝 甝 甝 甝
	E14F	6130	甝 甝 甝			
甘	E14F	6130	甝			
生	E14F	6130		甝		
用	E14F	6130		甝		
田	E14F	6130		早 甝	畛 畛 畛 畛	畛 畛 畛 畛
	E15F	6140	畛 畛 畛 畛	當 疆 疇 疇	疊 疊 疊	
病	E15F	6140			疔	疔 疔 疔 疔
	E16F	6150	痲 疔 疔 疔	疽 疽 疼 疱	瘰 瘰 瘰 瘰	疔 疔 疔 疔
	E180	6160	痲 瘰 瘰 瘰	癩 癩 癩 癩	瘰 瘰 瘰 瘰	瘰 瘰 瘰 瘰
	E190	6170	瘰 瘰 癩 癩	癩 癩 癩 癩	癩 癩 癩 癩	癩 癩 癩 癩
	E19E	6220	癩			
夬	E19E	6220	夬 癸	發		
白	E19E	6220		皂 兒 飯	皐 皎 皓 皓	皙 皓
	E1AE	6230	皦 輝 皦			皦 皦
皿	E1AE	6230	盂	盂 盂 盂 盂	盂 盂 盂 盂	盂
目	E1AE	6230				眇 眇 眇
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
目	E1BE	6240	眀眩昵眞	眥眦昧眷	眸睇睚睨	眈睛睥睿
	E1CE	6250	睪睹睛瞋	睷睸瞞瞷	睹睺瞿瞿	瞿瞿瞿瞿
	E1DE	6260	羸羸			
矛	E1DE	6260	矜			
矢	E1DE	6260	矣	矮		
石	E1DE	6260		砑砑砑	砑砑砑砑	碎砑砑砑
	E1EE	6270	砑砑砑砑	砑砑砑砑	砑砑砑砑	砑砑砑砑
	E23F	6320	砑砑砑	砑砑砑	砑砑砑	砑砑砑
示	E23F	6320			祀	祠祇崇祚
	E24F	6330	祕祕祕祕	禊禊禊齋	禪禮禪	
禺	E24F	6330			禺	禺
禾	E24F	6330				秉秣秧
	E25F	6340	秬秠秠秠	稍稭植稠	稟稟稱稻	稟稟稟稟
	E26F	6350	稭穡穡穡	穡穡		
穴	E26F	6350		穹穿	窈窗窈窈	窈窈窈窈
	E280	6360	窈窈窈窈	窈窈窈窈		
立	E280	6360		讠	讠讠讠讠	讠讠讠讠
	E290	6370	竦竭廻			
竹	E290	6370	笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱
	E29E	6420	笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱
	E2AE	6430	笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱
	E2BE	6440	笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱
	E2CE	6450	笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱	笱笱笱笱
	E2DE	6460	笱笱	笱笱	笱笱	笱笱
米	E2DE	6460	糝糝	糝粳粳粳	糝粳粳粳	糝粳粳粳
	E2EE	6470	糝糝糝糝	糝糝糝糝	糝糝糝糝	糝糝糝糝
糸	E2EE	6470				紵紵
	E33F	6520	紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵
	E34F	6530	紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵
	E35F	6540	紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵
	E36F	6550	紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵
	E380	6560	紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵	紵紵紵紵
缶	E390	6570				缸缺
	E39E	6620	罇罇罇	罇罇		
网	E39E	6620		网罕	罔罟罟罟	罟罟罟罟
	E3AE	6630	罟罟罟罟	罟		
羊	E3AE	6630		羌羔羴	羴羴羴羴	羴羴羴羴
	E3BE	6640	羴羴			
羽	E3BE	6640	翊翠	翊翊翊翊	翊翊翊翊	翊
老	E3BE	6640				耆耆耆
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
耒	E3 CE	6650	耒 耘 耜 耜	耒 耜		
耳	E3 CE	6650		耿 耻	聊 聆 聒 聒	聚 聒 聒 聒
	E3 DE	6660	聒 聒 聒 聒	聒 聒		
聿	E3 DE	6660		聿 肄	肆 肅	
肉	E3 DE	6660			肱 肱	肚 肱 胃 肱
	E3 EE	6670	胛 胛 胛 胛	胃 胚 胛 脉	膀 肱 脛 脛	脛 肱 腋
	E4 3 F	6720	脛 脛 脾	胛 脛 胛 脛	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛
	E4 4 F	6730	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛
	E4 5 F	6740	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛	脛 脛 脛 脛
臣	E4 5 F	6740			臧	
至	E4 5 F	6740			臺 臻	
臼	E4 5 F	6740				臾 舄 舄 舄
	E4 6 F	6750	與 舊			
舌	E4 6 F	6750	舍 舐	舖		
舟	E4 6 F	6750		舩 舩 舩	舩 舩 舩 舩	舩 舩 舩 舩
	E4 8 0	6760	舩 舩 舩 舩	舩		
艮	E4 8 0	6760		艮		
色	E4 8 0	6760		艷		
艸	E4 8 0	6760		艸	艾 芍 芒 芫	艾 芻 芬 苾
	E4 9 0	6770	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E4 9 E	6820	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E4 A E	6830	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E4 B E	6840	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E4 C E	6850	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E4 D E	6860	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E4 E E	6870	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E5 3 F	6920	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
	E5 4 F	6930	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳
E5 5 F	6940	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	苳 苳 苳 苳	
虍	E5 5 F	6940			虍 虍 虍 虍	虍
虫	E5 5 F	6940				虱 虻 虻
	E5 6 F	6950	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩
	E5 8 0	6960	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩
	E5 9 0	6970	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩
	E5 9 E	6A20	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩
	E5 A E	6A30	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩
	E5 B E	6A40	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩	蚩 蚩 蚩 蚩
血	E5 B E	6A40			衄 衄	
行	E5 B E	6A40			衄 衄	衄 衄
衣	E5 B E	6A40				衫 袁
	E5 C E	6A50	衄 衄 衄 衄	衄 衄 衄 衄	衄 衄 衄 衄	衄 衄 衄 衄
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
衣	E5DE	6A60	袷 袷 衤 衤	裘 裙 裝 裏	褂 裊 裴 裊	裊 裊 裊 裊
	E5EE	6A70	袷 裊 裊 裊	裊 裊 裊 裊	裊 裊 裊 裊	裊 裊 裊 裊
	E63F	6B20	襦 襦 襦	襦 襦 襦 襦		
所	E63F	6B20			所 覃 覈 羈	
見	E63F	6B20				覓 覓 覓 覓
	E64F	6B30	覓 覓 覓 覓	覺 覺 覓 覓		
角	E64F	6B30			觚 觚 觚 觚	觚 觚
言	E64F	6B30				訃 訃
	E65F	6B40	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃
	E66F	6B50	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃
	E680	6B60	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃
	E690	6B70	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃
	E69E	6C20	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃	訃 訃 訃 訃
谷	E69E	6C20				谷 豁
	E6AE	6C30	谷			
豆	E6AE	6C30	豈 豈 豈	豈		
豕	E6AE	6C30		豕 豕 豕		
豸	E6AE	6C30			豸 豸 豸	豸 豸 豸
	E6BE	6C40	豸 豸 豸			
貝	E6BE	6C40	賤	賈 賈 賈 賈	賈 賈 賈 賈	賈 賈 賈 賈
	E6CE	6C50	賈 賈 賈 賈	賈 賈 賈 賈	賈 賈 賈 賈	賈 賈 賈 賈
赤	E6CE	6C50				赧
	E6DE	6C60	赧			
走	E6DE	6C60	走 走 走	走		
足	E6DE	6C60		趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾
	E6EE	6C70	趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾
	E73F	6D20	趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾
	E74F	6D30	趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾	趾 趾 趾
身	E74F	6D30			躬	躬 躬 躬
	E75F	6D40	躬 躬			
車	E75F	6D40	軛 軛	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛
	E76F	6D50	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛
	E780	6D60	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛	軛 軛 軛 軛
辛	E780	6D60	辛	辟 辣 辭 辯		
辵	E780	6D60			辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵
	E790	6D70	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵
	E79E	6E20	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵
	E7AE	6E30	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵	辵 辵 辵 辵
邑	E7AE	6E30		邨	邨 邨 邨 邨	邨 邨 邨 邨
	E7BE	6E40	邨 邨 邨 邨			
酉	E7BE	6E40		酉 酖 酖 酖		
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
酉	E7BE	6E40			酥酪酪醱	醋醉醱醢
	E7CE	6E50	醫醴醪醕	醴醴醴醴		
采	E7CE	6E50			釉釋	
里	E7CE	6E50			釐	
金	E7CE	6E50			鈔	鈞鈞鈞鈞
	E7DE	6E60	釵鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔
	E7EE	6E70	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔
	E83F	6F20	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔
	E84F	6F30	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔
	E85F	6F40	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔
E86F	6F50	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	鈔鈔鈔鈔	
門	E86F	6F50			門閉問	閔閉開閔
	E880	6F60	閔閔閔閔	閔閔閔閔	閔閔閔閔	閔閔閔閔
	E890	6F70	閔閔閔閔	閔閔閔閔	閔閔閔閔	閔閔閔閔
阜	E890	6F70		阡阨阮阨	陂陌陌陌	陷陝陝
	E89E	7020	陝陝陝	陝陝陝陝	隕隕隕隕	隱隕隕隕
隶	E8AE	7030	隶隸			
佳	E8AE	7030	佳睢	雉雍襍	雜霍睢	
雨	E8AE	7030			雹	霄霰霰霰
	E8BE	7040	霰霰霰霰	霰霰霰霰	霰霰霰霰	霰霰霰霰
青	E8CE	7050	靜			
非	E8CE	7050	靠			
面	E8CE	7050	甌甌	厖		
	E8DE	7060	鞋鞞鞞鞞	鞞鞞鞞鞞	鞞鞞鞞鞞	鞞鞞鞞鞞
韋	E8DE	7060			韋韋	
韭	E8DE	7060				韭齋齋
音	E8DE	7060				竟
	E8EE	7070	韶韶			
頁	E8EE	7070	頤頤	頤頤頤頤	頤頤頤頤	頤頤頤頤
	E93F	7120	頤頤頤頤			
風	E93F	7120		風颯颯颯	飄颯颯	
食	E93F	7120			餽	餽餽餽餽
	E94F	7130	餽餽餽餽	餽餽餽餽	餽餽餽餽	餽餽餽餽
	E95F	7140	餽餽餽餽			
首	E95F	7140		馘馘		
香	E95F	7140		馥		
馬	E95F	7140		馭	馮馮馮馮	駝駝駝駝
	E96F	7150	駝駝駝駝	駝駝駝駝	駝駝駝駝	駝駝駝駝
	E980	7160	駝駝駝駝	駝駝駝駝	駝駝駝駝	駝駝駝駝
骨	E980	7160				肝股骼髀
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F
骨	E990	7170	體 髑 髓 體			
髑	E990	7170		髑		
髑	E990	7170		髑 髑 髑	髑 髑 髑 髑	髑 髑 髑
	E99E	7220	髑 髑 髑	髑 髑 髑 髑		
髑	E99E	7220			髑 髑 髑 髑	髑 髑
髑	E99E	7220				髑
髑	E99E	7220				髑
鬼	E9AE	7230	魄 魁 魏 魁	魁 魁 魁		
魚	E9AE	7230		魴	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴
	E9BE	7240	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴
	E9CE	7250	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴
	E9DE	7260	魴 魴 魴 魴	魴 魴 魴 魴	魴 魴	
鳥	E9DE	7260		鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚
	E9EE	7270	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚
	EA3F	7320	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚
	EA4F	7330	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚
	EA5F	7340	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚	鸚 鸚 鸚 鸚
鹵	EA5F	7340	鹵	鹵 鹽		
鹿	EA5F	7340		鹿 塵	鹿 鹿 鹿 鹿	鹿 鹿
麥	EA5F	7340				麥 麩
	EA6F	7350	麥 麩 麩			
麻	EA6F	7350	麻			
黃	EA6F	7350		黃		
黍	EA6F	7350		黍 黏 黏		
黑	EA6F	7350			黠 黠 黠 黠	黠 黠 黠 黠
	EA80	7360	黠 黠 黠 黠			
箭	EA80	7360	箭	箭 箭		
鼈	EA80	7360		鼈 鼈	鼈	
鼓	EA80	7360			鼓 琴	
鼠	EA80	7360			鼠	鼠
鼻	EA80	7360				鼻
齊	EA80	7360				齊
齒	EA80	7360				齒
	EA90	7370	齒 齧 齧 齧	齧 齧 齧 齧	齧 齧 齧 齧	
龍	EA90	7370				龍
龜	EA90	7370				龜
龠	EA90	7370				龠
	シフト JIS	JIS	0 1 2 3	4 5 6 7	8 9 A B	C D E F

3. 拡張文字一覧

シフトJIS	JIS	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
ED3F	7920		纒	襖	鎡	銈	葩	悟	炆	昱	精	銀	昇	彌	丨	仡	任
ED4F	7930	佶	仔	但	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻	佻
ED5F	7940	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻
ED6F	7950	邵	厓	厲	劫	雙	吃	味	咩	哿	喆	垚	垚	垚	垚	垚	垚
ED80	7960	塚	增	塹	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔	夔
ED90	7970	岌	岑	岷	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧	崧
ED9E	7A20		恣	恣	悅	恣	恣	恣	恣	恣	恣	恣	恣	恣	恣	恣	捷
EDAE	7A30	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠	摠
EDBE	7A40	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡	晡
EDCE	7A50	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉	榉
EDDE	7A60	洄	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇	涇
EDEE	7A70	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆	瀆
EE3F	7B20		狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	狻	琮
EE4F	7B30	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤	瑤
EE5F	7B40	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪	礪
EE6F	7B50	粹	綠	緒	繪	罇	羨	羽	茁	苧	茂	菇	葦	葦	葦	葦	蕙
EE80	7B60	董	藟	薰	蕪	虻	虻	虻	虻	虻	虻	虻	虻	虻	虻	虻	蕙
EE90	7B70	譚	賸	賴	賢	趕	趕	軛	返	逸	逕	郎	都	鄉	鄧	鄧	鄧
EE9E	7C20		釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	釗	鉑
EEAE	7C30	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞	鉞
EEBE	7C40	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚	銚
EECE	7C50	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	隄	館
EEDE	7C60	醇	麟	高	鬪	紛	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪	鮪
EEEE	7C70		i	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x	┌	┌	▼	▼	▼

# 付録E

## 640Kバイトタイプシステムディスクの場合の準備

お買い上げいただいたシステムディスクが、640Kバイトタイプフロッピーディスク(5インチ2DD, 3.5インチ2DDなど)の場合は、日本語入力機能を利用するために、特別な準備が必要です。

参照：変換方式 ☞ 「第3部 第1章 変換方式」

このための操作は、AI 逐次変換または AI 連文節変換を利用する場合と、その他の変換方式(逐次変換, 連文節変換, 単文節変換)を利用する場合では異なります。

次にそれぞれの場合の準備方法を説明します。

### ● 逐次変換, 連文節変換, 単文節変換を利用する場合

逐次変換, 連文節変換, 単文節変換を利用する場合には、次の手順に従って操作を行ってください。

参照：システムに対する指定 ☞ 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」

①まず、システムに対して使用する変換方式を登録します。登録する方法は使用するシステムによって違います。本書「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」を参照してください。

②システムへの登録が終了したら、必ずシステムを再起動してください。再起動を行わないと指定した変換方式を利用することができません。

### ● AI 逐次変換, AI 連文節変換を利用する場合

AI かな漢字変換を利用する場合には、AI 辞書ファイルを固定ディスク上に作成する操作が必要です。

これは、1つの辞書ファイルが2枚のディスクに分かれて入っているためです。この2枚のフロッピーディスクに入った辞書ファイルを固定ディスク上に1つのファイルとして作成します。

操作は利用するシステムによって異なります。例として N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムを使用する場合と MS-DOS システムを使用する場合の操作方法を説明します。

操作を行うためには、次のものがが必要です。

1. システムディスク
2. 辞書ディスク 2枚
3. 固定ディスク

● N<sub>88</sub>-日本語 BASIC(86)システムの場合——backup .hd

- ① "backup .hd" をシステムディスクから load(読み込み)します。
- ② プログラムを実行します(キー, または "run - ③ 辞書ディスクを入れるドライブ番号を指定します。
- ④ 辞書ファイルを作成する固定ディスクのドライブ番号を指定します。
- ⑤ 辞書ファイル名をタイプします。
- ⑥ 辞書ディスク (No. 1) をドライブにセットします。  
 キーを押すと, 1 回目の転送が行われます。
- ⑦ 辞書ディスク (No. 2) をドライブにセットします。  
 キーを押すと, 2 回目の転送が行われます。
- ⑧ 確認のメッセージが表示されます。

操作は終了です。これで固定ディスク上に辞書ファイルが作成されました。

以降は、固定ディスクのドライブ番号を辞書ファイルの入っているドライブ番号として設定することにより、日本語入力機能を利用できるようになります。

次に一連の操作と表示されるメッセージの例を紹介します。

参照：辞書ファイルのドライブ番号の設定  「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」, 「第2部 6.1 辞書の切り換え」

注意：画面中で、白地の部分はユーザーがタイプする部分です。

```

load "backup.hd"            ①
Ok
run            ②

ファイルのバックアップを行います。

送り側のドライブ番号は ? 1            ③
受け側のドライブ番号は ? 3            ④
ファイル名は ? KUNAI.DIC            ⑤

ドライブ 1 に 01 枚目のフロッピディスクをセットして下さい  ⑥
KUNAI.DIC 1 -> 3

ドライブ 1 に 02 枚目のフロッピディスクをセットして下さい  ⑦
KUNAI.DIC 1 -> 3

別のファイルを転送しますか (y/n) ? n  ⑧

終了しました
Ok


```

## ● MS-DOS システムの場合——RESTORE

注意：MS-DOS システムのメニュー画面より「ディスク内全ファイルのコピー」を選択して、システムディスク内のすべてのファイルを固定ディスクにコピーする場合には、RESTORE コマンドによる操作は必要ありません。

## ① RESTORE コマンドを実行します。

コマンドの指定は、次のように行ってください。

```
RESTORE A : C :
```

```
      ↑ ↑
```

```
ドライブ名1 ドライブ名2
```

ドライブ名1：辞書ディスクを入れるドライブ名

ドライブ名2：辞書ファイルを作成する固定ディスクのドライブ名

## ②固定ディスクが準備されていることを確認します。

## ③辞書ディスク(#1)をドライブにセットします。



キーを押すと、1 回目の転送が行われます。

## ④辞書ディスク(#2)をドライブにセットします。



キーを押すと、2 回目の転送が行われます。

操作は終了です。これで固定ディスク上に辞書ファイルが作成されました。

以降は、固定ディスクのドライブ名を辞書ファイルの入っているドライブ名として設定することにより、日本語入力機能を利用できるようになります。

次に一連の操作と表示されるメッセージの例を紹介します。

参照：辞書ファイルのドライブ名の設定 「第3部 第3章 日本語入力機能を使うために」、  
「第2部 6.1 辞書の切り換え」

注意：画面中で、白地の部分はユーザーがタイプする部分です。

```
A> RESTORE A: C:  ①
再保存のための受け側ディスクを挿入してください。 ②
準備ができたらかれかキーを押してください。 
バックアップディスク 01 をドライブ A: に挿入してください。 ③
準備ができたらかれかキーを押してください。 
... ファイルは、XXXX-XX-XX にバックアップされました。 ...
... ドライブ A: からファイルを再保存します。 ...
ディスク番号は：01
#NECAI.SYS
      :
      :
A> █ ④
```



# 索引

## あ

アプリケーションソフトウェア	14
いろいろな文字のタイプ	46
英記号, 記号	42
英数字	42
エディタ	98, 106
エラーメッセージ (辞書の切り換え)	57
エラーメッセージ (単語削除)	65
エラーメッセージ (単語登録)	63

## か

ガイドライン	19
ガイドラインに達する読みがな	22
ガイドライン表示の ON/OFF	20
学習機能	85
カタカナ	44
カナ入力	23, 26
カナ入力の規則	113
環境設定	67
漢字コード	119
漢字のタイプ	25, 28
漢字の確定	28
漢字への変換	27
間接入力	22
キーシフト状態	19

## さ

先読み機能	86
次候補の表示	27
辞書とは	66
辞書の切り換え	55
辞書ファイル	107

辞書ファイル保守ユーティリティ	58
情報表示	69

## た

正しく変換されなかった場合	29
単語が辞書に登録されていない	29
単語削除	64
単語登録	58
単語登録の使い方	62
単語登録のポイント	63
単文節変換	78
逐次変換	74
直接入力	22
直接入力と間接入力の違い	38
同音異義語に変換された	29
特殊記号	52

## な

日本語入力キー操作一覧	17
日本語入力機能とは	3
日本語入力機能を使うために	87
日本語入力フロントエンドプロセッサ	14
日本語入力モードを出る	7, 21
日本語入力モードに入る	6, 21
日本語入力モード画面	19
日本語をタイプしてみる	5

## は

半角文字	44
表示選択	34
ひらがな	44
品詞 (単語登録)	61

部首選択	36
部首の読み	36, 52, 115
プロンプト	5
文節の区切りを修正	32
文節変換	78
変換	27
変換方式の種類	73

## ま

メモリ容量	107
モード先行指定	41
文字入力位置の指定	22
文字の修正	30

## や

ユーザー独自のシステムディスク	87
郵便番号から住所へ	50
読み(単語登録)	60
読みがなのタイプ	25
読みがなのタイプミス	30

## ら

略号から機関名へ	49
連続変換(単文節変換を用いた)	79
連文節変換	76
ローマ字入力	23, 26
ローマ字入力の規則	111

## A

AI かな漢字変換	84
AI 逐次変換	74
AI 連文節変換	76

## B

backup . hd	140
-------------	-----

BASIC	13, 21, 82, 88, 140
-------	---------------------

## C

CUSTOM	93, 101
--------	---------

## D

DICM	(4), 58
dicmen . n88	(4), 58

## J

JIS 16 進コード	45, 119
JIS 16 進コード変換	81

## K

KINPUT 命令	21
-----------	----

## M

MS-DOS	83, 92, 141
MS OS/2	100

## N

N <sub>88</sub> -日本語 BASIC(86)	13, 82, 88, 140
N <sub>88</sub> -BASIC(86)	13, 82

## R

RESTORE	141
---------	-----

## S

setup . n88	88
-------------	----

## U


usfont . n88	(4)
USKCGM	(4)

## 数字

1 バイトコード .....	45, 46
2 バイトコード .....	45, 46
640K バイトシステムディスクの場合 .....	139

## キー

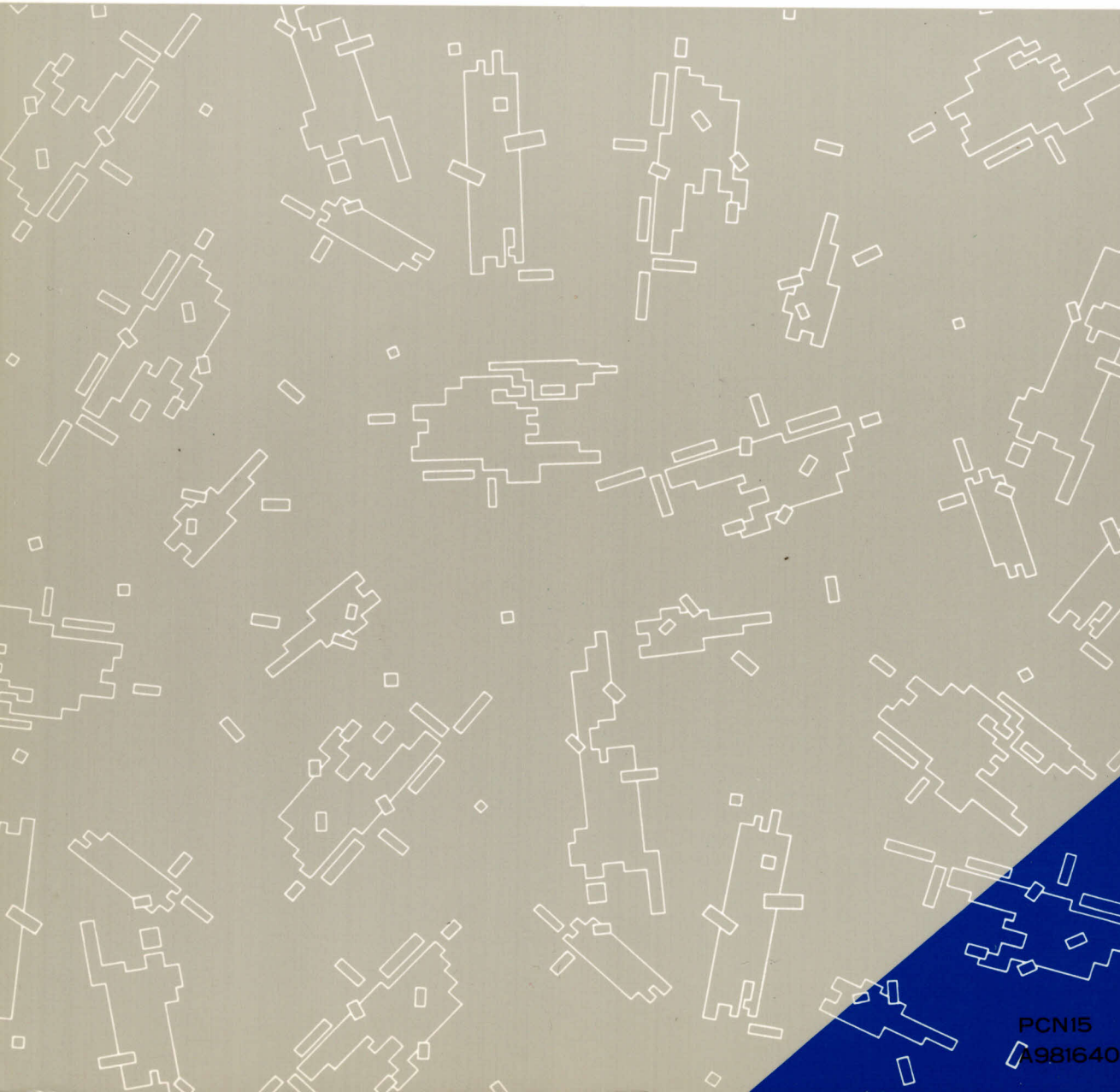
<b>BS</b> .....	30, 31
<b>CAPS</b> .....	23
<b>CLR</b> .....	30, 31
<b>CTRL</b> + <b>f・1</b> .....	36, 52
<b>CTRL</b> + <b>f・6</b> .....	20
<b>CTRL</b> + <b>XFER</b> .....	6, 7, 21
<b>DEL</b> .....	30, 31
<b>ESC</b> .....	29, 30, 31, 33
<b>HELP</b> .....	69
<b>HOME</b> .....	30, 31
<b>HOME CLR</b> .....	30, 31
<b>SHIFT</b> + <b>HOME CLR</b> .....	30, 31
<b>SHIFT</b> + <b>XFER</b> .....	34
<b>TAB</b> .....	30, 31

<b>XFER</b> .....	27, 28, 29
<b>f・1</b> .....	22
<b>f・2</b> .....	42
<b>f・3</b> .....	44
<b>f・4</b> .....	44
<b>f・5</b> .....	45
<b>f・6</b> .....	46
<b>f・7</b> .....	55
<b>f・8</b> .....	58
<b>f・9</b> .....	64
<b>f・10</b> .....	67
<b>カナ</b> .....	23, 26
スペースキー .....	28, 29
 (リターン) .....	28, 29
<b>,</b> .....	27, 28, 29
<b>.</b> .....	27, 28, 29
<b>→</b> .....	30, 31
<b>←</b> .....	30, 31
<b>↑</b> .....	27, 28, 29
<b>↓</b> .....	27, 28, 29





**NEC**



PCN15  
A981640